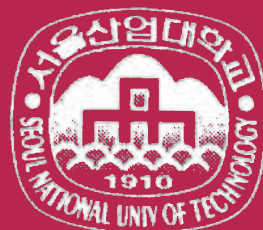


岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2010



LUND UNIV.



SEOUL NATIONAL UNIV.
OF TECHNOLOGY



GIFU UNIV.



GRIFFITH UNIV.



MOKPO UNIV.

岐 阜 大 学
GIFU UNIVERSITY

Summer School 2010 Report Contents

巻頭言 (Foreword)	1
----------------	---

第一部 夏期短期留学 (受入)

プログラムと日程 (Programs and Schedule)	3
日本語授業	10
日本事情講義	12
エクスカーション	16
工学部との交流授業	23
役員の先生方との昼食会	24
夏期短期留学参加者名簿	25
ホームステイファミリー	26
宿舎チューター	31
宿舎チューター名簿	42
サマースクール感想文	43
総括 (Summary)	56
アンケート集計結果	63

第二部 夏期短期留学 (派遣)

グリフィス大学	69
ソウル産業大学	89
短期留学 (サマースクール) 参加者アンケート	99
岐阜大学夏期短期留学 (サマースクール) 担当者一覧	107
編集後記	108

今年の日本の夏は、異常と思えるほどの暑さでした。岐阜市も例外ではなく、6月から8月にかけて猛暑が続きました。こうした最中、サマースクールが行われました。学生達が体調を崩さないか、いささか心配でしたが、学生達は元気にサマースクールに参加してくれ、全員優秀な成績で修了してくれました。今年度は、学生達の宿泊施設である「学外研」にエアコンディションが入ったのが大きかったものと思います。

今年度のサマースクールの参加者は、スウェーデン・ルンド大学の学生17名、韓国・ソウル産業大学の学生3名、韓国・木浦大学の学生3名、計23名でした。カリキュラムは、これまでと同様きわめて多彩なものでした。日本語の授業のほか、日本事情講義1～5（能の実演、相撲、日本の伝統文化等）、イクスカーション（大相撲観戦、美濃、土岐、および上高地・高山・白川郷）、郡上八幡でのホームステイ、役員との昼食会、工学部数理デザイン工学科との交流会等でした。

学生達は、こうしたプログラムを通して、日本語を上達させたばかりでなく、日本の自然や歴史・社会・文化を学び、体験し、多くの人々との交流を経験したのではないのでしょうか。これは、大きな宝で

す。そして、日本をさらに深く知りたいと考えるようになったのではないのでしょうか。サマースクールに参加してくれた学生が、岐阜大学サマースクールの経験を活かして、日本と母国とのさらなる友好の架け橋になってくれることを希望します。

今年度のサマースクールを成功裏に終えることができたのは、何よりも公私にわたってご指導いただいた留学生センターの諸先生ならびに留学生支援室をはじめとする事務の方々のお陰です。また、非常勤講師の先生方は、熱心に日本語の授業を提供してくださいました。チューターの役割も忘れることができません。彼らは、外国人学生達と年齢が近いこともあるのでしょう。我が身を惜しまず、公私にわたり学生達を支援してくれました。さらに、森学長はじめ、理事・副学長の諸先生からは、昼食会への参加、修了式への出席等、多大なご支援をいただきました。

こうした方々の支援や助力がなかったならば、サマースクールは、無事に、しかも大きな成果を持って終わらなかったでしょう。サマースクールに関わってくださったすべての皆様に、心から感謝の意を表したいと思います。



Message from Koji Kobayashi, Director, International Student Center

The 2010 Japanese summer was abnormally hot. Gifu City was no exception—the city experienced a heat wave between June and August. During this sweltering hot period, the summer school was held. I was a little worried about that the participating students might fall ill, but they all completed the summer school program successfully, keeping in good shape, probably mainly because Gakugaiken, an accommodation facility for participating students, was fitted with air conditioning this year.

A total of 23 students participated in this year's summer school, comprising 17 from Lund University (Sweden), three from Seoul National University of Technology (Korea) and three from Mokpo National University (Korea). As in past years, the program this year was extremely diverse—it included Japanese language classes; lectures on Japanese studies 1–5 (a *noh* demonstration, *sumo* wrestling, traditional Japanese culture, etc.); excursions (watching a grand sumo tournament, an excursion to Mino and Toki, and an excursion to Kamikochi, Takayama and Shirakawa-go); a homestay in Gujo Hachiman; a luncheon with the university officers; and a social gathering with students and teaching staff of the Department of Mathematical and Design Engineering of the Faculty of Engineering.

I believe that through this program, the participating students not only improved their Japanese, but also learned about Japanese nature, history, society and culture, as well as interacting with many local people. Such experiences can develop into

great assets for the students. I have a feeling they have developed a desire to understand more about Japan through this program. It is my hope that the participating students will help promote friendship between Japan and their home countries in the future.

I attribute the success of this year's summer school mostly to the efforts of the teaching staff of the International Student Center, who guided the participating students both on and off the campus, and administrative staff of various divisions, such as the Student Exchange Support Office. I would also like to thank the part-time lecturers, who taught the students Japanese language with great enthusiasm. The roles of the tutors were also vital to the success of the program. These tutors, who were close in age to the overseas students, devotedly supported the students on and off the campus. Finally, I am particularly grateful to President Hideki Mori, and Vice Presidents and Directors for providing such great support, including attending a luncheon with the students and the certificate awarding ceremony.

Without all these people's support and cooperation, the summer school could not have been safely and successfully completed. I would like to extend my sincere gratitude to all the people involved in the summer school.

第一部 夏期短期留学（受入）

プログラムと日程

留学生センター・准教授 土 谷 桃 子

岐阜大学サマースクール(受入、以下略)は、1988年度の開始以来1年も途切れることなく、今年度23回目を重ねるに至った。プログラム内容、日程とも昨年度を踏まえ、微調整を加えた。

8週間コースは、6月7日(月)から開始し、9日(水)に8週間コース参加学生17名(スウェーデン・ルンド大学)の開講式及びガイダンスを行なった。日本語授業等の実際のプログラムは、翌10日(木)から開始である。後半に参加する4週間コースは、6月30日(水)に開講式及びガイダンスを行ない、6名(韓国・ソウル産業大学3名、同・木浦大学3名)がプログラムに合流した。よって今年度の参加学生は、合計23名となった。

プログラムには、以下の内容が盛り込まれた。後掲の日程表を参照願いたい。

1. 日本語授業：毎週月～木曜、1日2コマ(8:50～10:20, 10:30～12:00)
2. 日本事情講義：全5回実施(講義内容：能の実演6/22, 岐阜の自然・産業・生活7/1, 相撲7/13, 能と狂言7/14, 狂言の実演7/20)
3. エクスカーション：美濃6/17, 土岐7/5, 相撲7/15
4. 旅行：郡上7/9～12, 上高地・高山・白川郷7/22～23
5. その他：開講式、ガイダンス、工学部数理デザイン工学科フレッシューズセミナーとの交流会(6/16), 役員との昼食会(7/1), 歓迎会(6/9), まとめの会(7/28), 修了式・歓送会(7/28)等

それぞれの項目について、説明を加える。

日本語授業

日本語授業については、今年度大きな変更を加えた。筆者は、2010年3月にルンド大学に出張し、同校の日本語担当教員との意見交換の機会を持った。その席で、せっかく2ヶ月日本で学ぶのであれば、もう少し日本語力が伸びてもいいのではないかとの意見が出た。それを踏まえて、今年度は授業内容・

形態を変更した。

詳しくは、後掲の「日本語の授業」にあるが、大きく2つの柱を立てた。1つは、会話につながる初級終了から中級前半の文法の学習、もう1つはグループで調べて発表するプロジェクト型授業である。教科書も昨年度までの『中級へ行こう』から、『J BRIDGE』(凡人社)に変更した。

授業は、留学生センター専任教員2名、非常勤講師6名、計8名が担当した。

毎年度手配に苦勞する授業教室は、今年度も容易には手配できず、最終的に有償で学内共同利用オープンラボスペースを借りることとなった。来年度は、留学生センター専用教室が得られる予定であるため、教室確保の苦勞は今年度限りになることを切に希望する。

日本事情講義

日本事情講義は、今回は回数を5回に抑えた。本サマースクールが大切にしている「本物に触れる」講義は、今年度も講師の先生方のご協力を得て、実施することができた。「能の実演」については、観世流シテ方味方團先生・同田茂井廣道先生、「狂言の実演」については、大蔵流狂言方山口耕道先生・同茂山良暢先生にお越しいただいた。

その他の3回の講義は、エクスカーションや旅行の予習としての講義であった(「岐阜の自然・産業・生活」、「能と狂言」、「相撲」)。この3回の講義の担当者は、留学生センター長とセンター所属教員2名であり、センター以外の教員の講義を受ける機会が今年度についてはなかった。これは、メリット・デメリットがそれぞれあろう。メリットは、留学生に接することに馴れている教員による講義





は、日本語がコントロールされており、学生が理解しやすい点である。デメリットは、幅広さが教員面でも内容面でも狭まる点である。今年度の実績を踏まえて、来年度以降は考えたい。

エクスカースョン・旅行

これらについては、岐阜大学ならではの「地域密着型志向」で実施している。昨年度から大きな変更は加えず、以下の内容を提供した。

美濃エクスカースョン：午後からの日帰りプログラムで、浴衣の着付けと和太鼓体験を実施した。

土岐エクスカースョン：午後からの日帰りプログラムで、陶芸体験（轆轤及び絵付け）を実施した。

郡上プログラム：毎年度大好評の郡上プログラムは、今年度も郡上八幡国際友好協会はじめ郡上の皆様のご協力を得て、3泊4日で実施した。

上高地・高山・白川郷旅行：岐阜県と隣県を回る1泊旅行を昨年度から盛り込んでいる。

大相撲名古屋場所観戦：相撲協会関連の数々の問題により、7月初旬まで名古屋場所の開催が危ぶまれたが、無事開催されることとなり、例年通り観戦した。問題を抱えた団体による興行を見せることに、多少の懸念がなかったわけではないが、相撲がいわゆる日本文化の1つであることには変わりはないと判断した。

地域密着志向を打ち出す上で、地域の皆様のご協力はなくてはならないものである。今年度も、美濃、土岐、郡上の自治体やボランティア団体の皆様には



大変お世話になった。心よりお礼申し上げます。

その他

工学部数理デザイン工学科フレッシュャーズセミナーとの交流会は、3回目となった。昨年度までは、ルンド大からの参加学生が来日前にフレッシュャーズセミナー学生とメールを交換するメールプロジェクトと連動させることを意図していたが、今年度は、当日の交流に主眼を置いた活動にした。

昨年度に引き続き、役員の先生方とサマースクール参加学生との昼食会を実施した。サマースクール参加学生と先生方が直接に触れ合う貴重な機会である。

昨年度、事情により実施できなかったまとめの会だが、今年度は学生のフィードバックを丁寧に得るべく実施した。筆記アンケート結果と合わせて、この会で得られた学生の意見は、来年度以降のサマースクールに有益に生かしていく所存である。

今年度は、梅雨の7月中旬過ぎまでは豪雨が頻発し、梅雨明け以降は連日35℃を越える猛暑日となった。急激な気候と気温の変化に体調を崩す学生もあり、異国で暮らす参加学生の疲労や体調も考慮したプログラムを組まなければならないと再確認した。充実した内容で、なおかつ学生に無理をさせないものを構築していく必要がある。



Programs and Schedule

Momoko Tsuchiya, Associate Professor, International Student Center

The Gifu University Summer School has been annually held since its establishment in 1988, making this year its 23rd anniversary. Although this year's programs and schedule were based on those of last year, they were slightly changed for further improvement.

An eight-week course commenced on June 7 (Mon.), followed on June 9 (Wed.) by its course opening ceremony and guidance session for the 17 participating students (from Lund University, Sweden). The actual programs, including Japanese language classes, began on June 10 (Thur.). Meanwhile, a four-week course of the latter half of the summer school began on June 30 (Wed.) with its course opening ceremony and guidance session for six participating students (three from Seoul National University of Technology, Korea, and three from Mokpo National University, Korea). In this regard, a total of 23 students participated in this year's summer school.

The programs included the following:

1. Japanese language classes: two classes per day, every Mon. — Thurs. (8:50–10:20, 10:30–12:00)
2. Japanese culture studies classes: a total of five classes (subjects: *Noh* drama live performance, Jun.22; nature, industries and life of Gifu, Jul. 1; *sumo*, Jul.13; *Noh* drama and *Noh* farce, Jul.14; and *Noh* farce live performance, Jul.20)
3. One-day excursions: Mino, Jun.17; Toki Jul. 5; and Nagoya to watch *sumo* matches, Jul.15)
4. Trips: Gujo, Jul. 9–12; and Kamikochi, Takayama, and Shirakawa-go, Jul.22–23
5. Other programs: course opening ceremonies, guidance sessions, interaction session with the students of the Fresher Seminar of the Department of Mathematical and Design Engineering of the Faculty of Engineering (Jun.16), lunch with senior staff (Jul. 1), welcome party (Jun.

9), summary session (Jul.28), course closing ceremony & farewell party (Jul.28), etc.

For a detailed schedule, see the itinerary given below.

The following gives the details of the programs.

Japanese Language Classes

The Japanese language classes underwent considerably change this year. In March 2010, I visited Lund University and exchanged opinions with the university's Japanese language faculty staff. They said that the opportunity to study Japanese for as many as two months in Japan should be utilized more effectively to further improve the participating students' Japanese fluency. This opinion resulted in the changes to the programs and forms of this year's Japanese language classes.

Emphasis was mainly placed on the following two themes: studying conversational grammar that would be usually dealt with between the end of a beginners' course to the former half of a middle course, as well as featuring project-style classes in which the students formed a group, conducted research and gave presentations. As the textbook used for the classes, *J BRIDGE* (Bonjinsha Inc.) replaced "Chukyu e iko (Go on to the Middle Course)", which had been used until last year.

The classes were delivered by a total of eight instructors: two full-time instructors at the International Student Center and six part-time instructors.

As in previous years, the International Student Center had difficulty in securing classrooms for the Japanese language classes again this year. After all, the center was able to use an open laboratory space, Gifu University's public space, for a fee. Since it is planned that rooms exclusively for the International

Student Center will be provided next year, I sincerely hope that this will be the last year when the center faces such a difficulty.

Japanese Culture Studies Classes

The number of Japanese culture studies classes was reduced to five this year. Thanks to the cooperation of excellent instructors, the classes were successfully held with a focus on “experiencing the genuine,” which the summer school highly values. Invited as instructors were Mr. Madoka Mikata and Mr. Hiromichi Tamoi, both *shite-kata* (principal actors) of the Kanze School, for the *Noh* drama live performance class, as well as Mr. Kodo Yamaguchi and Mr. Yoshinobu Shigeyama, both *kyogen-kata* (kyogen performers) of the Okura School, for the *Noh* farce live performance class.

The other three classes (of the nature, industries and life of Gifu, the *Noh* drama and *Noh* farce, and *sumo*) were held as lectures for the preparation of one-day excursions and trips. These three lectures were given by the center’s director and two staff members. This means that this year’s students did not take lectures provided by instructors other than the center’s staff, which had both advantages and disadvantages. On the positive side, since the center’s staff members were accustomed to delivering classes to international students, they knew the appropriate words and phrases to be used in such classes, helping the students to understand the classes more easily. However, a bad point of only having lectures by the center’s staff was that it narrowed the scope of opportunities for the students to study a wider variety of topics from a wider variety of experts. For the programs of the Japanese culture studies classes next year and in subsequent years, this point should be reexamined based on this year’s results.

One-day Excursions and Trips

These were conducted based on Gifu University’s characteristic of emphasizing the connection with the local area. Very few major changes were made to last year’s programs. The details of the ex-

cursions were as follows:

—One-day excursion to Mino: afternoon program of wearing kimono and playing traditional Japanese drums

—One-day excursion to Toki: afternoon program of creating ceramics (making ceramic works on wheels and painting the works)

—Trip to Gujo: the trip to Gujo, which has been hugely popular among the participants every year, was successfully conducted again this year, largely thanks to the cooperation of the Gujo-Hachiman International Friendship Association and the public of Gujo. The trip last four days and three nights.

—Trip to Kamikochi, Takayama and Shirakawago: overnight trip in and around Gifu Prefecture, which has been introduced to the summer school’s programs since last year

—Observing the Nagoya Grand Sumo Tournament: there was concern until early July that the tournament would not be held, due to various scandals relating to the Nihon Sumo Kyokai. But the tournament was held after all, and, as in past years, the participating students were able to observe the tournament. Although there was a certain level of concern regarding the observation of a tournament held by an organization marred by scandals, it was finally judged that sumo was still a form of Japanese culture.

Others

It was the third time for an interaction session to be held with students of the Fresher Seminar of the Department of Mathematical and Design Engineering of the Faculty of Engineering. Until last year, the focus was placed on the link with the e-mail exchange project, in which the Lund University students who were to participate in the summer school exchanged e-mail with the Fresher Seminar students prior to their visit to Japan. This year, the emphasis was set on activities conducted on the day of the interaction session.

As was the case last year, a lunch party was held for senior staff and the summer school students. This was a valuable opportunity for the sen-

ior staff and students to talk with each other directly.

A summary session, which was not conducted last year for various reasons, was held this year to obtain detailed feedback from the students. A wide range of opinions were provided from the students at the summary session, and also through a questionnaire. These opinions need to be utilized for better programs to be delivered by the summer school next year and in subsequent years.

This year, throughout the rainy season until around the middle of July, it often rained torrentially. Following the end of the rainy season, the temperatures were above 35°C almost every day. Due to the rapid temperature and weather changes, some students fell sick, reminding me once more that it was essential to establish programs with consideration given to the fatigue and physical condition changes that might be experienced by students from foreign countries. It is necessary to create programs that are substantial but are not burdensome to the students.

2010年度夏期短期留学（サマースクール）受入日程

期 間 8週間コース [2010年6月7日（月）～8月3日（火）]

4週間コース [2010年6月30日（水）～8月3日（火）]

参加人数 23名 [内訳……ルンド大学 17名, ソウル産業大学 3名, 木浦大学 3名]

6月7日（月） 学外研修施設 入居手続き	6月8日（火） 学外研修施設 入居手続き	6月9日（水） 8週間コース開始 開講式、ガイダンス 歓迎会	6月10日（木） 日本語授業 8：50～10：20 10：30～12：00	6月11日（金）	6月12日（土） フリー	6月13日（日） フリー
6月14日（月） 日本語授業	6月15日（火） 日本語授業	6月16日（水） 日本語授業 数理デザイン交流会 13：00～15：00	6月17日（木） 日本語授業 エクスカーショント 「美濃」	6月18日（金）	6月19日（土） フリー	6月20日（日） フリー
6月21日（月） 日本語授業	6月22日（火） 日本語授業 日本事情講義1 「能の実演」 13：30～15：00	6月23日（水） 日本語授業	6月24日（木） 日本語授業	6月25日（金）	6月26日（土） フリー	6月27日（日） フリー
6月28日（月） 日本語授業	6月29日（火） 日本語授業	6月30日（水） 日本語授業 4週間コース開始 開講式・ガイダンス	7月1日（木） 日本語授業 役員との昼食会 12：10～13：00 日本事情講義2 「岐阜の自然・産業・生活」 13：30～15：00	7月2日（金）	7月3日（土） フリー 4週間コース学生 歓迎会	7月4日（日） フリー
7月5日（月） 日本語授業 エクスカーショント 「土岐」	7月6日（火） 日本語授業	7月7日（水） 日本語授業	7月8日（木） 日本語授業	「郡上プログラム」 郡上のホストファミリー宅で7月12日（月）まで		
7月12日（月）	7月13日（火） 日本語授業 日本事情講義3 「相撲」 13：30～15：00	7月14日（水） 日本語授業 日本事情講義4 「能と狂言」 13：30～15：00	7月15日（木） 日本語授業 エクスカーショント 「大相撲」	7月16日（金）	7月17日（土） フリー	7月18日（日） フリー
7月19日（月） フリー （海の日）	7月20日（火） 日本語授業 日本事情講義5 「狂言の実演」 13：30～15：00	7月21日（水） 日本語授業	7月22日（木） エクスカーショント 「上高地・高山・白川」	7月23日（金）	7月24日（土） フリー	7月25日（日） フリー
7月26日（月） 日本語授業	7月27日（火） 日本語授業	7月28日（水） まとめの会 修了式・歓送会	7月29日（木） 学外研修施設大掃除	7月30日（金） 学外研修施設退居	7月31日（土） 学外研修施設退居	8月1日（日） 学外研修施設退居
8月2日（月） 学外研修施設退居	8月3日（火） 学外研修施設退居					

2010 Gifu University Summer School Schedule

8-week course 2010/6/7～8/3 4-week course 2010/6/30～8/3
 23 students 17 students (Lund University, Sweden)
 3 students (Seoul National University of Technology, Korea)
 3 students (Mokpo University, Korea)

June 7 Mon	June 8 Tue	June 9 Wed	June 10 Thu	June 11 Fri	June 12 Sat	June 13 Sun
		8-week course starts Opening Ceremony and Guidance Welcome Party	Japanese Classes start 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)		Free	Free
June 14 Mon	June 15 Tue	June 16 Wed	June 17 Thu	June 18 Fri	June 19 Sat	June 20 Sun
Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 【Exchange Class】 with Japanese Students (13:00～16:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 【Excursion 1】 Mino City (Yukata and Wadaiko)		Free	Free
June 21 Mon	June 22 Tue	June 23 Wed	June 24 Thu	June 25 Fri	June 26 Sat	June 27 Sun
Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 【Lecture 1】 Noh Demonstration (13:30～15:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)		Free	Free
June 28 Mon	June 29 Tue	June 30 Wed	July 1 Thu	July 2 Fri	July 3 Sat	July 4 Sun
Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 4-week course starts Opening ceremony and Guidance	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 【Lunch Party】 (12:10～13:00) 【Lecture 2】 About Gifu area (13:30～15:00)		Free 【Welcome Party】 for 4-week course students	Free
July 5 Mon	July 6 Tue	July 7 Wed	July 8 Thu	July 9 Fri	July 10 Sat	July 11 Sun
Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 【Excursion 2】 Toki City (Pottery)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	【Gujo Program】 Cultural Experiences and Homestay (July 9 ～ 12)		
July 12 Mon	July 13 Tue	July 14 Wed	July 15 Thu	July 16 Fri	July 17 Sat	July 18 Sun
【Gujo Program】	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 【Lecture 2】 About Sumo (13:30～15:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 【Lecture 3】 About Noh and Kyogen (13:30～15:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00) 【Excursion 3】 Sumo Watching		Free	Free
July 19 Mon	July 20 Tue	July 21 Wed	July 22 Thu	July 23 Fri	July 24 Sat	July 25 Sun
Free (National Holiday)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	【Trip to Kamikochi, Takayama and Shirakawa-go】		Free	Free
July 26 Mon	July 27 Tue	July 28 Wed	July 29 Thu	July 30 Fri	July 31 Sat	August 1 Sun
Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	Japanese Classes 1 st (8:50～10:20) 2 nd (10:30～12:00)	【Feedback Meeting】 (15:00～16:00) 【Closing Ceremony】 【Farewell Party】				
August 2 Mon	August 3 Tue					
	Course ends					

日本語授業

留学生センター・准教授 橋 本 慎 吾

日本語コースのコーディネートを担当するようになって昨年度で5年目が過ぎ、参加学生や日本語担当の先生方の意見を受けて、日本語授業の刷新をすべく検討を重ねてきた。

今年の3月にサマースクールコーディネーターの土谷先生がルンド大学を訪問することになり、よい機会なのでルンド大学の先生や学生から日本語授業に対する要望を聞いていただくことにした。その中で出た意見は概ね次のようなものであった。

- ・従来授業で使っている『中級へ行こう』で学ぶ文法より、少し高いレベルの文法学習が必要である。
 - ・過去に岐大でCDを使った授業が行なわれたことがあり、「CDで学ぶ」というところがルンドでの日本語教育にはない教育方法で、学生の評判がよかった。
 - ・プロジェクトワークのような授業があるとよい
- こうした意見を踏まえ、今年度の授業をどのように進めるかを考えた。

まずメイン教科書であるが、もともと『中級へ行こう』を使っていたのは初級で学んだ文法を使いこなせるようになることを授業目標にしていたからであり、初級の文法を中心とした応用練習のできる教科書として選定したが、サマースクールに参加する学生にとっては少し易しすぎる内容であったので、同様のレベルをターゲットとしながら、コースが進む中で少し高いレベルに到達できる教科書考えた。また、「CDで学ぶ」という方法の新しさを加えるということもあり、今期は『Jブリッジ』という教科書を使うことにした。この教科書の目的や文法項目は『中級へ行こう』とだいたい同じであるが、他の文法項目との連動を意識して聴解教材が作られていて、会話分のブランクに聞き取った言葉を書いていくディクテーション方式で授業が進んでいく方法がサマースクールの授業にあっていると考え、この教科書を採用することにした。

この教科書は学生達にも概ね好評で、「たくさん聞いて考えるのが面白い」という意見があった。ひ



とつ気になったのは、この教科書のCDの発音であった。自然なスピードで収録されていてとても使いやすいのであるが、男性の発話が少し碎けていて、例えば「置いてある」を「おいたる」と発音しているところがあり、耳のいい学生ほど音をそのまま聞き取るので、「先生、“かったーる”は何ですか？」という質問が出たり（これは「買ってある」のくだけた発音）した。まだ自分の持っている文法知識で発音の不備を修正するほどには日本語文法に習熟していないので、これは致し方ないと思う。

次にプロジェクトワークを取り入れることを考えた。週4日ある授業の中で、毎日少しずつ進めるか、特定の曜日を全て使うかを検討した結果、毎日の授業の最後の30～45分で少しずつ進めて行くことにした。教師と話しながら、教室にある資料を使いながら進めていけるのではないかと考えた。

今回のプロジェクトワークで取り上げたトピックは以下の通りである。

- 「みんなで作ろうプロジェクト」実施項目
(1) スウェーデンの町・スウェーデンの有名人を紹介する

来日直後なので、自分達がよく分かっている自国の事柄について日本語で紹介してもらうことにした。



（2）日本文化・日本人について調べる

来日目的の多くが「日本文化を学ぶ」ことであることから、それぞれの学生が日本や日本文化、日本人について何がしかの知識を持っていると考え、それを日本語で紹介してもらうことにした。

（3）新しい言葉や文化について調べる

日本での生活にも慣れてきたところで、学外研にいる日本人チューターや大学内の日本人学生などにインタビューして、今の日本について調べてみる。

（4）母国を日本人に紹介する

近く郡上八幡でのホームステイがある時期に合わせ、ホストファミリーなどに自国を紹介するための準備として設定した。

（5）日本を母国の人に紹介する

留学のまとめとして、これまでの日本での生活や学習の中で知った事柄について説明してもらうことにした。

また、8週間コースの初日と、4週間コースの初日は、「他己紹介」（自分を紹介するのではなく、誰かにインタビューをしてその人を紹介する）というタスクを行なった。

昨年度までの学生も、こういった創造的学習に大変興味を示していたので、今回の授業にも皆強い関心を示し、一所懸命取り組んでくれた。それぞれの発表も見事だった。ひとつ想定外だったのは、こちらが想定した準備時間以上の準備を学生達が行ったことであった。今期の学生は皆大変真面目で、上記の課題を仕上げるために疲れ果てるほどに膨大な時間を費やした。それは一緒に生活している学外研のチューターから「みんな夜遅くまで勉強してた」と

報告があるほどであり、こちらとしてはそこまで真摯に取り組んでくれるとは思っていなかったのが、驚きとともに戸惑いも感じた（かといって「もう少し手を抜いていいよ」と指導するのもどうかと思う）。結果的に上記の課題は数が多すぎたということになる。

また、上記の課題のためにスウェーデンと韓国の旅行ガイドや、日本の新しい文化について短く解説した雑誌記事などを準備したが、最近はやはり調べ物はインターネットで行なうので、こうしたものはほとんど使われなかった。しかし今回の教室や、彼らが住む学外研にはインターネット環境がなく、インターネットをするには大学の総合情報メディアセンターに行かなければならなかった。その結果、調べ物に十分な時間を費やすことができず（通学バスの関係で宿舎に帰る時間が決まっていたから）、更に午後に見学や講義などが入ると調べ物自体ができず、学生達はきちんとしたものを作りたいのにそれができない状況にイライラしていた。これはコーディネートに問題があったと思う。

サマースクール最終日に実施したアンケートでは、プロジェクトワークは概ね好評であったが、来年度以降も継続するのであれば、課題の数や内容を考慮するとともに、ネット環境を整えるか、準備の時間を確保するといった対策を立てなければならぬので、これから少しずつ準備を進めていきたいと考えている。



日本事情講義

日本事情講義①

能の講義・実演

留学生センター・准教授 土谷 桃子

今年度も、観世流シテ方味方團先生・田茂井廣道先生に能の講義・実演を実施していただいた。今までに重ねた回数は6回となり、先生方には例年とは違う趣向を盛り込んでいただいたり、参加者がサマースクール参加学生以外にも広がったりと、更に充実した講義となった。

今年度の能の講義・実演は、6月22日（火）、13：30～15：00、学内施設柳戸会館の和室（32畳）にて行なった。柳戸会館は改装が済んだばかりで、和室にも張り替えられた畳の新しい香りが漂っていた。参加者は、8週間コース参加の Rund 大生17名のほか、留学生センターの日本語非常勤講師1名、サマースクール参加学生と共に宿舎で過ごしているチューター（岐大の日本人学生）3名、1年間交換留学で日本語・日本文化を学んでいる日本語・日本文化研修留学生7名であった。今回初めて宿舎チューターに参加を呼びかけたが、能の講義と実演は、日本人学生にとっても貴重な体験となったであろう。

講義では、まず初めに、味方先生と田茂井先生による「石橋」の舞が披露された。参加者は膝をそろえて静かに、そして圧倒されつつ鑑賞した。次に、



田茂井先生が能楽の600年の歴史について説明され、観阿弥・世阿弥の名前は是非覚えてほしいとのお話もあった。講義は、味方先生による、実物を見せながらの能面の紹介に続き、この能面は男性か女性か、年齢は何歳くらいか、といった先生からの問いに対して学生が首をかしげながら答えるという楽しいやり取りがあった。

続いての実技の部分では、田茂井先生による謡の指導、味方先生による所作の指導があった。「高砂」については、田茂井先生みずからが謡いやすいようにと工夫された資料をお持ちくださり、ありがたく参加者に配付させていただいた。能の歩き方、泣き方、笑い方の実習では、参加者は慣れない姿勢に苦勞しながらも、楽しげに体を動かしていた。

次いで、毎年参加者の目を奪う能装束の着付けとなった。モデルのマティルダさんに、先生方が華麗な手さばきで六条御息所の装束を着付けていく。昨年度までは、若く可愛い女性の装束だったのを、今年度は趣向を変えて嫉妬に狂う女性を見せてくださった。本物の人毛で作られた鬘や、迫力ある般若の面に、悲鳴に近いような声を上げながら、皆興味津々でカメラ片手にモデルに迫った。

昨年度も感じたことだが、この講義は、見る・聞くだけでなく、参加する日本文化講義として、ますます価値が高まったと実感した。同時に楽しさも高まっているようで、講義後宿舎に帰るバスの中で、サマースクール参加学生が「高砂」を謡っていたというほほえましい様子も耳に入っている。



本講義に関連して、先生方には今年度も格別のご配慮をいただいた。7月24日（土）に京都観世会館にて開かれる「四季彩能～京八景～」に、希望者を無料招待して下さるとのお申し出をいただいた。希望者を募ったところ、希望者数はルンド大生16名、4週間コースに合流した韓国ソウル産業大生3名、同じく木浦大生3名、日本人チューター5名の総勢27名にのぼった。残念ながら、当日体調不良で行けなかった学生もいたが、このような貴重な機会を与えてくださった先生に、心より感謝申し上げます。

今後とも岐阜大学サマースクールの大切な宝として、味方先生・田茂井先生にご講義と実演をしていただければ何よりも心より思っている。また、今回チューターである岐大生が参加したことをきっかけに、日本人学生にも日本の伝統文化を体感する機会を提供したいという想いが強くなっている。サマースクールが、サマースクールに留まらない可能性を秘めていることを認識した、今年度の講義であった。



日本事情講義②

岐阜の自然・産業・生活

留学生センター長・教育学部教授 小林 浩二

今年度の私の講義には、つぎの2つの内容を盛り込みました。ひとつは、地形図（2.5万分の1及び5万分の1の地形図）を利用して、私たちの大学のある岐阜市とサマースクールの学生がホームステイをする郡上市（旧郡上八幡町）の読図（地図に盛り込まれている情報を読み取ること）をすることでした。もうひとつは、岐阜県の地域的特色を説明することでした。

前者では、地形図から、岐阜大学及び学外研（学生達の宿泊場所）の位置・海拔高度、岐阜大学から学外研までの距離、金華山の海拔高度を読み取らせるとともに、岐阜市の立地の特色や発展状況、岐阜市の市街地が長良川によって南北に分断されていること、南北に長い市街地が形成されていること等を理解させました。また、旧郡上八幡町では、旧郡上八幡町の立地の特色、八幡城、サマースクールの学生が訪れる八幡小学校、伝統的な古い町並みの残っている区域を特定させました。

後者では、岐阜県が海拔0メートル地帯から、3,000メートルを越す山地まで存在すること、こうしたなかで、きわめて多様な生業や生活様式がみられることを、スライド、統計資料を使って解説しました。

今年の講義では、学生達に作業を課し、また、岐阜県の特徴を示す多くのスライドを用いました。さて、その成果はどうだったのでしょうか？



日本事情講義③

相 撲

留学生センター・准教授 橋本 慎吾

例年、名古屋場所観戦の前に相撲の歴史やルールなどを講義しているが、今年度は大相撲の不祥事が相次ぎ、果たして相撲講義ができるのだろうかと気をもんだ。

野球賭博などの不祥事の影響でNHKのテレビ中継は中止になり、更には場所自体も取りやめになりそうになり（結局場所は15日間行なわれた）、横綱朝青龍の引退騒動もあり、と、本筋以外のところでいろいろあって、どのように講義を行なうかいろいろ考えた。でも、野球賭博などの不祥事を解説するというのもサマースクールの相撲講義としてはちょっと違うかと思い、例年同様、歴史やルールを中心に講義した。

学生達は熱心に講義を聴いてくれた。今年度は提示する図版を増やし、相撲絵を見せたところ、学生から「意味はよく分からないが、美しいと思う」というコメントをもらった。



日本事情講義④

日本の伝統文化—能と狂言—

留学生センター・教授 太田 孝子

「狂言の実演」の前に、能と狂言を中心にした伝統文化の講義を行なった。まず、資料やレジュメにより、奈良時代に「猿楽」から始まって能と狂言に分化し、発展していく歴史とそれぞれの特徴や違い等を説明した。

「能」では、ビデオを使いながら面と装束、所作とその意味などを確認し、実際に歩き方や喜怒哀楽の所作を真似てもらった。次いで、“歩きの芸術”と言われる能の表現方法、能面の内側に心を隠した老女の動きと、鬼に変身した後の動きの変化に注目させながら「安達が原」の一部を鑑賞した。

狂言では、人気の「附子」と「棒縛り」を鑑賞した。太郎冠者（一番目の召使い）、次郎冠者（二番目の召使い）の名乗りや滑稽な言動に焦点をあてながら、能とは対照的な舞台を楽しんでももらった。日本語の解説付きビデオだったので、どのくらい理解できるか一度目は何の説明もなしに映したのだが、

“附子”が実は“砂糖”だったことを理解できた学生が何人かいた。その後、両演目の概要と物語の全文を書いた資料を配布し、解説を加えた後、再度鑑賞して理解を深めた。

翌週の「狂言の実演」の理解度が、少しは増したのではと思っている。



日本事情講義⑤

狂言の実演

大蔵流狂言方 山口 耕道

日本の伝統芸能「狂言」を紹介するにあたり、まずは体験することから始めた。私たちの常の稽古と同じように、大きな声を出すこと、すり足、正座など。同僚の茂山良暢氏とともに、小謡「盃」と狂言「末広がり」の一部を口移して伝え、その後、留学生たちが「盃」をうたい、私が舞を舞った。皆とても上手であった。

また、狂言面を着け、滑稽なしぐさを見せ、数人の人たちにも体験してもらった。

最後に、狂言「寝音曲」を鑑賞してもらい、笑いのあふれる楽しい一日になりました。それぞれの国の伝統的なものを大切にしてほしいとの思いを伝え、講義を終えました。



エクスカーション

美濃エクスカーション

応用生物科学部・准教授
岩澤 淳

梅雨晴れの爽やかな6月17日（木）午後、サマースクールのルンド大学の学生と日本語・日本文化研修生は、浴衣と太鼓の体験のため美濃市に向かった。

目的地の「美濃市勤労青少年ホーム」に到着するとさっそく浴衣の着付け体験である。お世話してくださったのは地元で「着物を着てうだつの町並みを歩いてみましょう」という取り組みをされている「セビあ会」のみなさん。女子学生が着付けしている待ち時間、男子学生の一人がホールのグランドピアノを上手に弾き始めた。すると他の学生たちが集まっ



てきて合唱する。ルンドの学生の多才ぶりに驚くとともに「ひょっとして太鼓も難くこなすのでは？」との思いが頭をよぎる。

太鼓を教えてくださいましたのは地元の愛好家「小倉（おぐら）太鼓」のみなさんと



指導者の服部先生である。模範演奏のあと、「祭囃子」というオリジナル曲を、楽譜を見ながら練習する。案の定、上達が早い。先生がコツを説明するたびに、どんどん様になっていく。1時間あまりのうちに、見事な合奏ができるようになった。

学生たちは「本当に楽しい」と喜んでいた。後日浴衣を買った学生もいたそうで、日本の伝統に肌で触れるよい半日であったと思う。



美濃エクスカーション スケジュール

6月17日（木）	
13：00	バス大学出発
14：00	美濃市着
14：00～14：30	浴衣着付け
14：30～16：30	小倉太鼓体験
16：30	バス美濃市出発

土岐エクスカーショ

.....

工学部・教授
伊藤 昭

7月5日(月)、土岐エクスカーショは梅雨時にも関わらず、抜けるような青空になりました。私たち一行は、定刻12時半に岐阜大学を出発し、一路東海北陸道を通って美濃焼の里土岐へ。着いた「どんぶり会館」は建物がどんぶり(?)の形をしたユニークな建物、陶芸体験会場はその地下にありました。

陶芸体験は、電動轆轤(ろくろ、こんな字私には絶対に書けません)を使って粘土から陶器をつくるコースと、お皿、お茶碗、マグから好きなもの一つに筆で絵を描く絵付けコースの二つ。体験は人数の関係から、絵付けからと轆轤からの2班に分かれて行われました。ちなみに私は絵付けからの班に。

みな、陶芸は初めての体験のようで、絵を描くなんて小学校以来という人(実は私のこと)もいて、はしゃいだり、悩んだりしながら思い思いに絵を描いていました。完成度は?「それなりに」、ということにしておきます。

次は轆轤体験。これも小学校の粘土細工を思い出

しつつ。まず、指導員の方が実演をしながら説明してくださいました。指導員の人がいとも簡単そうに粘土を操るのを見ていると、これなら私にもできる、と思って頭の中では曲線美あふれる壺をイメージ、心の準備は万全。ところがいくら頑張ってもふくよかなラインが出てくれない。そのうち、粘土がヘタってきて壺は自然崩壊(あーあ)。でも最後は、みなさん自分なりに納得のいく作品を作れて、満足、という感じの表情でした。

その後、1階に戻って、自分の作った作品を思い出しながら、展示の美濃焼の作品を見学したり(あんなのが作りたかったのに、とか)、お土産を買い求めたり。最後に、広場にあった異様なオブジェ(蛙のような、お城のような)の前で、皆で記念撮影、充実した一日を終えました。ちなみに、あとで調べたところ、陶芸に使われている粘土は「蛙目(がいろめ、絶対読めない)」と言うそうで、粘土の色が蛙の目に似ているからだそうです。



土岐エクスカーショ スケジュール

7月5日(月)	
12:30	バス大学出発
14:00	どんぶり会館着
14:15~16:15	陶芸体験(轆轤および絵付け・どんぶり会館にて)
17:00	バスどんぶり会館出発



大相撲名古屋場所観戦

教育学部・教授
野村 幸弘

野球賭博の問題で揺れに揺れ、開催中止の可能性もあった平成22年の大相撲名古屋場所。会場前に人影は少なく、場内の升席はがらがら。大相撲史上初の出来事に、ぼくらは偶然、出くわしてしまったのだ。相撲観戦はしたものの、それ以上に印象的だったのは、韓国、中国、スウェーデンから来た留学生たちの将来への夢や熱意や好奇心、そして日本語によるユーモア表現である。建築家志望の韓国のオジェウォンくん、日本語の通訳を目指す中国のコキンさん、「白鵬～、勝っていただくわけにはいきませんかでしょうか～」とおどけた応援をしていた、大の相撲ファンであるスウェーデン男性陣。土俵のなかにもおおぜいの「留学生」ならぬ「外国人力士」がたくさんいた。異国の地で元気に活躍している姿は、土俵の中でも外でも、見ていてこちらも勇気が出る。岐阜大学の学生も「世界」という同じ土俵のなかに入って、留学生ともっと交流できるようになるといいなと思った。そして「お金」ではなく、「人生」を賭けた研究や仕事をそこで見つけてほしい。雨降るなかの帰りのバスで「岐阜に雨～、岐阜に雨～」と勝手な替え歌を合唱していた明るい留学生たちの歌声が、梅雨明けの今でも耳に残っている。



中部日本の自然と文化を巡る エクスカーション

上高地・古川・高山・五箇山・白川郷

地域科学部・准教授
笠井 千勢

2010年度の研修旅行は、7月22、23日、上高地・古川・高山・五箇山・白川郷を巡る一泊二日の旅だった。スウェーデンのルンド大学から17名、韓国からはソウル産業大学と木浦大学の6名、総勢23名が参加した。

一日目、まず上高地では40分の散策時間を当て大正池から河童橋を目指したのだが、暑さのせいか制限時間内に河童橋までたどり着けない学生が続出し、急きょ滞在時間を延長した。古川のまつり会館では3D映像で祭を堪能した。留学生には各自 iPod が渡され母国語で説明を聞くことができた。館内の展示物を見学後会館の周りを散策し、蔵の立ち並ぶ街並みや川を泳ぐ大きな鯉を楽しんだ。宿泊先のひだホテルプラザでは、宴会場に一人一人の夕食の御膳が準備されており留学生たちを喜ばせた。当初量が少ないことを懸念していた男子学生たちも次から次に運ばれてくる品数に最後はお腹を抱えていた。

二日目は高山祭屋台会館を見学後、自由行動で市内散策をした。2～3人のグループで行動しており、町の所々でサマースクールの学生たちとすれ違った。観光局のアンケートに答えロゴ入り特製タオルをもらったり、陣屋前の朝市でざるぼろを値切ったりとそれぞれの楽しみ方をしていた。五箇山





では合掌造りの家について学んだ。家主である村上氏が歌うこきりこ節に感銘を受けたのか、「ささら」という木製の楽器を購入する学生が数名いた。また萱でできた屋根について熱心に質問する学生もいた。白川郷ではたくさんの合掌造りの家々を目の当たりに驚いている様子だった。

驚異的な暑さの中で行われた研修旅行であったが、熱射病や怪我もなく無事終了することができたのは、留学生支援室の渡邊昭彦室長のおかげである。炎天下の中、集合場所や見学場所がわかりやすいようにと常に学生たちを誘導してくださった。この場を借りてお礼を申し上げたい。最後に将来的に可能であれば、数名の学生スタッフの同行を許可していただきたい。上高地や高山では数名に分かれ自由に散策を行う。見るもの聞くものに対し多くの質問や疑問があるようだが、2名の引率者だけでは全員の要望にその場で答えてあげることができずとても残念に感じた。研修センターで留学生たちと寝起きを共にしている学生スタッフ達の同行をぜひ実現していただきたい。



高山エクスカージョン スケジュール

7月22日（木）

- | | |
|-------------|---------------------|
| 9：15 | バス宿舍出発 |
| 12：30～14：00 | 上高地・大正池・河童橋（各自昼食） |
| 15：30～17：00 | 飛騨古川まつり会館・起し太鼓の里 |
| 17：30 | 高山市内ホテル着（のち夕食・自由時間） |

7月23日（金）

- | | |
|-------------|-----------------------|
| 9：00 | 高山市内ホテル出発 |
| 9：10～12：30 | 高山祭屋台会館（のち各自自由時間・昼食） |
| 14：00～15：00 | 世界遺産合掌造り家屋見学・村上家・民謡鑑賞 |
| 15：30～16：30 | 白川郷・萩町合掌造り集落 |
| 16：30 | バス萩町出発 |

郡上プログラム

留学生センター・教授
森田 晃一

岐阜大学サマースクールの諸行事のなかで、もっとも評価の高い郡上プログラムが、今年も、郡上八幡国際友好協会と郡上市役所の全面的なご協力のもとに開催された。郡上踊りがはじまる週末にあわせて、7月9日（金）参加学生23名と引率者2名（留学生センター教員、留学生支援室事務職員）が郡上に向かった。

今年は、郡上プログラム期間中の7月11日（日）に参議院選挙が行われたため、初日のオリエンテーションを、「川合ふれあい会館」に移しての開始となった。7月9日から12日までのプログラムは、次ページのスケジュールの通りである。

9日は、10時からオリエンテーションをはじめる予定だったが、学生らを乗せたバスが、開始時刻の15分ほど前に「川合ふれあい会館」に到着したため、少し早めの開始となった。オリエンテーションでは、鷺見会長の歓迎の挨拶と、郡上八幡国際友好協会の幹部の方々による詳細なスケジュールの説明があった。

その後、各自の荷物を、夕方の対面式・歓迎交流会の会場である「流響の里」（これも参議院選挙で、例年の会場が使えなかったため）へ向かう車に積み込み、「川合ふれあい会館」内で行う日本文化体験・茶道の準備が整った段階で、学生たちは和室に移動した。まず教えて下さる先生方の紹介があり、次に学生から数人の希望者を募って、茶の飲み方の指導があった。はじめてであろう体験に、学生たちの緊張は伝わってくるが、見よう見まねで、とても上手に菓子と茶をいただいていた。それから、学生全員が亭主と客の2グループに分かれ、それぞれが、茶



を点て、菓子を食べ、茶を飲んでいた頃合には、すっかり慣れて堂々と楽しんでいるように見受けた。ひととおり体験したあと、辻先生による茶道の講義があり、学生たちは神妙に耳を傾けていた。

12時からの昼食時、到着前にポツポツと降り出していた雨がザアザア降りとなり、夕方の町内散策をどうしたらよいか、と心配するほどの降りとなった（結局行くことになったが、雨中の散策となった）。

昼食後は13時30分から、小学生との交流会のため八幡小学校に移動した。学生たちはまず、交流会を一緒に行う5年生と何組かのグループにわかれて校内を見学したが、にぎやかな会話と笑顔があふれ、年齢差をこえて双方とも楽しそうだった。交流会は体育館で、5年生代表の司会のもとに規律正しく進行した。最初に、学生各自の自己紹介、木浦大学代表による韓国と大学の紹介、ソウル産業大学代表による大学の紹介、ルンド大学代表2人によるスウェーデンと大学の紹介があったが、皆、とても流暢な日本語で、よくまとまった内容だった。その後、体育館のコートに車座となり、学生と小学生5～8人ぐらいのグループで、話し合いが行われた。中には、腕相撲・鬼ごっこをはじめのグループもあって、館内に歓声がこだました。続いて、全員が輪になって郡上踊りを踊った。最後に、ルンド大学生全員による即興・自作のユニークな歌が披露され、やんやの喝采を浴びた。また、5年生全員による歌のプレゼントもあり、最高潮の盛り上がりの内に小学生との交流会はお開きとなった。





体育館で記念写真を撮影してから、紙細工のグループと、剣道のグループにわかれ、それぞれ希望のグループで日本の文化を楽しんだ。紙細工グループは降りしきる雨の中、別会場の「遊道館」に移動し、水野先生の指導を受けた。引率者は、体育館内で行われた剣道グループを見学した。辻下先生による剣道の精神に関する講話のあと、女子学生が実際に道着と防具を着けて、先生方（4名）を相手に面・胴・小手の打ち込みを行った。その後に、学生全員による打ち込み練習がはじまった。学生たちの竹刀を振るう真剣な姿が、とても印象的だった。また、日本的な礼節を学ぶ機会でもあった。最後に、先生2人による型の披露があり、ピーンと張りつめた空気が館内に張りつめた。



文化体験が終わった後は、3グループに分かれ（紙細工グループ1、剣道グループ2）、友好協会の方々の案内で、しばし散策を楽しんだ。この内、紙細工グループの見学先は、宗祇水・食品サンプル工場・大乘寺で、城山の中腹から郡上城を望んだと

いう。短い時間の、しかも雨中の散策ではあったが、学生たちの要求で見学場所は多かったようだ。

7時から、郡上市長臨席のもと、「流響の里」を会場に対面式・歓迎交流会が行われた。学生たちは、ホストファミリーの皆さんの大きな拍手に迎えられる入場した。学生一人ひとりの簡単な自己紹介のあと、ホストファミリーの名が披露され、ここにはじめての対面が実現した。ちょっとしたドキドキの瞬間であった。式は、友好協会会長の挨拶、引率者の挨拶、市長の挨拶と続いたが、その合間には学生とホストファミリーの会話が活発に行われていた。心温まる光景であった。会場では、ソウル産大・木浦大・ルンド大の順で代表による母国と大学の紹介が行われ、さらにルンド大学生は、小学校の体育館で披露した自作の歌と、スウェーデン国歌によって場を盛り上げてくれた。友好協会からは、県重要無形文化財の神楽がプレゼントされ、最後は、何といっても郡上踊りだったが、小学校で習った効果は抜群で、学生たちは上手に踊っていた。こうして対面式・歓迎交流会も盛り上がりの内に終わり、学生たちはそれぞれ各ホストファミリー宅に向かった。一時、激しく降った雨もすっかり上がって満天に星が輝き、学生たちの郡上でのプログラムを予祝しているようであった。

なお、引率者は対面式・歓迎交流会が済むと郡上を後にしたが、12日（月）に別の引率者（留学生支援室事務職員）が学生たちを迎えに行った。学生たちはそれぞれ、一生涯心に残る貴重な体験をしてくれたようである。

なお、末筆ではございますが、毎年郡上プログラムを実施して下さいます郡上八幡国際友好協会と郡上市役所、そして郡上市の皆さまに、心より御礼を申し上げます。



郡上プログラム スケジュール

7月9日（金）

8：30	バス宿舎出発
10：00～10：40	郡上市着・オリエンテーション
10：45～12：00	日本文化体験講座（茶道）
12：00～13：00	昼食・休憩
13：30～15：30	八幡小学校 児童との交流会・ 郡上おどり
15：40～17：00	日本文化体験講座（紙細工または剣道）
17：00～18：30	町内散策
19：00～20：30	ホストファミリー対面式・歓迎 交流会（のち各ホームステイ宅 へ）

7月10日（土）

10：00～11：30	日本文化体験講座（書道）
11：30～13：00	昼食・意見交換会（のち各ホーム ステイ宅へ）

7月11日（日） 終日ホームステイ宅にて過ごす

7月12日（月）

9：30～10：30	反省会・記念撮影
10：30	バス郡上市発

工学部との交流授業

ルンドー数理デザイン学生交流会2010

工学部数理デザイン工学科・教授 青木 正人

6月16日（水）にルンド大学からのサマースクール参加生17名と工学部数理デザイン工学科1年生33名との交流会が行われました。この交流会は国際性涵養を目的に、本学科の初年時教育の一環として2008年度から開催しています。

午後1時、数理学生たちが待つ工学部E棟1階コミュニケーションホールにルンド大生が入場しました。最初に全員でラインナップ（整列競争）ゲームを行い、初対面の緊張を吹き飛ばします。続くグループディカッションでは、8つの円卓にほぼ均等に分かれて着席し、趣味、大学生活、外国語学習、将来設計、恋愛、習慣など様々な身近なテーマについて自由に話し合いました。数理学生たちは、事前準備でどんなテーマがよいか練っており、途中2回

のグループ替えをしながら活発な歓談が続きしました。

この交流会を通して、数理学生は、ルンド大生の旺盛な好奇心や人に接する態度に強い印象を受け、外国語学習の重要性を再認識したようです。一方、ルンド学生からは、日本語の良い練習になった、もっと長時間やりたいなどの声があり、双方にとって有意義なイベントだったようです。この交流会が、数理1年生が自身を国際的視野から見直す機会となっていれば幸いです。

最後に、本交流会の趣旨にご賛同いただき、ご協力くださった土谷先生、吉成先生をはじめ、留学生センターの皆様と、ルンド大の村尾先生に心より感謝いたします。



役員の先生方との昼食会

留学生センター・准教授 土谷 桃子

昨年度に引き続き、サマースクール参加学生と役員の先生方との昼食会を実施した。これは、サマースクールの様子を先生方に知っていただくよい機会になると同時に、学生たちにとっても普段交流を持つことが難しい先生方と親しく言葉を交わす貴重な機会となっている。

今年度の昼食会は、7月1日（木）12：10～13：00、学内施設である柳戸会館1階の集会ホールにて行なった。多忙にも関わらず、森学長、八嶋理事、岡野理事、小見山理事、杉戸理事、吉村理事、水谷幹事、岩間副学長、廣田副学長、林副学長の10名にも上る多くの役員の先生方をご参加くださった。学生側は、前日にコースが開講したばかりの4週間コース参加学生6名を含む総勢23名全員が参加した。

昼食会は、サマースクール（受入）コーディネーター土谷が司会進行役を務め、初めに森学長にご挨拶いただいた。その後は、準備された軽食と飲み物

を手に、自由に歓談する時間を取った。できるだけ気軽にリラックスして先生方も学生も話してほしいという意図のもと、このような形にしている。学生は、先生方に対して失礼があってはいけないと敬語を気にしながら、そして緊張しながら、それぞれに頑張っているように話していたようである。最後に国際戦略担当の廣田副学長にご挨拶いただき、会を終了した。

微笑みながら学生の日本語に耳を傾けている先生方の姿を見て、今年度も昼食会を実施して良かったと感じた。反省すべき点は、12：00まで授業だったため、12：10の昼食会開始時間に学生が間に合わず、先生方をお待たせしてしまったことである。来年度以降は、このような失態のないよう心している。

お忙しい中、そして日差しの照りつける暑い中、参加くださった先生方には心よりお礼申し上げる。今後とも、岐阜大学の歴史あるサマースクールの継続と発展に、お力添えをお願い申し上げます。



夏期短期留学参加者名簿

	No.	氏 名	性別	国 籍	出身大学
8 週 間 コ ー ス (6月7日～8月3日)	1	アレル ヘルゲッソン ヴィクトル ステーン Aller Helgesson, Viktor, Sten	男	スウェーデン	ルンド大学
	2	アンデルソン パニラ ハンナ マリア Andersson, Pernilla, Hanna Maria	女	スウェーデン	ルンド大学
	3	グレンバル クラス マグヌス Grenvall, Klas, Magnus	男	スウェーデン	ルンド大学
	4	グスタフソン エリン クリスティナ Gustafsson, Elin, Kristina	女	スウェーデン	ルンド大学
	5	グスタフソン ロフダール ダニエル ヒュゴ Gustafsson Löfdahl, Daniel, Hugo	男	スウェーデン	ルンド大学
	6	ヒーシング ラスムス Hising, Rasmus	男	スウェーデン	ルンド大学
	7	ヒビネット マティルダ ヨセフィン Hübinette, Matilda, Josefine	女	スウェーデン	ルンド大学
	8	ジャンソン ソフィア イングリッド エリノル Jansson, Sofia, Ingrid, Elinor	女	スウェーデン	ルンド大学
	9	ジェルン ダグラス デビッド Jern, Douglas, David	男	スウェーデン	ルンド大学
	10	カンデフェルト ヨアキム ラース Kandefelt, Joakim, Lars	男	スウェーデン	ルンド大学
	11	クロール カール マルクス Krol, Carl, Marcus	男	スウェーデン	ルンド大学
	12	ムフティチ ヴェドラン Muftic, Vedran	男	スウェーデン	ルンド大学
	13	オルテアヌ モニカ Olteanu, Monica	女	スウェーデン	ルンド大学
	14	サールクイスト カール イヴァール Sahlqvist, Carl, Ivar	男	スウェーデン	ルンド大学
	15	シュリッター アンソフィー Schlyter, Ann-Sofie	女	スウェーデン	ルンド大学
	16	トマソン エルヴィーラ マリー ベアトリス Thomasson, Elvira, Marie Beatrice	女	スウェーデン	ルンド大学
	17	オーベリ ミア アンナ マリア Åberg, Mia, Anna, Maria	女	スウェーデン	ルンド大学
4 週 間 コ ー ス (6月30日～8月3日)	18	キム ヒェスク Kim, Hyesook	女	韓国	ソウル産業大学
	19	キム ソンウ Kim, Sunwoo	男	韓国	ソウル産業大学
	20	オジェウォン Oh, Je, Won	男	韓国	ソウル産業大学
	21	パーク ユンギ Park, Younki	男	韓国	木浦大学
	22	クワック ジウン Kwag, Ji, Eun	女	韓国	木浦大学
	23	キム センヨル Kim, Seung, Yul	男	韓国	木浦大学

ホームステイファミリー ～郡上から～

7月9日（金）から12日（月）まで、郡上市でエクスカージョンとホームステイを行いました（p.20参照）。現地でお世話になったホストファミリーの皆様が感想文を送ってくださいました。

津島桂治さん

今回、初めてホストファミリーをさせて頂きました。

最初は、とても緊張しましたし、どう接していいのか、とまどってしまったというのが正直な気持ちです。

我が家に来るまでも、色々なプログラムをこなしているし、疲れているのでは？と思ったり、雨がとても激しく降っていて、連れ出すのもかわいそうかな？と思ったり…。

でも後^{あと}になってみれば、何もしてあげられなかったという気持ちで一杯でした。

でも、そんな中で、私達にとっても久しぶりの郡上踊りに行ったり、最後の夜に、ご近所さんも呼んで、ご飯を食べたりして、とても楽しい時間を過ごさせて頂きました。

彼女が少しでも笑顔になると、私達も嬉しかったです。小学五年生の娘も、とても楽しかったと喜んでいました。

スウェーデンという国は、とても遠いですが、娘が少しでも興味を持てた事、そして今回このような機会を与えて頂き、本当にありがとうございました。

（ホームステイ学生名：ルンド大学
シュリーター アンソフィー）



近藤佐代子さん

初めてのホストファミリーで、ワクワクドキドキの4日間でした。

マティルダがいるだけで、家の空気もいつもの我が家ではなく、とても新鮮でした。子供達も初めははずかしくてもじもじしていましたが、そのうちマティルダの手をずっと握って離さないし…。特に下の子は、ずっと手を握っていたし、上の子は、ちょこちょくすぐってもらったりするのが楽しかったみたいです。

スウェーデンの話や、日本のアニメや漫画の話もいっぱいしてくれました。マティルダの大好きな“フルーツバスケット”という漫画を私も読んでみたいと思います。

マティルダは、とってもシャイで、かわいくて古風な日本人ぽい女の子で、ピンクの桜の浴衣が似合っていました。

マティルダ、とってもとっても楽しい時間をありがとう。また会おうね。

（ホームステイ学生名：ルンド大学
ヒビネット マティルダ ヨセフィン）



森下真伍さん

こんにちは。

先日、留学生のホームステイ先として任されました、ホストファミリーの森下です。中学三年生の僕は英語の学習の一環として、留学生を迎えさせていただきました。

しかし、英語以外でも学べることはたくさんあり、異国の文化により興味、関心を抱くようになりました。

僕の家に来てくださったラスムスさんは、日本だけの文化や物、それらに対しての外国人からの見え方など話してくださいました。

ラスムスさんからはスウェーデンの御土産をいただきました。めずらしいお菓子がたくさんありましたが、日本人には苦手な味のものもありました。(笑)

最後の晩にメアドを交換し、別れました。

他にも、郡上おどりにいったり、明宝の萌車ミーティングにいったりしましたが、どれも喜んでいただけたので何よりでした。

(ホームステイ学生名；ルンド大学
ヒーシンク ラスムス)



筒井法子さん

今年の我が家の新しい家族は、ヴェドラン。

優しい目をした礼儀正しく、素直な男の子。

あっという間の3日間でしたが、楽しくよい経験の日々でした。ヴェドランの言葉使いや態度をみていて、とてもよく日本の文化や言葉、習慣を勉強しているのだと感心させられました。

温泉、花火、ボーリング、郡上踊り、ゆっくり休んでもらえなかったけれど、ゆかたを着て楽しそうに踊りを踊っている姿は、今でも思い出します。

スウェーデンへ帰っても時々郡上での事を思い出してもらえると嬉しいです。

そしていつか又郡上へ帰ってきて下さいね。家族みんなで待っています。

ヴェドランとよい出会いができた事感謝しています。

(ホームステイ学生名；ルンド大学
ムフティチ ヴェドラン)



鈴木みさ子さん

今回初めてホームステイの体験をさせていただきました。世界各国には、さまざまな文化、宗教等色々な考え生き方があります。

岐阜大学へ留学の学生さん達にも生まれ育ったお国の当たり前の暮らし、当たり前の生活から、日本での留学は、色々な体験をされたことでしょうか。郡上市でのホームステイではどの様に写ったことでしょうか？

今回我が家へホームステイされたキム・スン・ヨル君は、とても気の毒で淋しい思いをしたことでしょうか。

一つ違いの息子は都合で帰省出来ず、又近所では葬儀があり、そして大雨の悪天候。私も初めての体験の中、戸惑いもありました。三泊四日では中々落ち着く事も出来なかったのでは。

スン・ヨル君はとても礼儀正しくて、対面式で初めてお会いした時の驚きは、

日本語がとても上手でなんの躊躇もなく「お母さん」と私を呼び、とても感激で喜ばしかったです。言葉の意味が分からない時は、紙に字を書いたり。その字は漢字で美しく随分勉強しているのだなあ。と感心しました。まだまだいっぱい対話したりゆっくりお食事もしたかったです。

お互いの国の文化の違いや色々な体験や交流を通して、お互いの国を理解し合い、今後も学べていけたらと思います。

短い期間ではありましたが、貴重な体験をさせて頂いたことを感謝致します。

（ホームステイ学生名；木浦大学
キム スン ヨル）

鈴木美保さん

今回初めてホストファミリーをさせて頂きましたが、本当に楽しくてあっという間の三日間でした。一緒に郡上八幡の街並みを見て廻ったり、お城の中を見学して八幡城からの風景を見て写真を撮ったり、普段郡上八幡に住んでいてもなかなか行かないような所に行って、自分自身も新鮮な気持ちで楽しめました。二日目には、阿弥陀ヶ滝に流しそうめんを食べに行きましたが、大雨のせいか迫力があり、一緒に感動しました。

私は、カナダに一年間滞在していた事があり、その時たくさんの国の友達ができ、皆が日本に興味を持って色々聞かれるのですが、日本にはいい古い文化や観光名所があるのに、自分は全然日本の事が分かっていないと感じた事がありました。今回もすごく日本に興味を持ってみえる留学生の方と交流して、日本人としてもっと日本の事を教えてあげられるようになりたいと感じました。

このプログラムを通してとてもいい経験ができ、いい出会いができた事、本当に良かったです。ありがとうございました。

（ホームステイ学生名；ルンド大学
アンデルソン パニラ ハンナ マリア）

ジョーと過ごした四日間

関根 忍さん

最初の夜、ジョーが、関根家にやって来た。

まず、ジョーの接しやすさと、人の良さに安心した。そして、ジョーの日本語のうまさに家族揃って驚いた。正直私たちが教えることはないだろうと思った。が、ジョーは苦戦していた。うちの家族の言い回しが古いからだ。

股旅の服装など今の若い世代の何割が知っている

だろうか。

しかし、私も苦戦を強いられることになる。ちょうどホームステイの期間中に、英検が重なっていて、せっかくだから英語を教えてもらえるという話になった。まあ互いに良い勉強になったのではないかと思います。勉強といえば、時折話題がスウェーデンと日本の文化や法律の違いになることがありました。

このような身近な所や、生活と深く関わっている物の違いは、その国への興味のきっかけとなります。興味は人を動かせる要因で、私はそれを他の人にも伝えたいです。

（ホームステイ学生名；ルンド大学
カンテフェルト ヨアキム ラース）

村瀬春美さん

我が家は今回初めて岐阜大サマースクールのホームステイに応募しました。ゲストが来るからといって普段の生活スタイルを変えてしまうと無理が生じるだろう。かといって変えないわけにはいかない部分もでてくる。ゲストが気持ちよく過ごせるためにはどんな配慮をすべきか、我が家なりに考えて対応したつもりではあったけど、ソフィアさんはどうだったのだろうか。やはり、他人の家で窮屈な思いもしたのでないかなあ。

ソフィアさんが今後もっと勉強が難しくなるからと言って、「勉強頑張ります!」、「日本語上手になります!」と身振りをつけて話してくれたことがとても印象に残っています。本当はその勉強のお手伝いもしてあげたかったけど、その思いを言葉にしなかったことが悔やまれます。ソフィアさんは時間があれば部屋で自主学習をしているようでした。まじめにこつこつと勉強に取り組む姿勢と向上心には私達も見習うべきところがたくさんありました。

子供達もソフィアさんとの楽しかった思い出を今後も記憶にとどめることでしょう。

チャタリングで誰からも愛されるソフィアさん、今後も根性と努力で立派な人になって下さいね。日本から応援しています。

ソフィアさんへ

（ホームステイ学生名；ルンド大学
ジャンソン ソフィア イングリド エリノル）

柳瀬 茂さん

「マルクス君元気かしら……」とふと彼の笑顔が思いだされます。

私が以前フランスに2週間ほどホームステイさせていただいたのをきっかけに、海外からの留学生や、国外の方達との交流を楽しめるようになっていた時でもあり、英語にも興味がわいていたところに留学生受け入れの知らせが目にとまりました。

海外からの留学生（仏人、英国人）を受け入れるのは初めてではなかったものの正直緊張感と不安がありました。

我が家の3人の子供が巣立ち夫婦2人の生活になってからは、留学生を受け入れることは我が子の生活がよみがえってくるようなそんな期待感もありつつ、その反面現実を考えると同年代の子供もないし、私達夫婦だけではうまくコミュニケーションがとれるのかという心配が、受け入れの日が近づくにつれてどんどん募っていきました。そこで娘と孫に来てもらい4人態勢で迎えることになりました。

当日、わくわく、ドキドキしながら迎えた青年はとても明るく知的な好青年で、すぐに打ち解けることができました。

自宅に向かう車の中で、さすが日本語の勉強に来ているだけあって、マルクス君の真剣な取り組みの

姿勢にとっても感心しました。車中では質問攻めで、私たち自身日本語の使い方や言葉の意味を改めて考え直すことができ、言葉の壁を越えた交流と共に正しい日本語を伝えることの必要性など真剣に考えました。

滞在中には郡上踊りを始め、お蕎麦を食べたり白川郷など日本の伝統や歴史に触れ合うことを通して、私達家族は英語を教えてもらい、マルクス君は日本語を学び楽しい3泊4日間でした。

しかし家族としてもてなすつもりが、宿泊業をしていることもあってか、お客様を接客していたようなかんもあり、受け入れ側の在り方を考えると同時に反省の一つとなりました。

私達家族はとっても楽しくて、マルクス君がもっと長くいてくれたらと思う反面、はたしてマルクス君が居心地良く過ごしてくれたのか気がなっているところです。

スウェーデンに戻った彼が、日本って良いところだったと思っていてくれたら嬉しいですね。

あつという間の4日間、こうした機会を与えていただいた友好協会関係者の皆様に深く感謝しています。又機会があれば是非参加させていただけたらと願っています。

（ホームステイ学生名；ルンド大学

クロール・カール・マルクス）



今年も素敵な出会いに感謝

河合慶子さん

今年で二回目の岐大のサマースクールのホストファミリーを引き受けさせて頂きました。

今年は、スウェーデンのルンド大学の学生「ヴィクトル」21歳。昨年、我が家にホームステイしたエリクの後輩でした。エリクもそうでしたが、ヴィクトルも亡き息子と同年齢でした。主人と二度に渡る此の偶然は、きっと息子が私達に父と母になる時間を与えてくれたのだと話し、そして此のサマースクールのホストファミリーをさせて頂く事に心から感謝の気持ちでいっぱいです。

彼は、日本の文化・日本語にとっても興味があり、常に日本語で話そうと云う前向きな姿勢に感動しました。其の上、会話の中で使用されている漢字に関しても、「此の場合はどの漢字を使うのですか？」と質問する位、とても勤勉な学生でした。私の生徒は、日本人なのにやたらと「ひら仮名」が多く、少しはヴィクトルを見習って欲しいです。（笑）

あまりにもヴィクトルの日本語に対する熱心さに私は心を打たれ、私は「日本語教師」に変身しました。

車中の移動・散歩中等、私が英語で文章を言い、ヴィクトルが日本語に訳すと云うオリジナル勉強法を考え、二人で楽しい充実した時間も過ごさせて頂きました。

ヴィクトルのお陰で、海外で日本語教師としてのお仕事もいいなあ…と思いました。☺

我が家の室内犬二匹（一匹は、パピー犬（4ヶ月ですが巨大です）でいたずら真盛り。）にもとてもやさしく接してくれ、パピー犬に「伝次郎、落ち着いて！！」となだめている姿に、主人共々感動し思わず微笑みがこぼれました。彼の実家にも、三匹の犬を飼っていると訊き納得しました。

「回転寿し」へ行くのが初めてのヴィクトル、「美味しい！！美味しい！！」の連発で、ビール・茶碗蒸しにも満足でした。実は「回転寿し」は、昨年ホームステイしたエリクの紹介で、私達は一度も行った事がなく彼のお陰で、今では、はまっています。

その他、9歳以来やった事が無いと云う「ゴルフ」にも挑戦しました。近くの打席で練習していた人に、教えて貰ったりして知らない人とも交流をする事が出来ました。

今年もあっと云う間の三泊四日でした。もっとホームステイの期間が長ければいいのに…と思います。

でも、凝縮した素敵な時間を共有させて頂いた事に心から感謝致します。本当に有難う御座居ました。

（ホームステイ学生名：ルンド大学

アレル ヘルゲソン ヴィクトル ステン）



宿舎チューター

あまい恋人

教育学部3年 松野 綾野

「あまいあまい、こ～い～び～と～♪」これは、サマस्क生たちと初めてカラオケに行ったときに聞き、衝撃を受けた歌の歌詞の一部です。初めて聞いたときは、なんでこんな歌知ってるの？と、すごく驚いたと同時に、今年もまた楽しくなりそうだな、という期待で胸が膨らんだことを昨日のこのように覚えています。

今年のサマースクールでは、私はリーダーとして参加させていただきました。過去に2回経験はしているものの、リーダーとしてどうチューターズをまとめるか、そしてサマस्क生たちにとっていかに楽しい思い出を作るか、始まる前から様々な不安もありました。しかしそんな悩みを余所に、どこかで「とにかくみんなが笑っていられる楽しいサマस्कにしよう！」そう心に誓っている自分があり、今年も集まった12人の個性豊かなチューターズと、賑やかなスウェーデン人たちと共に、サマस्क2010はスタートしていきました。今年は過去最高にたくさんイベントをしよう、そう決めたのも、始まりの頃でした。

今年のサマस्क生には、本当に驚かされることがたくさんありました。まずは、学習に対する姿勢です。休日でも早くからホールで勉強する人が多く、夜も自ら一生懸命勉強する姿が多く見られました。時には私が「ねえ、卓球しようよ！」と話しかけても、「ちょっと待って！これができてから。」そう返事が返ってくることもありました。チューターたちに作文を見せ、チェックを求める彼らの姿からは、目の前の学習に手を抜かず、最後までやりきるといふ熱い想いが原稿を通して伝わってきました。

そして次に驚かされたのは、彼らがとても仲間の輪を大切にしているということでした。今年は「みんなが仲良し」という円く楽しい雰囲気、常にサマस्क生たちの中に漂っていました。チューターズとも上手く打ち解けてくれ、サマस्कに関わる私た

ち全体は、いつの間にか家族のような存在になっていました。

もちろん、初めから上手くいっていた訳ではありません。例えば、新人のチューターと経験者チューターに何か温度差を感じたときには、「チューターって、もっと家族みたいなものなんだよ。もっと心を開いてやってみても大丈夫！」そう誰かに言ったこともありました。過去のサマスクの経験の中で、チューターズは無くしてはならない、家族のような存在だと、私は強く思っていました。だからこそ、今年もそんな関係が築けるようにしたいし、そう感じるチューターを1人でも増やしたい、そう感じたからです。また、リーダーという立場上、何度も意見の違いからぶつかったこともありました。チューターズのみんなには、もっと自分で考えて動けるようになって欲しいと思ってもなかなか伝わらなかったり、自分のやり方が受け入れられず決るような言葉を受けたこともあったり、思うように行かない悔しさから、密かに涙を流してしまったことは、みんなには内緒でした（笑）。過去のサマスク期間中では、Farewell 以外に泣いたことがなかった私は、途中での自分の涙にびっくりしたことも覚えています。しかし今この事実を隠さず書くことができるのは、自分が流した涙や費やした時間以上に納得のいくサマスクだったという達成感と、満足感でいっぱいだからです。こんな素晴らしい経験をすることができたのは、たくさんの仲間に関わることができたからです。いつも周りで支えてくれ、時には深夜でも笑いが絶えなかった12人のチューターズには、すごくすごく感謝しています。そして盛りだくさんに企画したイベントも、思いっきり楽しんでくれたサマस्क生のみんなにも。本当にありがとう。みんなはもちろん、私の家族のような存在でもあるけれど、この夏の「あ

まい、あまい恋人」でもあると、私は思っています。サマस्कが終わった今でも、出会えて本当に良かったと、毎日のように連絡を取り合っている私たちは、一生の絆で結ばれている気がしています。いつかまた、一回りも二回りも大きく成長したみんなに

会えることを、心から楽しみにしています。

そして最後になりましたが、このサマースクールに関わり、全力でサポートし協力してくださった多くの方々に、感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

貴重な経験

応用生物科学部2年 前濱 風花

私は今回初めてサマースクールにチューターとして参加させて頂いて、とても充実した2ヵ月を過ごすことが出来ました。最初は慣れなくて緊張していましたが、いつの間にか笑顔で迎えてくれるみんなのところへ早く行きたいという思いが強くなり、学外研へ行くことが一番の楽しみとなっていました。ウェルカムパーティーから始まり、ギョーザパーティーや誕生会、浴衣パーティーなど多くのパーティーを通してみんなと仲良くなることが出来ました。特に4週間のウェルカムパーティーはみんな揃って最初の大きなイベントでもあり、仲を深める良い機会であったと思います。チューターが1人1品作るにより多くの料理を楽しむことが出来ました。私たちチューターも改めて日本料理を知ることができたと思います。そして何よりもサマスク生にとって様々な日本料理を知る良い機会となり、より日本を感じることが出来たと思います。

このサマースクールは普段の大学生活では経験できない貴重なもので、この体験から学ぶことは多くありました。先輩方は多くのパーティーを計画してみんなを楽しませていたり、常にサマスク生の安全

や体調を気にしたりしていました。このサマースクールをサマスク生にとってより良いものにするために頑張っている姿をみて、ただついていくだけの私でしたが毎日心を打たれました。先輩方から学んだことは本当に多く、先輩方とチューターになれたことは私にとって大きなことでした。また、サマスク生と出会えたこともとても大きなことでした。みんな一生懸命日本語で伝えようとしてくれて、ただ会話をするだけでも幸せなひとときを過ごすことが出来ました。チューターとして以上に家族のような大切な存在で、終わってしまった時は心に穴が空いたような寂しさを感じました。みんなと出会えて良かったと心から思います。

こんな風に、学外研にいくたびに一人暮らしでは感じることの出来ない温かさ、賑やかさを感じられたサマースクールは本当に素晴らしいものでした。今年チューターになることが出来て本当に良かったと思っています。この機会を与えてくれた先生方、関わってくれた全ての方々に心から感謝しています。本当にありがとうございました。



楽しかったサマースクール

地域科学部2年 中野 由貴

私は今年度、サマースクールチューターになったおかげで、素晴らしい経験が出来ました。まだ私は二年生ですが、サマースクールは私の大学生活のかなりの部分を占める良い思い出になりそうです。それにしてもこの二カ月間、家と学校と学外研をバタバタ行き来して本当に忙しい日が続きました。サマースクール生とのパーティーの時や学校のテストの時、また、風邪を引いてしまった時など…、色々な忙しい時期、大変な時期がありましたが、終わって振り返ってみるとどれも良い思い出です。それに大変なことよりも楽しいことの方が多かったです。

サマースクールの二カ月間はあっという間でしたが、とても二カ月間とは思えないほど内容のたくさん詰まった毎日でした。学外研に行くといつも留学生やチューターのみんが温かく迎えてくれて、最初は大変そうだと思っていた学外研へ通うことも、すぐに楽しみになっていきました。時間の経過は早かったですが、その間の出来事は一つ一つが充実したものであったので、よく覚えています。

このサマースクールを通して、友達が出来たことや留学生と関わったことなど、良かったことは山ほどありますが、その中でも、日本の良さを改めて知

ることが出来たのはサマースクールならではの収穫だったと思います。日本食を作って食べたり、能の講義を受けたり、名古屋や東京を観光したり、七夕の飾りをしたり、浴衣を着たりと、日本人が普通に暮らしている中で通り過ぎてしまうようなことを留学生のみんなと一緒に体験して、これまで知らなかった日本の良い部分をたくさん知ることが出来ました。そして今回のように日本に来てくれた他の国の人たちにその良さを少しでも知ってもらうために、私自身がもっと日本のことを知っていたいとも思いました。以前より日本を好きになれたと思います。

これほどの素晴らしいサマースクールは、先生をはじめとする大人の方々やチューター、そして日本に来てくれた留学生のみんなといった多くの人の力で作り上げられたものだと思います。私は先輩チューターの後を追うばかりで使えない人でしたが、そんな私でも今充実感を味わえているのは、周りの多くの人たちに支えてもらってきたからです。サマースクールを通して、そんな素敵な人間関係を築けたことも、私は嬉しく思っています。どうもありがとうございました。



大大大 ←ヒトが手をつないでるように見えるでしょ？

工学研究科2年 田邊 圭佑

今年のサマースクールも今年ならではの楽しさがあり、みんなで勉強し、よく遊んだ思い出がたくさん作れた。みんなとの楽しい思い出はチューターみんなが書いてくれると思うので、私は今年のチューターについて振り返りたい。

今年ほど組織・チームとはどういうものかを考えた事はなかった。

チューターのチームとしてサマースクール生になにが出来るのか、そしてその中で個々の役割はなにが求められているのか。それはサマースクールに関わる全ての方たちの中でのチューターの役割でもあったし、チューターにはどんな役割が望まれているかという事でもあった。

その中で、自分たちチューターがしてあげたい事、実際に出来る事をチームとして考えて行動する

事で、チューター間での連携が強くなっていったように感じる。もちろん、いつも順調に物事が進むことはなく、それぞれの意見がぶつかったり、答えが出ずに停滞してしまう時がほとんどだったが、サマースクール生にたくさん思い出を残してもらって、たくさん日本語で会話をして欲しいという共通の目標があったから乗り越えられたことでもある。そしてその過程を経て自分の役割を知る事が出来たし、チームとして成長出来たと思う。

これは私の勝手な感想だけれど、今年はいいいチームだった。チューターが出来る最後の年にこのメンバーと一緒に出来てよかった。

この経験が、たくさんの人と手を取り合い、大きく強い組織を作る必要性を教えてくれた。

大家族 ～サマースクール2010ver～

地域科学部3年 半田 実里

2010年サマースクール。それは、ひとつの大家族のようでした。

学外研に帰れば、「ただいま」「おかえり」という家族間での当たり前のあいさつが飛び交っていたり、私自身が部活動で嫌なことがあった時や授業で疲れて果てて帰った時も、サマスク生・チューター

のみんなの笑顔が私のエネルギー・活力になっていました。今でも朝起きると、「おはよう」のあいさつが聞こえてくる気がします。そして、何よりもサマスク生・チューターがみんなで仲が良かったのです。学年、学部、性別、育ってきた環境、ましてや国まで違うみんなとの共同生活がここまで充実し、





思い出深いものになったのはその証拠となるでしょう。共に物事を考慮し勝ち負けの価値を得ていく「仲間」という表現よりも、共に生活しお互いに向き合うことのできる存在の「家族」という表現が今年のサマスクにはぴったりだと思います。今年に限らず、このような関係を作り上げることができることがサマスクの良さではないでしょうか。やみつきになるところです。さらに、この夏、サマスクは私の夏には必要不可欠なものであるということを再確認することができました。これからもサマスクで得た

活力・考え方をさらに広め、大学生生活を有意義にしていきたいです。

最後に、サマスクに力を尽くしてくださった先生方、留学生センターの皆さん、麻生さん、西川ご夫妻、一緒にサマスクを作り上げてくれたチューターみんな、もちろんサマスクに来てくれたみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。素晴らしい夏をありがとうございました！！ 감사합니다！！ Tack！！

また会う日まで元気でね＼(^-^)/ヒーハー

私にとってのサマスク

工学部2年 野坂 竜也

サマスクに参加しようとした経緯を話しますと、全共の授業の「日本語口頭表現」を1年の後期に受け、留学生と話すことに楽しさを感じ始めていました。しかし、このときサマスクの存在を私は知りませんでした。なので、また全共で同じような授業があれば受けてみたいと思っていました。そこに5月のAIMSでサマスクのチューター募集と言う掲示の文字を見つけ、締め切りの日付を見るとちょうど当日に説明会が開かれていました。留学生との交流に面白みを感じていた私は、ちょっとした興味から説明会に行ってみようと思いました。そのときは当日飛び入りだし人数も多いからおそらく当選は無いだろうと思いながら説明を聞いていました。やはり落ちたと思い、このことを忘れかけていたころ先輩のメールからチューターになったことを初めて知りました。この日からこんな楽しい夏を過ごすことが

出来るとは思っていませんでした。人生で初です。30度を超えるお酒を飲んだり、今まで食べたことのない料理を食べたり、大人数の外国人とカラオケに行ったり、ゆかたを着たり、その格好で花火を見に行ったり花火をしたり、大の大学生なのに水遊びをしたり、女装をしたり…なによりもこんな楽しい仲間がたくさんできたことは人生初です。

でも、チューターはお金が結構かかりました。パーティー、ゆかた、旅行、その他いっぱい。そのかわりこの夏もこれからも楽しい大学生活が過ごせます。これがプライスレスですから仕方がないです。

と言いながらも安いゆかたを探してゆかたパーティーに頑張って参加していました。ゆかたを着たことが今までになかったので本当はサマスク生と同じ立場だったのですが、着方を教えるため何回も帯の締めほだきを繰り返し、なんとか習得してしまし

た。それに私は落語研究会に所属していますから、帯をしめているのは何度か見ていたので、ある程度は自信がありました。しかし、帯の締める位置が高かったり、帯にマジックテープがついていて締め方がわからなかったりとなかなか難しく、「ほんとに日本人か？」とコリアンズにつっこまれてしまいました。もしかしたら私は日本人じゃないかもしれないと少し疑ったりもしました。その時は冗談でしたが、まじめに日本人とは日本に生まれただけでは日本人とは言えないのかもしれない、日本のことを知って初めて日本人になれると考え、異文化に会ったときどれだけ自分が日本人なのかわかるということにも気づきました。そう考えると私はまだ日本人になりきれなくて、日本に生まれた人です。だからこの大学時代に日本人になれるよう頑張っていきたいと感じました。

話をゆかたパーティーに戻しますと、ユンギは浴衣を着ていませんでしたが、サマスキ生みんな浴衣や甚平がとても似合っていました。郡上でもらった漢字一文字の入ったうちわや扇子が日本人の趣を引き立てていました。イヴァールは日本と言うより旅館に来ましたという感じが似合っていました。こ

なにみんな粋なのに学校で花火をしたあと学外研に帰るとほとんどみんな着替えてしまったのが心惜しく感じられました。

今回チューターをして思ったのですが、学外研に入ると異世界に入ったような感覚に陥ります。

この日もそうでした。花火から帰ると学外研がクラブになっていたのです。部屋を暗くして、ミラーボールの代わりに懐中電灯を代用してクラブの雰囲気を作り出していました。そこでスウェーデンズは踊り狂っていました。文化の違いをまざまざと見た瞬間でした。一方コリアンズは端でトッポッキを作ってみんなをもてなそうとしていました。やはりこんなところでも国民性が感じられるんだと思いました。スウェーデンズは陽気にみんなを楽しませ、コリアンズは優しく気遣いみんなを楽しませる。では日本人は、となると私にはわかりません。

こんな国境のない場所が学外研でした。そしてこんな素晴らしい仲間を作ることが出来たのもサマスキのおかげでした。今回偶然にもチューターをすることができて本当によかったと思います。ありがとうございました。

サマースクールチューターとして過ごした楽しかった日々

地域科学部2年 蔵本 沙和

私は今年初めてのチューターをさせていただきました。サマースクール説明会や、この冊子をみて、楽しそうだと思い、とてもやってみたかったので、今回やることができ、本当によかったです。ウェル



カムパーティー、ミッドサマー、浴衣パーティー、花火大会、名古屋観光、能鑑賞、たこやきパーティーをはじめとしたさまざまな行事だけでなく、学外研でただ一緒に遊んだ日は本当に楽しいもので、忘れることのできない、最高の夏の思い出になりました。

名古屋観光ははじめてみんなで一日中学校の外にでて遊びに行く行事だったので、印象深いものでした。いつも一人で電車に乗っているときは、早く電車が来ることだけを考え、電車はただの移動手段でしかなかったけれど、みんなと一緒に電車にのるだけでも楽しかったです。名古屋観光では、名古屋に着いてからは大須観音やジャニーズショップ、名古屋城見学へ行ったり、矢場とんで味噌カツをたべたりしました。名古屋は本当に暑かったです。一番印象に残っていることと言っても過言では無いくらい暑かったです。また、いざ！名古屋観光をしよう！

と思っても観光名所があまり無い事に気づき、自分の出身地を考え直す良い機会にもなりました。

ここまで楽しかったということだけ書いたけれど最初、サマースクールのシフト表が配られ、自分が本当に役割をきちんとはたすことが出来るか不安だったし、初日にみんなの前で挨拶するときは緊張し、これからみんなと楽しく2ヶ月過ごしていけるのかな…とか、先輩達はどんどん積極的に話しかけて行っているけど私には無理だな…とか後ろ向きな

ことを考えていました。けれどチューターの先輩方がどんどん引っ張っていってくださりだんだんはじめに抱いた不安や緊張もいつの間にか楽しさに変わっていきました。ここでは書ききれないくらいお世話になりました。ありがとうございました。

そしてなによりサマースクールに関わって頂いた先生方や留学生課の先生方のお力がなければサマースクールを楽しく過ごすことは出来なかったと思います。ありがとうございました。

今年もマジメに書きます

教育学部4年 小島 秀祐

昨年に引き続き、今年もサマー・スクールの宿泊チューターをさせていただきました。昨年は自分のアメリカ留学の前ということもあってバタバタしていて、なかなか時間がとれませんでした。だから、「今年は頑張ってみんなとできるだけ多くの時間を過ごそう」と思って臨みました。しかし、そんな私の前に新たな強敵が立ちはだかります。教員採用選考試験の1次試験です。7月21日、それは浴衣パーティーなどの多くの行事が盛んに行われる最中にやってきました。泣く泣く浴衣パーティーを欠席し、宿泊当番の日も問題集を広げました。サマース生はそんな私に「しゅう、頑張ってるね!」と声をかけてくれました。本当にありがたかったです。勉強が手につかず、つい話しこんでしまうと、ユンギ君が「何やってる?勉強しろよー!」と檄を飛ばしてくれました。ジェウオン君も隣で一緒に勉強してくれました。試験前日に、ソフィアさんから応援のメールが届いた時には本当に泣きそうになりました。話す言葉も、目の色も髪の色も全然違うのに、この「友達」は私を支えてくれました。ありがとう。日本人チューターのみんなからも温かいお言葉を頂きました。私が無事1次試験を突破できたのは、みんなの支えあってのことです。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、前置きが長くなってしまいましたが、私は留学生の日本語授業について書こうと思います。昨年に続き、今年も日本語授業の見学をさせていただきました。今年の日本語の授業は、去年のものより楽しかったという印象があります。教科書の中に「殺人事件のアリバイ捜査」が登場するなど、教科書自

体が去年のものより楽しいものであったこともひとつの要因ですが、たくさんの production を要求する活動がありました。「ホームステイ先の方に自国を紹介するために」といった意味のある言語活動や、「今流行りの言葉をチューターに聞いてみよう」といった活動は非常に興味の持てる活動でした。「野球賭博」という言葉が出た時は、ビックリしましたが…。先生方が工夫してみえるのがすごく伝わってきました。先日の反省会で、留学生から「宿題の量が多かった」といったお話がありましたが、私は量については妥当だと感じます。やはり“SUMMER SCHOOL”と銘打っているの、学生にはしっかり勉強していただかないとね…♥

1点だけ改善していただけるといいと思うことを書きます。それは、もう少し答え合わせを丁寧に行っていただきたいことです。私も「何度も聞かせれば、全員できるだろう」と思っていたのですが、いざサマ



スク生の回答を見てみると、「言っている」を「いつてる」と書いていることが多々ありました。中には全く聞き取れず、ぼーっとしている学生もいましたし、（逆にでき過ぎて終始落書きに興じる輩もいましたが…）間違った答えをそのまま放置してしまう学生もいました。もう少し丁寧にひとりひとりを見

ていただけると幸いです。

今後もこの素敵なサマー・スクールがさらなる発展を遂げていくことを祈り、ペンを置きます。素晴らしい経験をさせていただいてありがとうございます。

最後の夏

教育学部 4年 依田 芽生

夏。大学1年生からチューターを始め、今年でもう4度目の夏が過ぎました。私の夏は「サマスクに始まり、サマスクに終わる」と言っているほど、チューターとして過ごす2ヶ月間は大学生活においてなくてはならない、大切な大切な日々です。特に、今年のサマースクールは私にとって、チューターを行う最後の年でした。何をしても「これで最後なんだ」という思いが常に頭の中にありました。でもそれ以上に「後輩に出来る限りのことを伝える」というのが私の目標でした。1年生の時と今年とでは、サマースクールもだいぶ変わりました。学外研があんなにもきれいになったこと、プログラム、3年前には全員自転車通学だったのが、今年はほぼ全員がバス通学になりました。留学生センターの方も、チューターも、サマスクに関わる全ての人がこの2ヶ月間にいろいろな想いをかけて、サマスクが成り立っているのだということを改めて気付かされました。

この2ヶ月間は本当に楽しい思い出ばかりです。パーティ、カラオケ、花火、ボーリング…。数え切れないほど多くの思い出があります。スウェーデン人も韓国人も日本人も、全員の仲がとても良く、いつもみんなで笑い合っていたように思います。今年のサマスク生は、とてもまじめな学生が多く、学外研でもいつも勉強していること、そして全然学校を休まないことに非常に驚きました(笑)。でも、パーティやカラオケではみんなすごく盛り上がる。そんなみんなが大好きです。本当はもっともっと、たくさんの思い出をサマスク生に作ってあげたかった。もっともっと、みんなで一緒にいたかった。今でも、もう4度目の夏が過ぎ去ってしまったことが信じられません。でも必ず、また会えると信じています。その日をすごく楽しみにしています。

そして、今年のチューターズは真面目なのか、暇なのか、イベントには必ず全員参加するという驚異のメンバーでした。ばんはリーダーとしてすごくよく頑張っていたね。自分に辛いことがあってもみんなの先頭に立たなければいけないのは本当に大変なことだけど、これから先の人生で必ずこの日々が役に立つと思います。みさとは相変わらずの盛り上げキャラで、みさとのおかげでサマスク生もかなり楽しめたと思います。でも、本当は周りのことをよく見て行動している姿に頼もしさを感じていたよ。みさきとは3年目だったね。公私ともに仲良くしてくれてありがとう。今年はみさきの良さを改めてたくさん発見できて嬉しかったです。またドイツから帰ってきたら遊ぼう！けいさんとは2年目ですね。今年は本当にお世話になったし、お世話をしました(笑)私にとっては頼りになるお兄ちゃんです。しゅうは本当に頼りになる、良い奴だと思っています。みんなの愚痴を聞かされて大変だったと思うけど、そんなしゅうのことを私は密かに尊敬しているよ(笑)。ゆりは去年とは比べ物にならないくらい！一生懸命チューターをやっていて驚いた！仲良くなれて良かったです。さわは2ヶ月で別人のように性格が変わったね。その行動力と、前向きさすごいと思う。来年もサマスクを盛り上げてね。ゆきは全然サマスク生の名前覚ええないし、チューターの名前さえ覚えてるのか怪しかったけど(笑)最後には本当にみんなと仲良くなっていて安心しました。なんだかお母さんになった気分。ふうかはみんなと積極的に話そうとしている姿があって、いつも感心していたよ。たっちゃんも落研なんだからもっと積極的に話さないよ！でもいつも優しく、素敵な男だと思うよ。落語、見たかったな。ますみんとは甲州弁の話で盛り上がったね。本当に気がきくし、料理もできるし、

頼りになる。そんなますみんなが好きです。なおとは2ヶ月ですごく成長したと思う。もっともつといい男を目指して頑張れ！チューターズには、本当に本当にお世話になりました。言葉では言い表せないくらい、感謝しています。頼りない先輩だったと思います。でもみんなと過ごしたこの2ヶ月は一生忘れません。いつまでも、いつまでも友だちでいよう。

ありがとう。

最後に、4年間チューターをやらせていただき本当にありがとうございました。土谷先生をはじめ、留学生センターの方々には毎年本当にお世話になりました。これからも、サマスク生とチューターを温かく見守っていつてあげて下さい。4年間、本当にありがとうございました。

ありがとう！ ～チューターをやってよかったと思える瞬間～^{とき}

地域科学部3年 箕浦 みさき

ありがとう。去年のサマースクール本の冒頭でも同じことを書きましたが、やっぱり最初にでてくるのはこの言葉しかありません。

チューターをやることができてよかった、と思う瞬間は数えきれないほどたくさんあります。パーティーで共に楽しんでいるとき、だんだん仲良くなっていくサマスクメンバーを見ているとき、彼らの日本語の上達を感じるとき…毎日が輝いている、充実した日々の二か月。今年で3回目のチューターでしたが、毎年毎年それぞれの色があります。今年のサマースクールの大きな色、特徴は、チューター、スウェーデン人のみんな、韓国人のみんな36人全員が、2ヵ月、または1ヵ月という短い時間の中で家族のように仲良くなれたということです。36人といえばちょうど1学級の人数。1学級がみな仲良くやるというのは簡単なことではありません。毎年それほど大きくはなくても、何らかのトラブルが生じていました。来る時期の違いが大きく影響し、スウェーデンズとコリアンズがうまくやっていけなかったり、もめごとはなくともわだかまりが生じてしまったりと、いつもうまくいつていたわけではありませんでした。それに比べて今年は本当に驚くほど“みんな”でうまくやっていくことができました。

チューター同士がみなひとつになって協力し合うことができた、ということも今年の大きな特徴のひ

とつです。今年のサマースクールはテスト期間とサマースクール最終週が重なり、フェアウェルパーティー前の3日間はテスト勉強とみんなへのプレゼント作りでまともに睡眠時間もとれない日々でした。それでも皆の喜ぶ顔を思い浮かべると不思議と力が湧いてきて、みんなで頑張ろうという思いにさせてくれました。チューターみんなで協力してつくったメッセージとプレゼントすべてには言葉では表すことができないほどの思いがこめられていることと思います。そしてそれを実際に皆に手渡した時の彼らの嬉しそうな顔は今でもしっかりと目にうかびます。今スウェーデンに滞在し、これを書いています。昨日再会を果たした彼らは皆チューターからのプレゼントのひとつであるミサンガを手首につけていました。それを見て、本当にチューターをやってよかった、と心から思いました。

毎年毎年それぞれの色を持ったサマースクールをみて、そしてそれを終えるたびに毎回思うことはいつも同じ。この岐阜大学のサマースクールは本当に素晴らしいものだ、ということです。そして、それを支えて下さった先生方、センターの方にとでも感謝しています。本当にありがとうございました。それからサマースクール参加者のみんな、チューターのみんな本当にありがとう！

初サマスク！ Let's Party！

応用生物科学部1年 宮川 真澄

どうも、ますみんです。4月に入学し、それからまだ2カ月の時に興味半分で応募したサマースクール・チューター。2カ月のチューター生活を終えてまず第一の感想は、ちょっと大変だった。でも、とてもとても楽しかった！あれ程中身の詰まった2カ月を過ごしたのは初めての経験だったのでは、と思います。2カ月間他の人と一緒に生活する体験はなかなかできるものではないし、まして他国の人です。そんな人達と喜怒哀楽を共有できたのは一生ものです。

サマースクールでは6月初めに8週間コースのスウェーデン達、7月初めに4週間コースの韓国達が来ます。そしてみんな8月初めまで日本語の勉強をするのですが、その間にチューター達は、サマスク生といろいろ楽しいことをしよう、ということで1週間に1回はパーティーをしたり、よく何処かに行ったりします。そんな事をして一緒に暮らしながら交流を深め、実際の日本を体験してもらいます。

そんなサマースクールの中での一番盛り上がるパーティー、4週間コースの韓国人 Welcome Party。8週間コースのスウェーデン人 Welcome Party や Midnight Party という大きなパーティーもあるのですが、スウェーデンと韓国そろってのパーティーとしては一番の盛り上がりを見せます。

さて、この4週間 Welcome ですが、チューター達が一人一品ずつ腕を振るいに振るい料理を作って、もてなします。それを約30人前作るので大変で

す。キッチンが混沌とします。そしてパーティーが始まり、サマスク生の気になる反応は、「おいしい！」「いいねえ！」と。やった！好反応！中でも人気だったのが、その場で実演して作ったとんかつ、てんぷら、手巻きすし。とんかつは「もうないの！？」とブーイングをくらう程の好評をいただきました。この食事の後はみんなでゲームをしたり遅くまで騒ぐのですが、その前に嬉しいことが起きました。今まで片づけなどに消極的だったスウェーデン人達が率先して手伝ってくれたのです。これぞ、人間をも成長させるサマスク・パワーでしょうか。そしてパーティーも後半戦、ごみ袋レースやスイカ割り、王様ゲーム、スウェーデンのトランプゲームを延々としていたのですが、サマスク生にとっても人気だった日本のゲームがありました。TV番組「学校へ行こう！」の人気ゲーム、みのりカリズム4（〇〇から始まるリズムに合わせてっ）。これはサマスクの間、事あるごとにやっていました。他にも、竹の子によっきなど、みんなでパッと盛り上げられるものが好きかなうでした。

この4週間 Welcome Party で韓国と日本、そして韓国とスウェーデンが打ち解け合えたことが一番の嬉しいことです。きっと彼らにも大きな意味のあるパーティーとなったでしょう。そうやって打ち解けたスウェーデンと韓国がお互いの言葉でない日本語で話している所を見るのが、チューターやって良かったなと思えた一番の瞬間です。



頼りになる先輩チューターの方々、やる気にあふれる新チューター達、何より主役のサマスキ生達、みんなでつくり上げてみんなで笑顔になったサマスキスクール。自分でも分かるくらい成長できたサマスキスクール2010でした。ただ残念なのが、サマスキ生が母国に帰ってしまったことと、来年の6月まで次のサマスキスクールを待たないといけないこと。最後

に、影で支えてくださった留学生支援室の方々、今年で引退となる先輩方、その他大勢の方々、どうもありがとうございました。来年からは僕らががんばりますので、応援お願いいたします。もしこれを見てサマスキやりたい！って思った人、2011は一緒にやろう！待ってるよ！

Midsummer party

工学部1年 濱田 直人

ミッドサマーはスウェーデンのパーティーで、何のためのパーティーかはミアやマチルダに聞いたけれど、よく分からないと答えたので、調べたらクリスマスと同じぐらいのイベントで夏至祭りでした。

スウェーデンズがパーティーの準備を朝からしてくれていて、ヨアキム達が学外研の中庭に十字架の形をかたどった木を作ってくれました。その周りにみんなで集まって、スウェーデンのダンスを踊りました。曲の意味はあまりよく分からなかったけれど、楽器を弾くマネをするダンスやカエルをマネをするダンスがありました。

その後はソフィア達を作ってくれた、スウェーデンの料理を食べました。スウェーデンの平焼きのパンに魚のオイル漬けやバターを乗せて食べました。魚はあまりおいしくなかったです。そのお返しにスウェーデンズには納豆を食べさせました。みんな食べるのを嫌がっていて、一口食べるとまずいと言っ

ていました。マルクスは最後まで食べるのを嫌がっていてみんなで捕まえて食べさせました。しかし食べさせたら、そのまま人の手の上に吐き出しました。相当苦手な匂いと味だったようです。

料理を食べた後は、みんなでゲームをしました。服の中に紐を通してリレーしてどちらのチームが早く通しきれるかというゲームやゴミ袋を履いてジャンプをしての競争などをしました。マルクスは紐を通すゲームの時上の服を脱いだりしてルールを無視していました。そんなこんなで楽しい夜は過ぎてきました。

一年からこんな事に参加できたのはラッキーでした。いろいろ不安なこともあったけどなんとか終わることができたし、こんなにたくさんの留学生と仲良くなれて良かったです。また来年もできたらいいなと思います。



宿舎チューター名簿

（学年順・50音順）

No.	氏 名	所 属 学 部
1	田 邊 圭 佑	工学研究科（博士前期課程） 機械システム工学専攻 2年
2	小 島 秀 祐	教育学部英語教育講座 4年
3	依 田 芽 生	教育学部生涯教育課程 4年
4	半 田 実 里	地域科学部 3年
5	松 野 綾 野	教育学部理科教育講座 3年
6	箕 浦 み さ き	地域科学部 3年
7	藏 本 沙 和	地域科学部 2年

No.	氏 名	所 属 学 部
8	坂 井 悠 里	応用生物科学部食品生命科学課程 2年
9	中 野 由 貴	地域科学部 2年
10	野 坂 竜 也	工学部人間情報工学科 2年
11	前 濱 風 花	応用生物科学部生物環境科学課程 2年
12	濱 田 直 人	工学部人間情報工学科 1年
13	宮 川 真 澄	応用生物科学部獣医学課程 1年

サマースクール感想文

サマースクールに参加した学生たちが書いた作文をご紹介します。サマースクールで感じたこと、日ごろ考えていることなど自由に書いてもらいました。一人ひとりの個性あふれる作文をお楽しみください。



日本のたんけん

ヴィクトル・アレル・ヘルゲッソン

なんだか、帰りたいくないんです。

日本に来るのは昔からのゆめでした。そして、今年の夏、そのゆめはかないました。私が旅行したことがある国の中で、日本は本当に一番面白くて楽しいです。生活も人々もやさしいし面白いです。来たばかりの時は「暑すぎるよ」と思いましたが、すぐに慣れました。

日本に来てからたくさんいろいろな面白くてめずらしいことを経験しましたが、いつも私のそうぞうどおりだったのでおどろかされました。特にいなかのイメージです。森がある山からもやがあがるとか、山の近くの道を歩いたらとつぜんとりいがあります。そして、かいだんがあって山のちゅうふくにきれいな神社があります。

特に高山へ行った時はそうでした。たくさんおとぎ話のようなけしきがあって、心に描いたとりいと山の森にきえていくかいだんもありました。ざんね



んですが、のぼるチャンスがなかったけど、見ただけでうれしかったです。

もう一つの持っていたイメージは日本のいろいろなまつりについてのイメージです。行く前にあまりくわしいことはよく知らなかったのですが、たいへんきょうみがありました。ですから、「ホームステイをする時、ほんおどりがあります」と言われた時、本当にうれしくなりました。そして、ゆかたを着てまつりに行きました。まつりに入ったら、「これは本物だ」と思いました。やたいがあつたし、みんなは元気で楽しんでいとし、おまつりのふんいきが感じられました。そして、広場に行って町の人とコースの友達と一緒におどりました。それはこの旅の一番いんしょう的な思い出です。

このぎふけんに来させてくれて本当にありがとうございました。



忘れられない経験

パニラ・アンデルソン

郡上プログラムのホームステイは本当に楽しくて、面白かったです。ホームステイの時おいしい食べ物をたくさん食べました。たとえばおこのみやきとやきそばを食べました。おいしい飲み物も飲みました。たとえば手作りのうめずを飲みました。

このホームステイは7月9日から7月12日まででした。

7月9日金曜日でした。この日は本当に忙しくて、でも楽しかったです。お茶を習ったり、けんどうを練習したり、郡上の小学生と話したり、郡上踊りを習ったりしました。

小学校で小学生と話しました。後でこの小学生は私たちに郡上踊りを教えてくれました。私は子供が



すこしこわいのでちょっとむずかしかった。でも日本の子供はすこしかわいいと思います。だから楽しかったです。後でホームステイのファミリーに会いました。このときも郡上踊りを練習しました。郡上踊りは楽しかったです。

10日に書道を書いたり、郡上城に行ったり、サンプルの店も行ったり、郡上踊りをしたりしました。郡上城は本当にきれいだと思います。郡上踊りに行きました。チュータさんも来ました。ちょっとびっくりしました。この晩は本当に楽しかったです。みんなたいていゆかたを着ていました。

11日にたきに行きました。たぶんこれは私の一番面白い経験だと思います。たきはすごくきれいだと思います。後で私のホームステイファミリーはバーベキューをしました。私のホームステイファミリーのむすめのかれしと友だちもいました。たくさん話しました。

12日にぎふに帰りました。本当にさびしかった。このホームステイは私の一番忘れられない経験だと思います。もう一度郡上に帰りたい。



生活の中のすべて の小さいもの

マグヌス・グレンバル

生活は毎日小さくておもしろいことがいっぱい起きます。そのことは時々うれしくならせること、時々さびしくならせることです。たとえば自動販売機に新しくおいしい飲み物を見つけることとか、友達と一緒に夜遅くまでしゃべることとか、エアコンの使い方を計算することなどです。

私はもちろん岐阜大学で勉強していた間にそのことをたくさん経験しました。その中で一番大切な思い出を選ぶのは大変ですけど、できるだけがんばります。

ひとつはホームステイの時の土曜日のバーベキューのじゅんびをしながら、とつぜんホームステイ家族の妹さんに近所の案内をしてもらいました。川や森に行ったり、いろいろな虫をつかまえたり、神社を見に行ったりしました。また、たくさん日本の子供の生活についておもしろい物を教えてもらいました。

他のはチュータたちと学生たちと一緒に名古屋へ行った時です。その日夜岐阜駅に帰った時、他のみなさんはバスで学外研に帰るのに私と友だちは二人で歩いて帰ることをしようと思いました。それのおかげで岐阜市のしょぼじと言うお寺で盆踊り祭りを経験したり、長良橋から特別な火を持っていた舟を見たりできました。本当に日本的な経験でした。

しかし、一番大切なのはサマースクールのみなさ



んとだんだん家族になったことを気付きました。だから、この夏の作った思い出を絶対に守ります。またかならず岐阜に戻ります。



日本でさせてもらったことについて

エリン・グスタフソン

これは私の初めての日本旅行です。長い間行きたかったので、日本に着いた時すごくうれしい気持ちも持っていました。岐阜に来る前に大阪と京都に行きました。そこでたくさん有名な行きたかった所に行って、日本に来る前にやりたいと思ったことをしました。たとえば大阪のうめだスカイビルディングや京都の金かくじに行きました。もちろんそれは本当に楽しかったです。

それから岐阜に来ました。ルンドの先生とせんばいは岐阜は小さくてたぶんあまり楽しくないと言っていたので、ちょっときんちょうしていました。でも学外研に着いて、チューターさんに会ってあんしんしていました。みんなやさしくて、いっしょにあそんでいることはいつも楽しいです。それに岐阜にはやるのがたくさんあると思います。

サマースクールの間いろいろなおもしろいけんをしました。大学はいろいろなエクスカッションをしました。たとえば私たちはたいこやとうげいをさせてもらって楽しかったです。それにみんなはぐじょうはちまんでホームステイをさせてもらいました。その時にほんおどりに行き、おどっていました。行く前にそんままつりについてぜんぜんわからなかったので行くことはおもしろかったです。たくさんの方はゆかたを着ておどりました。スウェーデンに比べてぜんぜん違って、めいそうみだだったと思います。それはたぶん一ばん楽しかったけいけんです。私たちもいろいろきれいな場所に行きました。たとえば白川ごうやかっぱばしという所に行きました。そこに行き行って本当によかったと思います。サマースクールのおかげでたくさん知らなかったことと場所について習いました。

サマースクールの後で私は広島と東京に行きます。やりたいことといろいろなよていがたくさんあって、楽しみにしています。東京にいる時はすぐ

く楽しくなると思いますが岐阜の時は一生忘れません。岐阜に住んでいて、岐阜大学で勉強したことはとても楽しいけいけんです。たくさんたいせつな思い出を作りました。日本語を勉強していて、日本に来てよかったです。絶対にもどります。



サマーコースの経験

ダニエル・グスタフソン・ロフダル

私は二年前日本に三か月いましたから岐阜に着く前に日本についてたくさん知りませんでした。でも岐阜とサマーコースについて何も知りませんでした。

いつも日本人たちに聞くと「岐阜は田舎ですね」と言いましたが、岐阜に着いた時それが信じられませんでした。スウェーデンの町に比べて岐阜はまだ大きい町だからです。

このサマーコースでいろいろな経験がありました。たとえば相撲を見に行ったり、郡上でホームステイをしたり、日本料理をたくさん食べたりしました。

相撲は前にテレビで見たことがあったのに本物の相撲を見たら感情はぜんぜん違いました。それはおもしろい経験です。

ホームステイは絶対に楽しかったです。ホストファミリーは親切で、色々な事を日本語で話して、おいしい食べ物をごちそうして下さいました。また日本の伝統的な事について習いました。例えば郡上踊りをしたり神社に行ったりしました。

日本に着いてからたくさんさんの新しい料理を食べました。蛸焼やお好み焼やギョーザなどは初めて食べました。その料理はおいしかったと思います。でもあまりおいしくない食べ物も食べてみました。特に納豆とこんにゃくはあまり好きではありません。

ある日サマーコースのみんなは高山に行きました。それはとても素晴らしかった経験です。色々な楽しい事をしました。山で散歩したり、ホテルで温泉に入ったり、白川郷に行ったりしました。

つまり岐阜大学のサマーコースは楽しくて素晴らしい経験でした。できればもう一度日本に戻りたいです。



チューター と一緒に！

ラスムス・ヒーシング

このサマースクールの絶対に忘れられないことはチューターですよ。チューターのやる気のおかげでこの二ヶ月間はふつうのサマースクールではなくて、アドベンチャー休みですよ。このやさしくて、明るくて、元気な日本人は私たちの日本の家族になりました。それは本当によかったと思います。

一番べんりな事は、だれかチューターがいつもりょうで遊んでいました。だから、いつも日本人と話したり、色々な質問をしたりするのができました。日本語を話さない時があまりないから、たくさんれんしゅうできましたので、私の発音がよくなりました、日本と日本人についてたくさんじょうほうを得たりすることができました。それもよかったと思います。

それに、チューターはいつも私たち留学生と一緒に色々な活動をしました。かれらは大学でまじめに勉強していても、私たちを色々な所へ連れて行ってくれました。たとえばカラオケを歌いに行ったり、ホテルを見に行ったり、名古屋へ行ったりしました。そして、色々な食物を作りました、たとえばたこやきやおこのみやきややきそばなどです。それは本当に楽しかったです！

もちろん、私たちはチューターと一緒によくパーティーをしました。ウェルカムパーティーやたんじょうびパーティーやゆかたパーティーなどで、全

部は楽しかったです。

つまり、このサマースクールは最高でしたよ。本当に、これは私の一番楽しいけいけんでしたよ。しかし、チューターがいなかったら最悪だったかもしれません。だから、チューターを絶対に忘れられません。よ。



忘れられない経験

マティルダ・ヒビネット

6月2日に日本に来ました。長い間に日本に行きたかったので、うれしくて、わくわくしました。大阪と京都を観光した後、岐阜に来ました。留学生のみんなは学外研という寮に入りました。この寮でたくさん面白くて楽しい思い出を作れて、色々な経験をしました。

学外研に来たばかりの時、welcomeパーティーをして、チューターズの皆さんに初めて会いました。その後、チューターズさんと一緒にたくさん楽しいことをして、したことないこともしました。螢を見に行ったり、カラオケに行ったり、山に登ったり、日本料理を作ったりしました。パーティーもしました。例えば、浴衣パーティーでみんなは浴衣を着て、花火をしました。

岐阜大学で勉強している間、色々な旅行をさせてもらいました。すもうを見に行ったり、のうを見に行ったり、たいこをしに行きました。一番よかった旅行は高山の旅行だと思います。きれいな景色を見



たり、温泉に入ったりしました。

ホームステイもさせてもらいました。とてもよかった経験だったと思います。ホーストファミリーと一緒にたくさん楽しいことをしました。ホームステイが終わったのに、ホーストファミリーに会いに行きました。

サマースクールのおかげで、私は日本語でもっと上手になったと思うし、たくさん友だちができました。この2ヶ月は本当楽しくて、一生に一度の経験だと思います。早いものでもうすぐスウェーデンに帰ります。スウェーデンに帰ったら、さびしくなるかも知れません。この夏を絶対に忘れません。



チューターさんと サマースクールの経験

ソフィア・ジャンソン

二ヶ月ぐらい、岐阜にすんでいました。たくさん思い出をつくってもらって、本当にかんしゃしています。時間は短かったが毎日、新しい経験をしました。

この時、もちろん日本の文化についてたいけんしました。剣道や茶道や書道などして見て、良かったです。

ぐじょうでホームステイをしました。その時私はまだ日本で本物の家に行ったことがなかったので、今、うれしいです。ホームステイの家族は優しく、面白くて、いい経験でした。さいごの日郡上城に行って、その後、豪華なひるごはんを食べました。夕方、私たち自分の鮎を作って食べました。晩ごはんの後、子供たちは花火をしました。私は、その思い出を忘れません。

学外研でいっしょにくらした人たちは私の日本の家族になりました。その家族十三人は時々両親で時々兄弟で時々友だちです。チューターの皆さんは最初からお世話をしてくれました。チューターさんは私たちのためにたくさんの行事を考えました。皆は学生ばかり、時がなかったと思ったが、いつでも手伝います。ビサカードに問題があった時、みさきいちはやく、銀行につれて行ってくれました。名古屋と京都にいっしょに行きました。ひまな時、ボウリングに行ったり、モレラで買い物をしたりしまし



た。

第一印象はチュータがプリクラとカラオケが好きだと思いました。プリクラを何回とったかわかりません。本当に楽しかったです。けれども、日本人はいつもプリクラをとるでしょう。

もっと面白いのはスウェーデン人と韓国人が旅行をする時、チューターさんはいつもバスのよこで走しながらさようならと手をふっておくってくれました。

もうすぐさようならパーティーがあります。帰る時日本を懐かしいになります。

チューターさん鞆の中に入れてつれて行て帰りたいです。



チューターさんの お世話

ダグラス・ジェルン

この夏は今までの人生の中で私にとって一番楽しくて幸せな夏でした。岐阜に留学する事ができた事は本当によかったです。勉強は時々大変なのにほとんど毎日楽しかったです。なぜならばチューターさん達がいたからです。

チューターさんはみんなやさしくて面白くて親切な人だと思います。岐阜にいるのは短い間でしたが

チューターさん達と兄弟のように親しくなりました。チューターさん達は私達に色々な事をしてくれました。日本の生活を教えてくれたし、おいしい料理を作ってくれたし、それにカラオケや買い物などに連れて行ってもくれました。やはりチューターさん達がいなかったら、この夏はこんなに楽しくなかったはずですよ。

私達もチューターさん達に色々な事を教えてあげました。みんなに少しスウェーデン語を教えたのです。たとえば「愛している」や「あなたはかわいい」などの言葉をスウェーデン語で言えるように教えてあげました。ちょっと場違いな表現も教えてしまいましたが、それは知らない方がいいと思います。

たしかにこの夏たくさんいい経験をしました。いい思い出が一杯出来てよかったです。私は百年がたっても絶対にこの夏を忘れません。

岐阜にもう一度もどりたいです。



サマー・スクール の経験

ヨアキム・カンデフェルト

日本に行く前には先輩が私達に岐阜について色々なことを教えてくれました。旅行で来ていたチューターさんと友だちになることができました。そして、岐阜の話をとくさん聞いたのでサマー・スクールにもっと行きたくなりました。

岐阜大学とチューターさんのおかげでさまざまなことができるようになりました。ホームステイをしたり、相撲を見たり、のうも見たりしました。岐阜でなければこんな経験をするのはたぶんできなかったでしょう。

チューターさんと遊ぶことはもっとも楽しいことのひとつです。トランプをしたり、しゃべったり、色々な所へ行ったりしました。皆はチューターさんにお世話になりました。私は病気になった時一日中「大丈夫」と聞かれていいことをしてもらいました。例えば、寝る前にチューターさんはアイスパックをしてくれました。別の時、人の前でスピーチする時用意したスピーチを忘れてしまいましたが用意したスピーチを全部メールでチューターさんが送ってくれました。とてもありがたいことです。

私は今毎日できるだけ日本語を使うことにしているけど私たちのレベルはまだ低くて会話するのが難しいです。でも、この短期留学の後、前より日本語で話す自信が付きました。

学外研にたいざいすればするほどもっとたいざいしたくなりますからサマー・スクールが終わるのは残念です。



僕の経験

マルクス・クロール

今ここに書いていると今まで日本で色々経験した事を思い出します。しかし、どんなに考えても一つだけを選ぶ事ができません。

大阪から岐阜までの全部は面白くて楽しかったです。最初の一週間で日本の生活になれて、それからかんこうをしました。その後岐阜に行きました。

お金が少なくても学外研で生活できるのでそれまでよりくらしやすくなりました。そして、チューターたちとこのサマー・スクールのおかげで日本語が上手になってよかったです。

岐阜から色々な場所に行って日本の中での相違を見せてもらいました。これまで、まだ東京に行った事はありませんが大阪と高山の違いに感動しました。また相撲と能の第一印象は本当に日本的だと思いました。

実は能と欧米のげきを比べたら、欧米のげきの方が好きです。でももし能の言葉をしていたら僕の意見は変わっていたかもしれません。

とにかく僕はまだ日本で行った事がない所がたくさんあって日本でした事がない経験がたくさんあります。これから新しい事をするのがとても楽しみです。ですが岐阜をはなれる事はとてもかなしい事です。

できれば、岐阜にもう一度来たいです。



忘れられない夏

ヴェドラン・ムフティチ

私はずっと日本へ行きたかったです。

今年の夏はその夢がかなってようやく日本へ来れました。そのおかげで様々な体験をさせてもらいました。日本はスウェーデンと全く違うのでこの夏をけっして忘れられません。スウェーデンと比べて日本はカラオケや漫画やとてもおいしい料理があります。日本の生活にすぐなれることができたのはすばらしかったです。トイレのスリッパなどを区別できるけど時々はき忘れてしまいます。

私はスウェーデンの寒さにたえられないので日本のきここのほうがいいと思います。

それに会った人、チューターとホームステイの家族は本当に優しかったです。大変お世話になりました。また色々な案内をしてくれたり日本語を教えてくださいました。

韓国人も知り合ってちょっと韓国語を教えてくださいました。週末は楽しみでパーティーをしたり岐阜城や名古屋などへ日帰り旅行をしたりしました。その日帰り旅行で日本の文化や歴史を習いました。都会と田舎はものすごく違うので習うことがたくさんあるし一見の価値がある所では色々な景色がきれいでした。

二ヶ月がもう経ちました。スウェーデンと私の家族がなつかしいけど必ずしもスウェーデンへ帰りたいとは限りません。



日本へ、特に岐阜へ戻って来られるように一生懸命勉強します。



ホームステイ

モニカ・オルテアヌ

サマースクールはとても楽しくて面白かったです。いろいろなことをさせてもらえました。たとえばもうを見たりのうを見たりすることをしましたが、一番面白いことはホームステイでした。それはある週末ぐじょうでしました。

ホームステイの家族はとても面白くて親切な家族です。住んでいる所はぐじょうから車で三十分ぐらいでした。それはとてもいいなと思いました。始めてそんなにいいなかにいましたからほんとうに楽しかったです。

家は大きくてきれいだと思ってはたけとみじかい川にもありました。おじいさんは自分でそのはたけで芋ややさいを育てていました。水田でおこめも作っていました。

ホームステイのお母さんといろいろなことをしました。土曜日に足湯に入ったりあゆを食べたりすることをしました。そして夜にゆかたを着てぐじょうおどりに行きました。そこでいろいろな食べ物を食べておどりました。たとえばおこのみやきと林ご飴を食べました。

日曜日にたかやまに行ってちょっと買い物をしました。そこでいろいろな食べ物を食べておみやげを買いました。夜にはおとなりといっしょにBBQをしました。おいしい食べ物を食べながらみなさんと話しました。

ホームステイをする時はホストファミリーといろいろなけいけんをしましたからほんとうによかったです。できればもう一度ぐじょうにかえりたいです。



日本の経験に ついて

イヴァール・サールクイスト

今夏にいろいろなすごいことをしました。まず岐阜に行く前に京都と大阪をたくさんかんこうしました。竜安寺とどうどんぼりが一番おもしろかったです。京都と大阪は本当に違う町で、もっと日本の町を見に行きたくなりました。岐阜では、チューターさんのおかげでいろいろな経験をしました。食べ物を作って、見学旅行を計画して、宿題を手伝ってもらいました。学外研に行った後でかんこく人が来ました。今まで最初はちょっとはずかしかったがかんこく人はちょうおもしろくてやさしい人です。かんこく人のパーティにチューターさんは食べ物をたくさん作りました。みさとのチーズカツは、めちゃくちゃおいしかったです。

郡上のホームステイの時、やさしい家族にでえました。子供たちと一緒にゲームしたり、教えてあげたスウェーデンカードゲームをしたりしました。下呂温泉にも行きました。温泉に入浴しながらビールを飲んで、外にふっている雨を見ました。本当にすごい経験でした。文化の違いは時々めんどくさいでした。例えばいつも厳しいきやくがありました。スウェーデンの高校のときにくらべて、日本の大学



はもっと厳しいです。本当にびっくり！しましたが、日本は今まで私の一番おもしろくて楽しかった経験でした。

高山にも行きました。日本アルプスや白川ごうやたくさんすごい所を見ました。日本アルプスは絶対に日本の一番きれいな行ったことがある所です。絶対に日本に帰りたいです！



色々な面白かった 思い出

アンソフィー・シュリーター

日本へ来たのはこれが初めてだったから初めは本当に心配して、緊張していましたが楽しかったです。

サマースクールの中にたくさんことをしました。その中で私はしっぱいもしました。美容院に行って髪を染めました。ところが私は日本人じゃないので髪が黄色くなってびっくりしました。だから、次の日もう一回美容院に行って全部の髪を染めなくてはいけませんでした。しかし、髪が黄色くなくてもスウェーデンのサービスに比べると日本ののはもっといいからあまり怒らなかったです。

もちろん楽しいこともたくさんありました。たとえば、チューターと一緒に色々な楽しいことをしたり、ホームステイをしたり、学校の遠足をしたりしました。

チューターについて全部すごく楽しかったから一番楽しかったことが選べません。私たちはボウリングをしたり、カラオケをしたり、名古屋に行ったりしました。

ホームステイについて色々な面白くて楽しいことをしました。その中でホストファミリーとホストファミリーの友だちとおいしい食べ物を食べて話したことはたぶん一番楽しかった思い出です。初めはとても緊張していましたが大変お世話になったから楽しかった経験をしました。

遠足の中で高山が一番面白かったです。景色はすごく素晴らしかったしホテルもきれいでした。

韓国人やチューターと仲良くなれてうれしいです。そしてみんなのおかげで、特にチューターのおかげでこのサマースクールは本当に楽しかったから岐阜にもどりたいです。

これからこのサマースクールを絶対に忘れません！

みんなありがとうございました！♡



コーラスクラブ

エルヴィラ・トマソン

私はいつも音楽が大好きで、子供の時から合唱をしたり、ピアノを弾いたり、色々な楽器を演奏したりしました。だから岐阜に来たらコーラスクラブに入りたかったです。パンフレットに練習時間は13時から17時半までと書いてありましたがそんなことはありえない、長すぎると思いました。

ある日日本語の授業の後でコーラスクラブに行きました。本当にきんちょうしていました。私は1時ちょうどに行ったのにもう始まっていました。それはスウェーデンの大学の生活と比べて大きな違いです。スウェーデンの大学で授業は時間割の時間いつも15分後に始まります。たとえば時間割で授業は8時に始まりますが本当は8時15分に始まります。日本の時間はあまり好きじゃないです、いつも早く来なくてはいけませんから。

コーラスクラブで皆は本当にやさしくて、すぐに全然きんちょうしなくなりました。しかしちょっと恥ずかしかったことは50人以上の日本人の中で一人きんぱつではかの女性より背が高いスウェーデン人だったので、最初に皆に見られたことです。

コーラスクラブで日本の上下関係に気をつけました。先輩はいつも後輩にアドバイスをあげて、先生

が来る前に先輩は練習を始めています。そして先生が来た時後輩が先生にクッキーと冷たい飲み物を出します。スウェーデンでは指揮者が休憩の時学生といっしょにクッキーをもらいます。

日本語で歌うのはちょっと心配しましたが歌詞はいつも全部ひらがなで書いてあったので問題がありませんでした。ソプラノの友だちが訳してくれて、日本語で歌うのはいい日本語の練習になりました。コーラスクラブに入って、日本人の友だちを作って、日本の歌を歌うのは練習時間が長すぎるのに本当に楽しくていい経験です。



岐阜での経験

ミア・オーベリ

この岐阜にいた2か月は私の人生の中で、もっとも面白い経験のひとつになりました。本当にいろいろな面白いことをたくさんしたり、たくさんのかをなったりしました。

まず、最初の日スウェーデン人の留学生のみなさんといっしょに岐阜駅に着きました。私の岐阜の第一印象は大きな町でびっくりしました。

私は少しきんちょうしてはいたけれども、きたいもしてはいました。岐阜に来る前に「チューターさんはどんな人ですか」とか、「この2か月の泊まる所はどんな所ですか」とか、「日本語の授業はむずかしいですか」とか、などとよく考えました。でも、学外研に来てチュータさんに会ってみなさんは本当に明るくて親切だし、寮は大きくていいし、もうしんばいしませんでした。

岐阜に来てよかったです。岐阜サマーコースのおかげで日本語が話せるようになってきました。そうすると、いろいろな日本人やサマーコースの韓国人の友だちをつくるのがかんたんになるようになってきました。多くの新しい人に会ったのでそれはこの2か月の一番いい経験だと思います。

この時を絶対に忘れられません。ここでできた日本人と韓国人の友だちのみなさんを残すと思うときびしくて悲しくなりますが、スウェーデンに帰る時、たくさんうれしくてなつかしい思い出をもって行きます。





まだスウェーデンに帰りたくないですが、もちろんスウェーデンにいる家族と友だちにも会いたいです。もうすぐ帰国しますが、本当に日本と岐阜に戻れるといいんですが。



私にとって 忘れられない7月

キム・ヒェスク

日本に来る前に色々な心配がありました。果たして、私が「よく日本という新しい環境に適応することができるのか」と心配でした。でも、学外研に到着してこの心配は一瞬にしてなくなりました。たぶんその理由は日本のチューターたちとスウェーデンの友達的笑顔が生み出す暖かい雰囲気だったと思います。

荷物を解いて学外研で見る岐阜のけしきはすごくきれいでした。さらに、心がらくになりました。もし、私が今、韓国に居るままだったら感じられない貴重な時間だったと思います。

毎日、「今日は何があるかな」と時めく気持ちで朝を迎えました。その日その日の生活をしながら日本のチューターたちとスウェーデンの友達と一緒にいた時間が多くなりました。

同じクラスの中で日本語の勉強をしたり、色々なおいしい食べものを食べたり、おおきなショッピングモールに行ってプリクラを撮ったりいい思い出がたくさんありました。でも、私にとって一番印象に残ったのは浴衣パーティーでした。平素、日本のド

ラマでよくみた浴衣を直接着る事ができておもしろかったです。自分で着ることが難しい浴衣をチューターが手伝ってくれて本当にありがたさを感じました。浴衣を着ている人皆の姿はすごくきれいだし、かっこうよかったです。まるで人形のようなでした。一緒に写真を撮った後で日本の料理の「やきそば」を食べました。韓国で食べたことがあるけどここで食べたやきそばがもっとおいしかったです。たぶんチューターが真心をこめてつくってくれたからだったと思います。その後皆一緒に花火をするために学校に行きました。韓国ではあまり花火を見ることとかやることがないのでとても楽しかったです。特に印象に残ったのは線香花火でした。火花が落ちるとか消える前に自分の願いを祈ればかないます。でも、私はよく失敗して願いをいえませんでした。それで、超集中しようそうです。最後にやっと成功して色々な願いをしました。

短い時間だったけど一緒にいた時間は絶対に忘れません。日本のチューターのおかげで日本の文化を経験することができて本当によかったです。私にとってこの7月のことのすべてを決して忘れません。いい思い出を作ってくれてみなさん本当にありがとうございました。



旅行のような生活

キム・ソンウ

日本に来る前は色々準備をしながら誰といつしょに1月間生活する事になるかと思いました。人と人の出会いは偶然ではありません。スウェーデン、韓

国どんなに離れていても日本と言う国で皆が集まって勉強するのを楽しんでいます。

1か月という短い期間、いっしょにスーパーに行って買い物をしたり料理をしたりするのは人生の中で一番の思い出になりました。日本の食べ物やスウェーデンの食べ物をおいしく食べました。まるで台所が国際的な生活そのものでした。

郡上市八幡へ行った時に浴衣を着て踊ったり、まつりのやたいで色々な物も食べてみました。学外研で浴衣パーティをして写真をとったり花火をしたことは、私の日本生活の中で楽しい思い出でした。

郡上でホームステイの家族といっしょに生活したことは日本に来て一番面白かったことです。ホームステイのお母さんに方言も教えていただいて、僕の日本語の知識が広がった感じがしました。となりの家のホームステイのバーベキューパーティーにも誘われて、おいしい食べ物も食べました。日本で新しい家族ができて本当によかったです。

岐阜大学でスウェーデンの友達といっしょに日本語の授業を受けました。内容がむずかしかったけど、チューターが知らないことを教えてくれて、作文を書く時に本当に助けてもらいました。1日中ずっと日本語だけでしゃべってたことは、ここで私の日本語の実力が上がるきっかけになりました。

機会があれば、また来年、交換留学生として岐阜大学に戻りたいと思います。ここでの思い出は韓国へ帰っても忘れられません。まるで、1か月が旅行のようだったです。いつかまたこのような生活ができるように祈ってます。



サマースクールについて

オ・ジェウオン

私は留学のために1年前から日本語の勉強を始めました。最初は一人で勉強をして難しかったです。でもインターネットやTVを見たら上手になると思いましたが上手になりませんでした。だからもっと上手になりたいと思って夏休みを返上してサマースクールに参加しました。サマースクールに参加できたことは運が良かったです。サマースクールに参加するのは条件があります。学校の成績とか日本語

の成績とか色々な条件があります。この時偶然に日本語のテストに受かって今のサマースクールに参加できました。サマースクールは日本語や日本の伝統的な文化やホームステイや祭への参加など、色々な授業があります。この授業の中で一番忘れられないのはホームステイです。ホームステイの家族は親切で優しくて韓国の私の家族と似ています。だから快適な4日間で楽しかったです。

二番はスウェーデンの友だちと会ったことです。サマースクールの中で一番心配でしたが、日本語で話したり一緒に遊んだり1ヵ月間楽しかったです。

三番はチューターさんたちと一ヵ月間一緒に住んだことです。毎日私たちの側にいて手伝ってくれましたので、お別れするとき悲しくて寂しいでしょう。

最後に皆とサマースクールで会ったのも偶然じゃなくて運命だと思います。サマースクールに参加がして本当によかったです。一生忘れられない思い出を持って韓国に帰りたいと思います。皆ありがとうございました。



人々とであい それとスウェーデン人

パク・ユンギ

すべてのおもいでは人々のであいからはじまります。岐阜大学サマースクールのわすれられないおもいでもやはり人々のであいで作られました。みんなのであいがたいせつだけど私には本当にとくべつなけいけんとおもいでをつくってくれたともだちがいます。これはスウェーデン人のともだちです。

日本に来るまえは私のかんがえは‘たくさん日本人たちともだちになりたい！’てかんがえました。だが、りょうに到着したときチューターとたくさんスウェーデン人たちが韓国人をかんげいしてくれてほんとびっくりしました。日本人よりスウェーデン人がたくさんいることは私にとっておそろしいよりおもしろいと感じました。その理由はりょうで日本人、スウェーデン人、韓国人がいっしょにくらしてスウェーデン人と韓国人がちがう国から来て日本語ではなすことはほんとうにめずらしいけいけんだからです。

いままで日本でくらしてスウェーデン人といろい

ろなけいけんをいっしょにしました。はじめはかんげいパーティーで私の人生ではじめて外国人に‘たんじょうびおめでとう’と言われてとくべつに感動しました。それと韓国人の中で私だけスウェーデン人5人と一週間3回たいそうぶへ行って一緒にあせをたくさんかいたことも良い気持ちでした。

そのほかにスウェーデン人と授業とまつり、見学旅行、ホームステイ、かいものとかいろいろなけいけんを一緒にしました。日本にはすみませんけどこの岐阜大学サマースクールで私は好きな強さが日本よりスウェーデンが好きになりました。でもこのあいには日本があったからできました。岐阜大学のみなさんに感謝します。

さいごは授業で習ったあいさつをします。よっぼどのごえんですね。みなさんに本当ありがとうございます。アンソフィーごめん。



忘れられない 夏休み

カック・ジウン

今年の夏休みは本当に忘れられそうありません。これまでの私の夏休みはバイトをしたり、勉強をしたりしていました。今年の夏休みは岐阜大学のサマースクールに参加することになって、いろいろな事を習うことができてうれしかったです。

最初日本へ来た時、韓国よりあつくてたいへんだったけど、今はこんな暑さにも慣れて大丈夫になりました。

韓国人、スウェーデン人、そしてチューターみんなと親しくなれるかと心配したんですが、一緒におさけを飲んだり、ゲームをしたり、しゃべったりして親しくなりました。みんなと一緒に暮らす学外研の生活は毎日がとても楽しかったです。

また、日本の文化を体験することができてとてもおもしろかったです。浴衣を着て郡上おどりに参加したり、茶道もしてみたり、七夕というパーティーで紙にお願いも書いて、流しそうめんも食べました。

そして郡上でのホームステイもとてもおもしろかったです。ホームステイをする前はちょっと恐かったですが、実際にホームステイの家族と生活し



てみたら、家族のみんなが私を実の娘のように親切に世話をしてくださいました。本当にうれしかったです。家族と一緒にカツどんを作って食べたり、映画館へ行って日本の映画を見ることになったのも新しい経験でした。

最後に狂言の実演の時間に聞いた言葉がいちばん印象に残りました。「私たちがここで会えたこと、それは偶然だろうか、必然だろうか、運命だろうか」こんな言葉を聞いてたくさん考えるようになりました。

一ヶ月という短い間でしたが、みんなと別れなければならないことがとても悲しいです。

でもこれからもずっとみんなと連絡をとり続けたいです。みんな本当にありがとう。

いつまでも連絡しよう！



忘れられないもの

キム・スンヨル

今年、岐阜大学のサマースクールに参加した私に、忘れられないものがあります。

それは、ここでの生活です。生まれて初めて会った日本人とスウェーデン人と、どうすれば仲良しになれるかなと思いました。

しかし、私たちを初めて見た外国人から「ようこそ岐阜へ」と言われて最初から感動しました。私たちを歓迎してくれた人々は1ヶ月前に来て、生活しているスウェーデン人と日本人チューターたちでし

た。まるで昔から知っている友達のような感じでした。そうして三つの国から来た人々との生活が始まりました。学外研に帰ってごはんを食べる時にお互いに味見したことは新しく面白い経験でした。このように毎日私たちの生活は笑いで溢れていました。そして段々ホームステイの日が近づいて来ました。ホームステイの日が始まって最初はちょっとどこちなかったので心配だったけどホームステイの家族が話をかけてくれたり、色々なことを聞いて下さって嬉しかったでした。ホームステイを通して日本にも新しい家族ができて日本の家族と行った特別な旅行、そして日本での生涯初めての祭り「郡上おどり」など、私に忘れられない大切な思い出ができました。

毎日おいしいごはんを作って下さって本当にありがとうございました。そして郡上でのホームステイも終わって日本の家族にも大切な思い出をもらって

帰りました。そしてチューターさんたちも忘れられない人です。毎日順番に来て私たちと話してくれたり、悩みがある時には相談にのってくれました。また、浴衣パーティーや花火や七夕祭りやたこ焼き、かき氷など日本でしかできない経験を作ってくれて本当にありがとうございました。

このようにここに来て一生忘れられないものをたくさんもらいました。そして留学生センターの先生たちにもありがとうございました。暑くてもいつも私たちのために色々なプログラムを作って下さって本当に楽しかったでした。

韓国へ帰って時々心や体が疲れた時にここでの一ヶ月の思い出を考えて元気を出します。

最後に留学生センターの先生たち、チューターさんたち、スウェーデン人のおかげで楽しい夏休みでした。

ありがとうございました。

総 括

8週間コース参加学生
4週間コース参加学生

ルンド大学（スウェーデン） 17名
ソウル産業大学（韓国） 3名
木浦大学（韓国） 3名
計23名

今年度のサマースクール（受入、以下略）は、定員25名で募集を行い、23名の申込があった。ここ数年参加学生が20名を下回ることなく、安定的に開講している。

参加学生からのフィードバックは、筆記アンケートと授業最終日（今年度は7/28）に実施するまとめの会（反省会）で得ている。筆記アンケート（A3版2枚）は7/26に配付し、7/28に回収した（23名中21名より回収）。筆記アンケートは、過去の年度との比較のため、質問項目を大きく変えることなく実施している。それに対して、まとめの会で学生に尋ねるのは、その年度特有の事柄や、筆記アンケートで端的に答えるには難しい事柄である。筆記アンケートの集計結果については、後掲ページを参照いただくこととし、この文章ではまとめの会で得たフィードバックを主に扱いたい。

まとめの会の実施形態だが、できるだけ多くの学生の正直な意見を得るため、口頭での質疑という形式はとらない。というのは、こうすると、積極的に発言する学生の意見だけが際立ってしまい、全員の意見を掘り上げることができないからである。よって、まとめの会では、学生に回答用紙を配付し、進行役（コーディネーター）が口頭で述べる質問に対する答えを書き込んでもらった（日本語または英語）。このような形式がいいかどうか疑問もあるが、全員の意見が得られることと、質問の意図を丁寧に説明してから学生に答えてもらえることは利点である。まとめの会口頭アンケートは、22名が提出した。

以下、まとめの会で学生に尋ねた項目をピックアップして記載する。

日本語授業

日本語授業については、毎年筆記アンケートで聞

いているが、今年度は大きく授業内容・形式を変更したため、まとめの会でより詳しく尋ねた。まず、教科書を『中級へ行こう』から『J BRIDGE』に変更したが、この教科書のレベルは適切であったようだ（22名中18名の回答、以下同様）。聴解練習が豊富なことについても、肯定的な回答が多く（15名）、来年度のサマースクールでもこの教科書を使ったほうが良いと考える学生が多かった（21名）。

教科書に沿った授業と並行して、学生各自（またはグループ）でトピックを決め、教室外で調べものをし、授業で発表というプロジェクト型の授業も実施した。この授業形態自体は日本語の良いトレーニングになるという理由で学生に好評で、来年度もしたほうが良いということだったが（21名）、その頻度（毎週発表）が多すぎて大変だったというコメントが少なからずあった。日本語学習はサマースクールの大切な部分だが、それが過重な圧迫となっては元も子もないので、来年度は斟酌が必要になるかもしれない。

今年度の思い切った改革が、おおむね好評かつ有効であったことは嬉しい。サマースクールでの日本語学習が、参加学生の帰国後の日本語力向上の基盤となってくれば何よりである。

上高地・高山・白川郷旅行（7/22～23）

サマースクール最終盤に行なう1泊旅行は、ここ数年扱いに迷っているところがあった。2007年度までは京都旅行を実施していたが、京都へは自分で行けるという意見があったり、経費上の問題が生じたりしたため、2008年度は実施しなかった。それに対して、やっぱり旅行に行きたかったという学生の意見が出され、2009年度に旅行を復活させた。行き先は京都ではなく、岐阜大学サマースクールに相応しい、岐阜近辺に変更した。それが、上高地・高山・

白川郷旅行である。

実施初年度であった昨年度にフィードバックをしっかり得るべきところ、事情によりまとめの会を開くことができず、その機会を逸してしまった。しかし、人づてに耳にしたところによると、必ずしも喜んでいない学生がいたらしい。そこで、今年度は詳しく学生に尋ねたいと考えた。

プログラム最終盤ともなると、梅雨も明け厳しい日差しが照りつける。特に今年度は、梅雨期間中は豪雨続きだったのが、明けたとたん今度は35度を越える猛暑続きとなり、旅行には過酷な天候となってしまった。こんなに暑い時期に行きたくない、旅行は自分で行くからわざわざプログラムに入れなくてもいい、と考える学生がいても不思議はない。

ところが、フィードバックでは意外なことに、この旅行は大好評だった（21名）。年度による違いが大きいかもしれないが、今年度に関しては楽しんでもらえたようだ。これを踏まえて、来年度もプログラムに盛り込むこととしたい。但し、行程が忙しかったという意見が複数あったので、その点には改善を加えたい。

宿舎のインターネット環境

授業、講義やエクスカッション内容などは、教員の知恵と工夫で改善を期すことが可能だが、設備面については、我々の力は及ばない。サマースクールの現状を訴えることで、大学サイドを動かすという地道な活動が必要になっている。

嬉しいことに、ここ数年でハード面の改善が進んでいる。2008年度からは宿舎と大学キャンパス間にスクールバスを運行できるようになった。距離は8キロあり、それまでは天候にかかわらず、通学手段はほぼ自転車に限られていた。安全性の確保が大きく進歩した。

今年度は、それに匹敵する大いなる改善があった。参加学生が期間中滞在する宿舎に、エアコンが設置されたのである。共同利用のホールや台所には以前から空調設備があったが、各自の部屋で暑さを凌ぐ手段は、昨年度までは扇風機だけであった。近年の異常ともいえる気候の中、このままではまずいという危機感を強めていたところ、今年度のサマースクールにエアコン設置が間に合って胸をなでおろした。この夏は、梅雨から猛暑に一気に突入し、日々のニュースでも熱中症が取り上げられた。もしエアコンがなければサマースクール参加学生も…と思わ

ずにはいられなかった。

宿舎設備で、空調設備に次いで毎年参加学生から要望が寄せられるのが、宿舎のインターネット環境の整備である。いまや学生の生活に不可欠なインターネットが、キャンパスでは使えるとはいっても、宿舎で使えないのは不便だという意見である。今年度の学生に尋ねてみたところ、「必要ではない」と明らかに述べる学生は2名にとどまり、大多数の学生は、程度は異なるものの必要だという回答を寄せた。

宿舎にインターネットを引くことが可能となった場合、各部屋で利用可とすると、各自が部屋に閉じこもることにならないか。これが次の筆者の懸念である。宿舎生活の醍醐味は、スウェーデン学生、韓国学生、そしてチューターの岐大生の親密な交流である。この機会を奪うのはいかにも惜しい。そこで、宿舎でのネット利用は、各部屋ではなく、共同スペースに数台のパソコンを設置するという形が良いのではないかと考えた。参加学生に聞いてみたところ、彼らの意見も同一であった（18名、他に無線利用を希望する学生あり）。来年度は、費用面に十分留意しつつ、共同スペースにネット接続可能なパソコンを数台配置することを目指したい。

ついでながら、設備関連で来年度改善が見込まれていることを1点書き添える。留学生センターが自由に使える教室がないため、毎年サマースクールの日本語授業を行なう教室の確保には苦勞している。今年度は、有償で学内のオープンラボを借りたが、来年度からは留学生センターが自由に使える教室を4部屋得られることになっている。積年の問題が、来年度いよいよ解決する。

健康管理

今年度のサマースクールで何よりも嬉しかったのは、大きな怪我や病気がなかったことである。自転車利用が原因の交通事故に毎年悩まされたのが、今年はゼロであった。その理由は何か、学生にも尋ね、筆者自身も考えてみた。

今年度の学生たちは、注意深く自転車に乗ったと答えている。昨年度大きな自転車事故が2件あり、当事者が行事参加を見合わせるなどの不利益が出たことを、学生に周知徹底した効果かもしれない。

梅雨から猛暑という天候は、過酷ではあったが、自転車通学をあきらめてスクールバスを使う学生を多くする一因となったと考えられる。また、各自の

部屋にエアコンがあることにより、十分な睡眠が確保できたことも考えられる。昨年度までは、エアコンのある共同スペースに深夜遅くまで学生がたむろし、全員睡眠不足気味となったのと大違いである。

参加学生の資質にもよるが、来年度以降も怪我や病気が問題になることなくサマースクールが実施できることを心から祈っている。

8 週間コース・4 週間コース学生の交流

現在のサマースクールは、8 週間コースにスウェーデン学生が参加し、8 週間コースが半分過ぎたところで4 週間コースの韓国学生が合流する形になっている。8 週間コース学生と4 週間コース学生が、国籍の違いもあってうまく馴染めない例が過去に見受けられた。年度による違いもあるし、心理的に答えにくい側面もあるが、今年度初めて学生自身はどう感じているか尋ねてみた。

幸い、今年度については、最後まで馴染めなかった学生はごく少数に限られており（1 名）、ほっとした。今後も注意深く見守っていきたい。

類似のケースとして、4 週間コース参加学生が、スウェーデン学生と日本人チューターの仲が良すぎて入りにくいと訴えるケースがある。毎年必ず、数は少ないながらも筆記アンケートの自由記載欄にそう記す学生がいる。しかし、今年度のアンケートではそれが見られなかった。宿舎内の人間関係に大きな問題がなかったことが伺われる。

毎回、筆記アンケートの最後に、このサマースクールの全体的な評価を聞いている。今年度は、回答者全員から「とても良かった」「良かった」の回答を得た。次回も、参加者に充実感と満足感を与えられるサマースクールを実施したい。

今年度のサマースクールも学内外の多くの方々のご好意とご協力をいただき、無事全日程を終えることができました。エクスカーションでお世話になった郡上、美濃、土岐の皆様にはお礼を申し上げますと同時に、今後も変わらぬご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

サマースクール参加学生に本物を体験させるために、実演をお願いしている能の味方團先生・田茂井廣道先生、狂言の山口耕道先生・茂山良暢先生には、今年度も快くお引き受けいただきました。どうもありがとうございました。

また、岐大生とサマースクール参加学生の交流について考える機会とヒントをいただいている工学部数理デザイン工学科フレッシュャーズセミナー担当の青木正人先生、新田高洋先生にもお礼申し上げます。

昨年度から実施している役員の先生方との昼食会では、多くの先生方のご参加をいただきました。この場を借りて、再度お礼申し上げます。

サマースクール事務業務を担当している留学生支援室の皆様、サマースクール専従非常勤職員麻生朋子さんに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。学外研管理人西川節子さん、留学生センター補佐員粥川美重子さん、森瀬真理さんには、今年度も行き届いたご配慮をいただきました。そして、愉快で元気な13名の宿舎チューターズの皆さんにも大いに感謝しています。来年度も無事サマースクールが実施できることを祈念して、稿を終えたいと思います。（文責：土谷）

Summary

Eight-week course participants
Four-week course participants

17 from Lund University (Sweden)
3 from Seoul National University of Technology (Korea)
3 from Mokpo National University (Korea)
23 in total

This year's summer school had 23 applicants for 25 spots. Over the last few years, the summer school has been held regularly, always with more than 20 students participating.

The feedback from the participating students was gained through a written questionnaire and a summary session (review session) held on the final class day of the summer school (July 28). The questionnaire (two "A 3" size sheets) was delivered to the students on July 26, and then collected on July 28 (from 21 students out of the 23 total.) To compare with the results of questionnaires conducted in past years, this year's questions were not changed considerably. Meanwhile, what was asked to the students at the summary session concerned events particular to this year and included questions that could not be answered simply on the questionnaire answer sheets. The following deals mainly with the feedback obtained at the summary session.

To obtain frank opinions from as many students as possible, the summary session was not held in the form of verbal questions and answers, which would tend to focus only on the opinions of outspoken students, making it difficult to gather various opinions from all the students. In this regard, at the summary session, the students were provided with answer sheets and then were asked to write down their answers (in Japanese or English) to the questions presented orally by the session coordinator. Although this form of summary session might not be entirely appropriate, it has the advantage of acquiring opinions from all students, as well as giving

the students a detailed explanation on the purposes of the questions before they write down their answers. Answer sheets were collected from 22 students. The following are some of the questions asked to the students at the summary session.

Japanese Language Classes

Every year, the students are asked about Japanese language classes through a written questionnaire. This year, when considerable changes were made to the programs and form of the Japanese language classes, detailed opinions on the classes were sought at the summary session. As the textbook used for the classes, J BRIDGE replaced Chukyu e iko (Go on to the Middle Course). The level of the new text seemed to be appropriate (according to the responses presented by 18 out of the 22 students who submitted their answer sheets). The textbook featured many listening practices, which was positively evaluated by many (15) students. Moreover, almost all (21) students commented that the textbook should also be used at the next year's summer school.

The Japanese language classes were characterized not only by the use of such a textbook, but also by project-style classes in which each student (or groups of students) chose their themes, conducted research outside the classroom and made presentations in class. This style itself was favorably received by almost all (21) students, with comments such as that it provided good opportunities for using Japanese, and that these types of classes should be held again next year. At the same time, not a few of

the students commented that they found it hard to make presentations so frequently (every week). While the Japanese language classes certainly serve as the core of the summer school, it would result in nothing if the classes were too burdensome. In this regard, some consideration may need to be paid to next year's programs.

It was good that this year's drastic program renovations were well received on the whole and turned out to be effective. I hope that the Japanese language classes at the summer school will act at a base for the participating students to further improve their Japanese fluency even after leaving Japan.

Trip to Kamikochi, Takayama, and Shirakawa-go (July 22-23)

Actually, over the past few years, there have been some twists and turns regarding overnight trips conducted in the final stage of the summer school. Until 2007, an overnight trip to Kyoto was conducted. However, some people said that Kyoto was a destination the students could visit by themselves. Moreover, there were financial difficulties. As a result, in 2008, no overnight trip was conducted. However, some students said that they had wanted to have a trip, leading to the resumption of the overnight trip in 2009. The destination was not Kyoto, but the area in and around Gifu, which were seen as appropriate destinations for the Gifu University Summer School trip. That was how this year's trip to Kamikochi, Takayama, and Shirakawa-go was realized.

Last year, when the overnight trip was resumed for the first time, substantial feedback should have been gathered. However, for various reasons, a summary session was not held, depriving the International Student Center of the opportunity to hear from the participating students. It transpired that not all the participants were pleased with the trip. In this regard, it was deemed necessary to acquire frank opinions from the students this year.

In the final stage of the summer school the rainy season ended, followed by the beginning of blistering summer days. This year was especially severe. Following the end of the rainy season, when it often rained extremely heavily, the temperatures were above 35°C almost every day. This weather was too harsh for a trip. There was no wonder that some students said that they did not want to go on a trip in such a hot season, that they could go on a trip by themselves, or that there was no need for the trip to be included in the summer school programs.

Nevertheless, the feedback surprisingly revealed that the trip was overwhelmingly favorably received (by 21 students). Although there might be a difference in the students' level of enjoyment of the trip depending on the year, this year's students were happy with the trip. Based on this result, an overnight trip should be included also in next year's programs. However, some improvement must be carried out with consideration given to the fact that some students said that the itinerary was too tight.

Internet Access at the Lodge

While we at the International Student Center may be able to improve the quality of classes, lectures and excursions, etc., using our wisdom and various strategies, facility problems are beyond our control. It is necessary to promote steady efforts to make Gifu University act on our behalf, by bringing the summer school's present circumstances to the university.

To our pleasure, more and more improvements have been made to solve facility problems over the last few years. Since 2008, a school bus service has been available between the lodge and the university campus. The students once almost always needed to travel the eight kilometers by bicycle, regardless of the weather. Moreover, the bus service has enhanced safety dramatically.

This year, another great improvement rivaling the beginning of the bus service was implemented: the installation of air-conditioners in the lodge

where the summer school participants stayed during the programs. Although air-conditioners had been installed in the lodge's public spaces, such as the hall and the kitchen, until last year electric fans had been the only means of tempering the summer heat in each student room. With the abnormal weather continuing in the recent years, the center's staff members were anxious that something must be done to avoid the occurrence of any problems regarding the weather. Fortunately, air-conditioners were installed before the beginning of this year's summer school, bringing huge relief to the staff. This summer, the rainy season was soon followed by scorching days, causing many people to come down with heat stroke, as reported in the daily news. I cannot help but think that, without the air-conditioners, many students would have suffered from heat stroke.

After the installation of air-conditioners, the establishment of Internet access has been the second most frequently pointed out factor every year as a lodge improvement request from the students. The Internet is almost essential to the life of students. While Internet access is available on the campus, it is not available in the lodge, which some students feel is inconvenient. When asked about the unavailability of the Internet, only two of this year's students clearly replied that the Internet was not necessary, while many others said that the Internet was necessary, although there were some differences in the extent of necessity indicated.

However, I am concerned that if an Internet service becomes available in the lodge, the students will begin to use the service in their own rooms in the lodge, leading them to spending much more time in their own rooms. One of the best features of staying at the lodge is the establishment of close interactions among Swedish students, Korean students and Gifu University tutor students. They must never be deprived of precious opportunities for such interactions. In this regard, I proposed that it might be good to provide the Internet service not in each of the student rooms in the lodge but to

place PCs in a public space. Asked about the proposal, many (18) students (including those who wished to use a wireless service) liked the proposal. With due consideration paid to the matter of cost, the center is aiming to have PCs placed in a common space to ensure Internet access.

I would like to add one point regarding the facility improvement to be made next year. The International Student Center does not have its own space for free use, causing the center difficulty when securing a classroom for Japanese language classes each year at the summer school. This year, the center used the university's open laboratory space for a fee. From next year, the center will be provided with four rooms that it can use freely, finally realizing the solution to this problem of the past several years.

Health Management

One of the best things about this year's summer school was that there were no incidences of serious diseases or injuries. Past years had seen the occurrence of traffic accidents due to the use of bicycles. However, there were no accidents this year. Why not? I asked the students about it, and also considered the matter myself.

This year's students replied that they had ridden their bicycles very carefully. Last year, two major bicycle accidents occurred, making it impossible for the persons involved to participate in some of the summer school's events. This year's students were well informed of such a disadvantage, which may have worked as a good motivating factor.

The rainy season was soon followed by blistering hot days. The weather was certainly harsh, but it might have encouraged many students to use the school bus, rather than commute by bicycle. Moreover, since an air-conditioner was installed in each of the student rooms, that helped the students to sleep soundly. Until last year, the students used to gather in a public space with an air-conditioner until late at night and suffered from lack of sleep, a marked con-

trast to this year.

I sincerely hope that, with consideration given to the characteristics of the participating students, the summer school will be held safely and soundly with nobody suffering from injuries or diseases, next year or after.

Interactions between Students of Eight-week Course and Four-week Course

In the present form of the summer school, the participants of the eight-week course are Swedish students, who are joined in the latter half of the eight-week course by Korean students who participate in a four-week course. In past years, there were some cases where the eight-week course students and the four-week course students could not adapt themselves to each other, partly due to the difference in nationality. There were differences depending on the year in the extent to which students could not interact well with each other. This year's students were asked about this problem for the first time in the history of the summer school, although it might have been psychologically difficult to answer frankly.

Fortunately, this year, the number of students who said that they could not adapt themselves to each other until the end of the summer school was very small (just one student). Although the result was relieving to the International Student Center, it is still necessary to deal with such a problem carefully.

Another similar problem was that some of the four-week course students complained that they found it difficult to join in conversations between the Swedish students and the Japanese tutors, who the four-week course students thought were on too good terms with each other. In past years, there were always students who replied thus in the free comment space of the written questionnaire sheets, although the number of such students was small. This year, however, no students wrote such a comment in the questionnaire, which indicates that

there were no major problems in human relationships at the lodge.

Every year, the final question of the written questionnaire is an overall evaluation of the summer school. This year, all the students replied that the summer school was "very good" or "good." The center hopes that next year's summer school will once again satisfy and gratify its participants.

(Momoko Tsuchiya)

アンケート集計結果

（・マークは学生の自由記述コメント。原則として学生の書いたとおりに記載し、英文には和訳を付した。）

回答方法：5～1（原則）のスケールから適当なものを1つ選択

全回答者数：21

I 日本語の授業（Japanese language classes）について

1. 日本語のプログラム（午前は授業・午後は自習 self-study, 月曜～木曜）について

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	8	12	1	0	0

- 発表が多すぎるかもしれません
- 発表が多すぎる…and they weren't very well planed（そしてそれらはあまりうまく練られていなかった）
- Even though the presentations were short, because of misunderstandings, bad organization and lack of assess to internet, it became somewhat of a bother.（たとえ発表が短くても、解釈違いやあまり準備できなかったり、インターネットへのアクセスができなかったために、いくぶん悩みの種になってしまった。）

2. クラスで使った教科書などのレベルについて

	難し すぎた	少し難し かった	ちょうど よかった	少し簡単 だった	簡単 すぎた
	5	4	3	2	1
(回答者数)	0	7	14	0	0

- ぶんぼうの説明はあまりよくないと思います。
- たんごが多かった。一日中に全部習う事がむずかしいです。
- Start with grammar, then do the listening part（文法から始めて、それからリスニングを）
- Too much vocabulary, it would be nice to be recommended what words to learn（あまりに単語が多すぎた。どの単語を学ぶべきかを推奨

してもらえるとよかった。）

3. 日本語の教え方について

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	3	11	1	6	0

- まずたんごとぶんぼうを教えて、それから聞く練習をするのはよかったです。

4. 日本語の授業時間数について

	多すぎた	ちょうど よかった	少なすぎた
	5	3	1
(回答者数)	2	19	0

II 日本事情の講義（Japan-related lectures）について

1. 日本語の授業のほかに、日本事情の講義があることについて

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	5	2	12	3	0

- おもしろかったですけど、ときどきちょっとわかりにくいでした。
- よくわかりません。すいぶん眠くてあまり集中できませんでした。

2. 日本事情の講義を通して日本についてたくさん勉強することができましたか。

	できた	少し できた	あまり できなかった	できな かった
	5	4	3	2
(回答者数)	7	12	1	0

3. 日本事情の講義の中で、どれがよかったですか。下から1つえらんでください。

☐ 岐阜県の自然・産業（7／1）	3
☐ 相撲（7／13）	10
☐ 能・狂言（7／14）	3
☐ 狂言実演（7／20）	6

※ルンド大生だけ □能実演（6／22）7

どうしてその講義がよかったですか。理由を書いてください。

- とても面白かったです。でんとうてきな日本文化だからです。
- 橋本先生からです。よく教えてくれました。
- 私たちの留学生はそのじつえんに自分で色々なれんしゅうできました。（相撲もとても面白かったです）
- そうこうぎのやり方が楽しかった。
- 先生はおもしろくてよかったです。それにのうの着物の着方についてを習うことはおもしろかったです。
- すもう：橋本先生の教え方はおもしろかったし、そのこうぎがよかったです。
のうじつえん：のうの先生はおもしろかったし、いろいろなおもしろい練習をしたし、そのこうぎもよかったです。
- おもしろかったですがときときあまりわからなかったです。ちょっとわかりやすくしたらいいとおもいます。
- 先生の日本語はかんたんだったからわかりやすかったです。
- 能の服の着方を見せてもらいました。面白かったです。
- Since we stayed as long as we did it was interesting to know some more about Gifu.
（私たちは岐阜に滞在している限り、岐阜についてもっと知ることができて面白かった。）
- Because we had a bit too much nou-lessons and because Hashimoto is awesome.
（能の授業が少し多すぎたから。またはしもとせんせいはとてもすばらしかったから。）
- 直接体験してよかったです。
- 国へ帰るでも見る事が無いから。
- 狂言実演を実際に見てよかったです。
- 実際に見てよかったです。

4. 日本事情の講義で、ほかに勉強したいトピックがありますか。あれば、書いてください。

- 神道についてのこうぎが勉強したかったです。
- 日本の歴史のが好きですけど、一つの授業で時間があまりないかもしれません。
- げいしゃについてを勉強したかったと思います。

す。

- 歴史（せんごく時代）
- 日本の現在の文化 こいかつ、こんかつ、上下関係
- いいえ、このままだがちょうどいいと思います。
- A small history lecture would have been interesting.
（少し歴史の講義があつたらおもしろかっただろう）
- 日本の食べ物
- ないです。
- 日本の料理について…お願いします。
- わかもの文化

5. 日本事情の講義の回数について

	多すぎた	ちょうどよかった	少なすぎた	
	5-----	3-----	1	
(回答者数)	0	1	18	1

Ⅲ 日本人学生との交流授業（Exchange Class）について（ルンド大生だけ）

1. 工学部数理デザインの学生との交流（6月16日）について

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5-----	4-----	3-----	2-----	1
(回答者数)	2	8	4	1	0

2. このような交流授業を、何回くらいしたいですか。

☐ 0回（しなくてもいい）	2
☐ 1回	7
☐ 2回	6
☐ 3回以上	3

3. 交流授業について感想や意見があれば書いてください。また、日本人とどんなトピックについて話したいか書いてください。

- 日本人の学生はちょっと若かったです。同じ年ぐらいが学生はもっといいと思います。
- 1回か2回はいいと思います。こうりゅうじゅぎょうの時、いっしょに話すことはちょっとはづかしいですが、いいれんしゅうと思います。
- 工学部数理デザインの学生はちょっと若いと思いました。
- よかったです。

- 皆はちょっとわかいと思います。
- The students were rather young making some of the conversations a bit weird. Perhaps talking to 3rd or 4th year students would make for more interesting conversations.
(学生が若かったから、そのことが会話の所々をすこし変な感じにしてしまった。おそらく3年生か4年生の学生とならもっとおもしろい会話ができただろう。)

Ⅳ 見学 (Excursion) ・旅行について

見学 (美濃 6/17: ルンド大生だけ・土岐 〈7/5〉・相撲 〈7/15〉), 旅行 (7/22-23) は、それぞれ良かったですか。

【美濃 6/17・ルンド大生だけ】

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	11	1	4	0	0

【土岐 7/5】

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	11	1	6	1	0

【相撲 7/15】

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	8	2	7	2	0

【旅行 (上高地・高山・白川郷) 7/22-23】

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	6	5	4	3	2
(回答者数)	1	15	2	1	0

感想や意見を書いてください。また、ほかに行きたい所や、サマースクールでしたいことがあれば書いてください。

- かんぺき
- 立派な見学！！
- これはちょうど良かったです。
- 全部のけんがくは楽しかったですが、高山の旅行は一ばん楽しかったと思います。たくさんいろいろな場所に行って、本当にきれいでした。すもうを見たこともおもしろいけいけんです。それに、もちろんたいこととうげいをしてみた

ことも楽しかったです。たいこをした時ゆかたを着たことが好きでした。

- 高山に旅行する時は、神社の使い方を説明してもらいたかったです。
- 色々なことが習えてよかったです。色々なきれいな所に行けて、よかったです。
- 見学と旅行のおかげで、日本の文化についてたくさん習いました。とても面白かったです。
- All the trips were great, but Takayama + Japan Alps was superb. The nature was beautiful and the hotel + onsen very nice. Also the museum visits were very interesting.

(すべての旅行がすばらしかったが、高山と日本アルプスはすばらしかった。自然はきれいで、ホテルと温泉はとてもよかったです。また、博物館見学はとてもおもしろかった。)

- Everything was great! (すべてがすばらしかった!)
- It was very interesting to watch and try our hands on different things in Japanese culture. I would recommend you do this next as well. 本当に面白かったですよ!
- (いろいろな日本文化を見て、自分たちの手で挑戦できたことがとてもおもしろかった。次の年も同様にすることを勧めます。)

- 旅行のスケジュールがいっぱいだったのでとてもたいへんだった。もっと Free time があれば...
- サマースクールのおかげで色々な日本文化を沢山教えてくれて本当に良かったです。韓国の学生は4週間だけで交流授業がないので次の学生はやってほしいです。
- 京都とかなら、ごべに行きたいです。

V 郡上でのプログラムについて

プログラム (茶道 tea ceremony, 郡上おどり Gujo dance, 紙細工 paper craft, 剣道, 書道 calligraphy, 剣道/ゆかた, ホームステイ) はどうでしたか。

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	18	3	0	0	0

感想や意見を書いてください。

- ホームステイが一番よかった経験だと思います

が、全部は面白かったです。

- 面白くて、楽しかった経験できました。
- 本当に楽しかったです。
- 郡上でのプログラムはとてもよかったです、よていはちょっといっぱいだったと思います。つかれました。
- ホームステイは本当に楽しくて、おもしろかったです。ホストファミリーはやさしかったです。ホームステイの間に、ぐじょうはちまんのほんおどりに行くことは一ばん楽しかったです。本当に好きでした。
- ホームステイはとてもよかった。そのほかはよかった。
- 郡上の経験は全部立派！！
- エクスカーションなんてずいぶん楽しくて面白かったです。特に郡上のはよかったです。
- かんぺき The tea ceremony was interesting, but I didn't really like the tea or the cookies.口に合わないでしょう。(茶道はおもしろかったが、抹茶やクッキーが好きではなかった。)
- Too little food between lunch and dinner the first day. If the Gujo dance was "planned" I think everyone should know of it. My host family had at first no intention of going. (初日、昼食と夕食の間にほとんど食べられなかった。もし郡上踊りが計画されていたなら、みんなそれを知っておくべきだ。最初私のホストファミリーは行くつもりなかった。)
- Homestay was wonderful, all parts of it. Meeting and living with the family, the dance, and getting to experience a couple of "real" Japanese (ホームステイはすばらしかった。家族に出会い、生活したこと、郡上踊り、いくつかの本当の日本を経験できたこと。)
- 郡上おどりでチューターが来てよかったでした。
- 郡上のプログラムで日本で新しい経験をした、新しい文化を見て、よかったです。そして日本でも新しい家族ができてうれしかったです。
- 郡上のプログラムのおかげで日本の家族ができてありがとうございます。でもちょっと時間が少なかったから色々な思い出を作るためには残念でした。
- とてもおもしろかったです。

VI 宿舎 (dormitory) とチューターについて

1. 宿舎の設備 equipments について

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	9	12	0	0	0

宿舎にほしい設備があれば書いてください。また、問題点も書いてください。

- スーパーファミコンがあればかんぺきだ！
- 新しいフライパンはひつようなものです。
- たぶんもっとやわらかいまくらがほしいと思います。
- もちろん、学外研にコンピューターとインターネットがほしいです。
- オープンがあれば、もっと良いと思います。
- オープンさえあればかんぺきだと思います
- インターネット、メールと色々な予約のため
- Sometimes it felt like there was some degree of overprotection. We are afterall university students, even though I guess I can understand why it was as it was.
(時々過保護のように感じた。なぜなのか理解できるけど、そもそも私たちは大学生です。)
- We had a lot of good equipments at 学外研, but it weren't perfect. (internet) Very good though !
(学外研にはたくさんいい設備があるけど、完璧ではなかった。(インターネット) でもとてもよかった！)
- ない
- 国際電話機がほしいです。
- 問題点はないんです。ちょうどよかったです。

2. チューターが宿舎にすることについて

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	10	5	4	3	2
(回答者数)	1	20	0	0	0

その理由を書いてください。

- チューターさんといっしょにたくさん楽しいことをして、寮でもよく日本語を話しました。
- チューターたちは親切で本当にいてよかった。
- 困った時、チューターにれんらくできました。そして、チューターと仲良くなれました。
- チューターさんたちはみんな楽しくてやさしい人です。いつもいろいろなことを話したりいろ

いろいろなことをてつだってくれたりしました。

- みんなさんは本当にやさしくて、いつもてつだってくれて、宿題をなおしてくれて、いっしょにあそびに行きました。本当に楽しかったです。
- チューターさんといい友だちになることができたし、いっしょに日本語が話せたし、とてもよかったです。
- チューターさんはやさしくて、いっしょにあそぶことはいつも楽しいです。チューターさんが好きです。
- 楽しかったよ！それに宿題の手伝いをしてもらった。
- チューターはみんなやさしくていい人です。
- 私の作文を読んだら、わかります。
- みなは本当にすごい！スウェーデンにかえる時さびしくなります！
- やさしかったあああ～
- If I could give 10 points, I would. It was very nice to have the tutors staying at the dorm, so that we always had someone to speak Japanese to. They also helped us with our homework when necessary, and we could plan lots of activities. (もし10ポイントをあげれるならそうするだろう。寮にチューターさんたちが泊まるのはとてもよかった。その結果、私たちにはいつも日本語を話せる人がいた。かれらは必要なときはいつも私たちの宿題を手伝ってくれて、たくさんのアクティビティーを計画してくれた。)
- おもしろいから。
- いっしょに話し合ったりして日本語も上手になって、もっとしたくなりました。
- いつも側にいて手伝ってくれてよかったです。
- 話す時に正しい日本語に表現を考えてくれたり悩みがある時には友のように話してくれたり
- 日本のともだちがなってよかったでした。

Ⅶ サマースクール全体について

1. このサマースクールの全体的な評価 evaluation について

	とても よかった	よかった	ふつう	悪かった	とても 悪かった
	5	4	3	2	1
(回答者数)	16	1	4	0	0

2. これからのサマースクールのために、提案 suggestion や意見があれば書いてください。

- 教室にもっと柔らかいイスを入れてください。
- 別にないです。とてもよかった経験です。
- ちょうどいいですよ。
- Overall a great experience. I would definitely do it again now afterwards, knowing how it was. The only thing I will regret about coming here is that I have to leave !
(全体としてすばらしい経験だった。その後振り返っても、どれだけすばらしかったか分かっているの、絶対にまたそれをしたい。私が唯一ここに来たことを後悔するとしたら、帰らなければいけないということだ！)
- T' was fair, I should bestow some attention to there being some minor faults, albeit it being of no bigger impact to the general impression of the entirety of the サマースクール.
(チューターは公平だった。サマースクール全体の印象に大きく影響するほどではないものの、いくつかの些細な問題があったことに私は注視すべきだ。)
- I think that going through a new step every lesson was too much, the things that were new didn't have time to sink in before new things came again. If you only have half as much I think I would probably have been able to learn more, because then things I've learned would stick and not be forgotten the next day. I also think that when we were given assignment to do a presentation and even though we had afternoon classes and therefore no chance to use a computer, the next day we were still expected to be able to work on it in class. That was a bit unrealistic. Other than that I really enjoyed this summer course ! (授業毎に新しいステップを練習するというのは多すぎだと思う。新しく出てきたことを、再び新しいことが出てくる前に、身につけておく時間がなかった。もし私の考える量の半分であれば、学んだ事が定着し、翌日に忘れることなどなかっただろうから、もっと習得できたのでは…。また、たとえ午後に授業があってパソコンを使う機会がないとしても、発表のための課題を出され、翌日には授業で取り組めるとされている。そ

れは少し非現実的な事だと思う。それ以外はこのサマースクールは本当に楽しかったです！)

- ない。あそうさん、まいにちありがとうございました。
ました。
- 本当に今回のサマースクールのおかげで色々な日本文化や日本語など沢山教えてくれてありがとうございます。楽しい思い出を作って国に帰りたいと思います。また、会があれば留学とか遊びに行きたいです。本当にありがとうございます。
- 今もいいです。ただバスの時間が3時以後にもあればいいかな？と思います。
- 4週間コースで時間が短いのが惜しいです。

第二部 夏期短期留学（派遣）

グリフィス大学

●オーストラリア グリフィス大学参加者名簿（合計17人）

日程：2010年8月25日（水）～9月24日（金）4週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	中 村 知 佳	工学部応用化学科	3
2	永 川 晴 奈	工学部応用化学科	3
3	伊 藤 美 穂	工学部生命工学科	3
4	川 合 杏 奈	工学部生命工学科	3
5	久 野 美由紀	工学部生命工学科	3
6	黒 柳 陸	工学部電気電子工学科	3
7	衣 川 涼 子	応用生物科学部食品生命科学課程	3
8	水 谷 圭 佑	応用生物科学部食品生命科学課程	3
9	長谷川 晴 香	医学部看護学科	2
10	酒 井 尚 樹	工学部応用化学科	2
11	今 井 紗英子	工学部生命工学科	2
12	塩 谷 明 宏	工学部人間情報システム工学科	2
13	庄 司 千 佳	応用生物科学部生産環境科学課程	2
14	後 藤 佳寿美	地域科学部	1
15	石 黒 裕 梨	医学部医学科	1
16	濱 口 真 帆	応用生物科学部獣医学課程	1
17	原 知 里	応用生物科学部生産環境科学課程	1



事前研修

毎週水曜日と金曜日の週2回2人ずつ、4人の留学生が交互に私たちに英語を教えてくださいました。時間は16:30~18:30までの2時間でした。最初の授業は自己紹介から始まりました。毎時間前半は英語表現などを教えてもらい、後半はゲームをしました。学んだ英語表現は、自己紹介、道の尋ね方と答え方、依頼の仕方、Yes or Noの様々な表現方法、心理テストのようなことをしながら形容詞を覚えるなど日常で使う重要な表現を学びました。また、自分の行きたい国や友達についての紹介文を書く練習もしました。わからない表現は留学生が教えてくれました。紹介文については、オーストラリアに日本の名所の写真を持って行ったので、その時に一枚、一枚説明した時に練習がとても役に立ちました。道の尋ね方と答え方は同じような授業をオーストラリアでも習いました。

グリフィス大学の授業は、全て英語が使われるのでそれが心配でしたが、この事前研修も全て英語で説明を聞き、ペアやグループで話し合ったりするので、英語のリスニングの練習にもなりましたし、英語に慣れることができたので、グリフィス大学の英語の授業も初めから抵抗なく受けることができました。

授業の参加者はサマースクール参加者だけでなく、英語科の人やサークル(留学ラブ)の人など様々で、英語が好きな人は誰でも参加できるものでした。私も一度友達を連れて参加しました。新しい友達もできました。ある日は「ベジマイト」というオーストラリアの調味料を食べたこともありました。味は日本人の口には合わないと感じましたが、貴重な体験ができました。また、外のグラウンドでオーストラリアのブーメランをやった日もありましたし、オーストラリアについてのクイズなどをした時もありました。英語だけでなくオーストラリアの文化を学ぶことができたので、とても印象的な授業でした。チップなど外国特有の習慣など生活習慣の違いについて話してくれた授業もありました。

事前研修では英語を学ぶことはもちろんですが、英語だけでなくオーストラリアの文化や生活習慣を知ることができたので、大学の英語の授業とはまた違った授業でした。自分の言いたいことをうまく言

葉にできなくても、なんとかして伝えようとする姿勢を身に着けることができたので、1か月のホームステイ生活も語学のことで悩むことはほとんどありませんでした。オーストラリアでの生活についての不安を解消する良い機会となりました。

(後藤 佳寿美)

出発前およそ1ヶ月間、週2回水曜日と金曜日に事前研修が行われました。

先生は、交換留学生として岐大に来ている留学生です。

ゲーム形式で楽しく英語に触れさせてもらえたため、英語が苦手な自分でもわかりやすく学ぶことができました。

授業内容としては、主にlisteningとspeakingをやりました。

まず前者からですが、先生の話したことすべてを理解するのは困難ですが、じっくり集中して最後まで聞いていると少なからず何を言っているのか分かってきます。事前研修で少しでも英語に慣れたおかげで、オーストラリアへ行っても特に動じませんでした。

反復することで、英語をすべて聞きとることも可能になってくるように感じるようになりました。結果的にそれは不可能でしたが、希望が持てるまでに至ったと思います。

このように英語に関して前向きな考えを持つようになっただけでも、大きな進歩であると感じます。

次に後者についてですが、正直言って自分は英語の発音に関してまったく自信が持てていなかったため、手を挙げて発言することも限りなく無に近い状態でした。しかし、なにも発言することなく授業が終わるわけでもないため、恥ずかしがりながらも何とか発言していました。

その当時は、授業が嫌に思うこともありましたが、今思うとそうして無理やり話していたことが現地で役に立ったと思います。

自分は、事前研修であまり話さなかったことを後悔したために、“恥ずかしがって何もしゃべらないで終わるのは時間の無駄であり、何の得にもならない。それよりも、間違えてでもしゃべった方が利に



です。私は留学して初めて、英語の大切さを知りました。言葉も文化も違う国で生まれ育った人と、英語を通じてコミュニケーションをとることができ、本当に英語に感謝です。また、これからますます勉強していきたいと思えるきっかけにもなりました。最後の日には、一人ずつ卒業証書をもらい、これも一生の宝物です。

グリフィス大学で出会った留学生の人達にはみんな夢があります。将来はアメリカで働きたいというサウジアラビア人。自分の国に戻ってエリートとして働きたいという夢を持つ台湾人。自分の苦手分野はすぐに克服しようと、常に努力し続けるタイ人。日本が好き！と言っていろいろ日本語を話そうとするたくさんの人々。19歳で親元を離れ、寮で暮らす韓国人。みんな、強い意志を持ってオーストラリアに来ています。留学生の人達はみんなそれぞれの夢を持ち努力していて、とても輝いていました。こんな素敵な人達と出会えて一緒に勉強できた一カ月は、私の中で本当に貴重な体験でした。

自分の名前の漢字をサウジアラビア人に見せたら、「難しすぎて書けないよ！アラビア語書いたらこんなに簡単なのに。」（もちろん英語で）と言ってアラビア語で自分の名前を書いてくれたり、わざわざ辞書で調べて日本語でメッセージを書いてくれたり、ほんの些細なことでも私にとっては大きな感動でした。

私はこの出会いを通して、人との出会いが自分の人生に与える影響の大きさを実感しました。これから先の人生で、たくさんの人との出会いがあると思いますが、一つ一つの出会いを大切にしていきたいと心から思うようになりました。私はもともと人見知りな性格でしたが、今ではいろんな人と話した

い！という積極的な気持ちを持つことができるようになりました。この気持ちを忘れずに、これから過ごしていきたいと思います。本当に貴重な体験をさせていただいて、ありがとうございました。

（伊藤 美穂）



最初の一週間の授業はオーストラリアでの生活に慣れるためのものでした。大学から一緒にサマースクールに参加した人たちの事もあまり知らなかったので、一週間一緒に授業やレクリエーションに参加してお互いの事を少しでも知れて安心できました。授業の中では英語でゲームをしたり、オーストラリアの動物や歌、アボリジニの文化について学んだりしました。一日がかりでブリスベンへ連れて行ってもらいましたが、車で約45分と、あまり近くはなく、その後自分達で行く機会が無かったので皆で行けてよかったです。

二週目から始まったクラスで私はGE3でした。授業内容は過去進行形、現在完了形、関係代名詞などと日本で習ったことのある文法で、初めは簡単すぎると思いましたが、すべて英語だった事もあり、最終的には適度な難易度だったと思います。今まで、ただ頭文字を大文字にして使っていたS, V, Oに加え、助詞、名詞、形容詞、疑問詞など全ての単語に初めは少し戸惑いましたが、とても楽しかったです。

午前中二時間二コマの授業の中では、文法、ライティング、リーディング、リスニング、スピーキングがまんべんなく扱われ、飽きることなく時間が過ぎていきました。私は、リーディングとリスニングは好きだけどライティングとスピーキングが苦手でしたが、授業の中で完璧を求められない事





で、少しは抵抗がなくなったと思います。英語での意見交換もいい経験になりました。

日本での英語の授業ではあまり行われない英語だけの授業やスピーキングが、一番大きな違いだったと思います。

私のクラスは残念ながらほとんどが日本人でしたが、母語が英語でない日本以外の国から来た人たちと英語で会話をして、お互いの典型的な発音の違いと理解の難しさを感じ、異なる宗教や文化にも触れました。これは日本に居るだけではできない経験だと思いました。

三週間の授業は、先生の英語も分かりやすく、英語が苦手でもそれほど心配にはならなかっただろうし、反復練習の中で文法をしっかりと理解、復習できたし、苦手な分野にも取り組む事が出来たのでよかったです。学生が考えて自ら参加するオーストラリアスタイルの英語の授業が、日本でも広がったらいいなと思います。

日本に帰って来てからまた英語をあまり使わない現実の世界に戻ってしまったようなので、できることならまた英語圏の国に行きたいと思うくらい貴重な体験でした。

（原 知里）

初めの1週間は、岐阜大学の学生だけで授業を受けた。道案内の方法などの簡単な英会話を習ったりした。オーストラリアの歌や動物についても習い、良かったと思う。この授業で、ブリスベンの観光にも行った。ブリスベンの美術館はとても大きくて沢山の展示品があった。カンガルーポイントにも行き、すばらしい景色を見ることができた。他にも、アボリジニの文化を学ぶ時間があり、できなかったが火をおこそうとしてみたり、縄を作ったり、ブーメランを投げる体験ができた。ココナッツアイスというお菓子を作ったりもして、とても面白かった。

次の週からは、一般のクラスに入った。クラスはテストの結果によって分けられる。一般のクラスには様々な国から来た人々がいて、話してみると英語の練習になるし、その国の文化のことも知ることができるので良かったと思う。授業自体は過去形などの文法を習ったりして日本人には簡単なので、積極的に外国人の学生や先生と関わったりして英語を話すようにするのが、自分の英語の上達の為に良いと思う。クラスは少人数でいくつかの大きなテーブルに何人かで座るようになっているので、同じテーブルの外国人の学生と仲良くなって話をする事や、文法のことなどについて分からない学生がいたら教えることなどをすると良いと思う。オーストラリアに行って他の国の人々と一緒に英語の授業を受けてみて、日本人は英語の文法は分かるが話せないというのは本当らしいということが分かった。日本にいるときは英会話教室などに行かなければ英語を話す機会はまず無いので、こういった機会に沢山英語を話してみるべきだと思う。相手の言っていることが聞き取れないことや、自分の言いたいことがなかなか伝わらないこともあるが、とにかく一生懸命に聞く、話すことをするのが大切だと思う。また、自分がオーストラリアに行って一番進歩できたと思うことは、外国人に対して英語で躊躇することなく話せるようになったことだと思う。

（濱口 真帆）

ホームステイ

朝は6時半に起床で、朝食はスクランブルエッグかシリアルを選択だったため、私はほぼ毎日シリアルを食べていました。マザーは平日ほぼ仕事で朝5時半に家を出るので、朝に顔をあわせることはほとんどありませんでしたが、シリアルとランチのお弁当とともにフルーツのりんごやバナナを用意しておいてくれました。

ホストファミリー

たが、あまり効果がなかったので困りました。そこで、夜に手紙を書き、自分の思いを伝えてマザーに渡しました。それから、だんだんとマザーは私に対しゆっくりと話してくれるようになりました。マザーは本当に優しい人で、私の拙い英語を聞き、会話をしてくれました。平日はランチのサンドウィッチを作ってくれ、ときには近くのバス停まで送ってくれたり、など多くのことをしてくれました。

私のマザーはキャンドルがとても好きだったので、私は別れの日小さな手紙とキャンドルをプレゼントしました。マザーはそのプレゼントを本当に喜んでくれました。

また、マザーは私に犬のぬいぐるみとかわいい
ポーチをくれました。色々あったけれど、全てが大事
な思い出です。とても充実した楽しい1ヶ月を過
ごすことができました。



 オーストラリアに到着する前、わたしは初めての海外、サマースクール、ホームステイにとっても緊張していました。勉強するところはどんな場所なのか、授業はどのようなものなのか、自分の英語力でも大丈夫なのか、ホストファミリーと上手くやれるだろうか、などなど、考えだしたら止まりませんでした。ホストファミリーの家族構成やステイ先などは出発前に教えてもらえ、わたしのステイ先は、お母さんと娘さんと息子さんがいるお家でした。

オーストラリアに到着して、大学に着き、今後の授業日程など簡単な説明の後、ついにホストファミリーと対面。一人ずつ名前が呼ばれ、迎えに来てくれたホストファミリーの方とステイ先に向かいます。次々に他の人の名前が呼ばれ、自分の名前が呼ばれるのをドキドキしながら待っていると、遂にわたしの名前が呼ばれました。わたしを迎えに来てくれたのは、ホストマザーで、聡明な笑顔が印象的でした。車に乗り込み、ステイ先へ向かう間、ホストマザーと会話をしたのですが、なかなかうまくコミュニケーションがとれませんでした。少し落ちこみながら、ステイ先に到着すると、そこにはテレビでしか見たことのないような立派なお家がありました。家に入り、自分の部屋だと案内された個室はと

でも広く、ベッドやデスク、本棚、クローゼットがありました。荷物を部屋に運んで広げ、日常品などを整理し、クローゼットなどにしまいました。その後、ホストマザーが大学の行き方を教えてくれると言うので、一緒に家を出て、最寄りのバス停を教えてもらい、どの番号のバスに乗るのか、どこで降りるのか、など教えてもらいながら大学までバスで行き、大学のバス停に到着。さらにそこから大学の入り口までどうやって行くのか説明されながら行き、それから帰りのバス停の場所や帰りのバスで降りる際の降車ボタンを押す目印の場所は何か、などを教えてもらいながら帰宅しました。丁寧に実践しながら教えてもらったのでとてもわかりやすく、翌日大学に行く際の不安が軽くなりました。

初めは緊張してあまり話せませんでした。電子辞書を見せながら、落ち着いて話すと、ちゃんと伝わりました。ホストマザーとお茶をしながらおしゃべりするの、とても楽しかったです。また、ホストマザーが夜ごはんを作っているときや、自分がその手伝いや皿洗いをしているときもホストマザーとたくさん話をしました。とてもスピーキングとリスニングの練習になり、ステイの後半には電子辞書がなくてもだいぶ大丈夫になりました。慣れてきたころにはホストマザーに、だいぶ英語がよくなったわね、と言われ、とても嬉しく感じたのを今でも鮮明に覚えています。

ホストマザーはとても親切で、でもいきすぎでないところもうれしかったです。カンガルーを見に連れて行ってくれたり、2、3回お昼に夜ごはんの残りをもたせてくれたりしました。娘さんと息子さんはそれぞれ13歳と20歳で、もう大きかったので、各自の生活があり、あまりコミュニケーションがとれませんでした。ときどき一緒にテレビを見たり、挨拶をしたり、夜ご飯のときに少し話したりしました。また、ステイ終了の三日前の晩には、二人で夜ごはんをつくってくれました。

オーストラリアは水不足なので、シャワーを四分以内にするのが、寒い間は少し苦勞しましたが、暖かくなり、慣れたら大丈夫になりました。バスタオルは貸してもらえました。また、洗濯はやり方を教えてもらい、自分で四日に一度くらいの頻度で行いました。パソコンはインターネットがつかないである一台を、ホストマザーに使いたいと言うと使わせてもらえました。朝ご飯はやり方を教えてもらい、自分で毎朝トーストを焼いて食べました。

また、わたしは早くて九時、遅くても十一時には就寝していました。休日は、友達といろんなところに出かけました。友人は朝、彼女のホストブラザーの通学のついでに大学まで送ってもらっていたのですが、友人のステイ先がわたしのステイ先ととても近かったので、ついでにわたしも拾っていただけることになりました。また、その友人の歓迎パーティーや誕生日パーティーにも出席しました。彼女のホストファミリーはとても熱心で、親切でした。

わたしが関わった全ての人はとても親切で優しく、温かかったです。慣れない外国生活で緊張していましたが、その人たちのおかげでなんとか生活になじむことができ、楽しくすごせました。とても感謝しています。最後になりましたが、ホストファミリーのみなさん、友人のホストファミリーのみなさん、グリフィス大学の先生方、岐阜大学の先生方、生協の方、留学生の方、一緒にサマースクールに参加した友達、などお世話になったたくさんの方々に感謝とお礼を伝えたいと思います。ありがとうございます。

（久野 美由紀）

皆さん、こんにちは！！ サマースクールに3年生で参加した水谷です。

このサマースクールでは、滞在中はホームステイをさせていただくことになっています。1か月のホームステイと聞くと知らない外国人の方とそんなに長い間一緒に暮らせるのだろうか…？と心配、不安になる人も多いと思います。しかも、滞在中の1日の半分の時間はホームステイ先にいるので、そこでいかに有意義にかつ気持ちよく暮らせるかということはかなり重要になってくると思います。なので、私は1度参加した経験を踏まえて、ホームステイ





イについて皆さんの気になるだろう点を項目ごとに説明したいと思います。良かったら参考にどうぞ！

1) ホームステイに必要なこと

・まずは笑顔！

ホームステイの家族は、私たちが楽しんで生活しているかをすごく気にしています。せっかく来てくれてエンジョイしてなかったらいやだな…と思っています。オーストラリアの生活は楽しいのに、帰ってきたら疲れたからといって無表情とかダメですよ。ホームステイの家族は心配します。特に会話する際、注意してください。英語が分からないからといって顔が引きつっていたりするのですが、それだと相手も心配して会話は弾みません！とりあえず笑顔は大事です。話してくれたら笑顔で聞き、一生懸命話してください。

・積極的に自分から話そうとする気持ち！

話すことを怖がっているのはダメです。ホームステイの人は私たちとコミュニケーションをとりたいと思っています。たいてい今日は何したの？何食べたの？など毎日声をかけてくれます。でも、それだけではあまり仲良くなっていかないので、自分からなにか質問してみたりしてコミュニケーションを多くとってみてください。仲良くなってくると最初となんか対応違うな～なんてこともありますよ！（笑）

・きちんとお礼が言えること！Sorry じゃなく Thank you！

ホームステイの方にはほんとにいろいろお世話になります。毎日自分のご飯をつくってくれて、洗濯をし、お皿を洗って、コーヒーやお菓子出してくれたり……ほんとにお世話になりっぱなしです。他人で



ある私たちをホームステイの家族として受け入れてくれているありがたさを感じ、きちんとお礼は言ってくださいね。ここで注意することは Sorry じゃなく Thank you！を使うことです。ついつい日本人は感謝の際、気をつかわせてしまって、すいませんという気持ちで Sorry と言いがちなのですが、それだとほんと「すいません」連呼になっちゃって、相手もいちいちもういいのに…ってなります（笑）。ちなみに私も注意されました！なので、すいませんではなく、感謝をこめて Thank you！を使ってみてください。

・単語力

よく単語が、分からなくてもなんとかなんとかなると聞きますが、実際なんとかなりません！一応少ない単語力でもフィーリングで通じたりするのですが、私は言いたいことがうまく言えず何回も困りました！単語力がなさすぎな点は否めませんが…（笑）まあでも、単語力はあった方がいいですよ。あつて損はしません。留学のための準備はここが大事だと思いますよ。あと単語より日常会話を覚えたほうがよく、文法は、日本人はよくできるので勉強しなくても OK です！

・ホームステイ先のルールは守ること

帰ってくるべき時間から、洗濯の回数、シャワー、電話、インターネットなどなど基本的なものをはじめ、ホームステイによってルールがあつて、結構違ったりします。私のホームステイ先はちょっと厳しかったため、そのハウスルール、マナーを知るまでに私は毎日何回も注意されました。（笑）今となつては笑い話ですが、実際なかなか最初はきつかったです！ちょっとここでは書きにくいので何があったかは、機会があつたら直接私を探して聞いて下さい。でもここでのポイントは、自分はこのホームス

テイの家族の一員だということです。ホームステイ先の方は家族の一員としてこのルールを守ってほしいと考え、家族なら家のことを考えているのは当たり前なので、たいてい自分も守っています。少々きつくてもここは頑張って守ってください！私も1週間ぐらいで全てのマナーをコンプリートしてからは怒られなくなりましたよ（笑）

その1）ホームステイをするためには必要なことが多々あり、それは結構重要です。上述したことは実際行ってみてほんとに思ったことで、嘘がないです。キツイなと思うところもあり、実行するのは難しいのではないかなと思うかもしれません。でもホームステイの方はほんとに親切で私たちのことを考えて、いい人ばかりなので、上記のことをやっていれば自然にコミュニケーションもうまくとれるようになって、仲良くなれます。そうすれば、1カ月はほんとに楽しく過ごせると思うので是非やってみて下さい。

では最後にこれは絶対ホームステイ先に持っていったほうがいいというものを挙げるので参考に！！

- ・シャンプー、トリートメント、コンディショナー、洗顔系

向こうのものは、においとかきつかったりするので、LUXなどは売っていますが、持っていくべきだと思います。

- ・ドライヤー（海外対応のもの）

240Vまで変圧可能なものでないと火を噴きますよ～、ドライヤーがない家が多いので、海にも入るし、ないと髪がギシギシになります！

- ・変換プラグ

変換プラグは2個ぐらい持っていくと便利です。

- ・お土産

子供や友人に渡せたりもするので、安いものでいいので多めに持っていくといいかもしれません。

（水谷 圭佑）

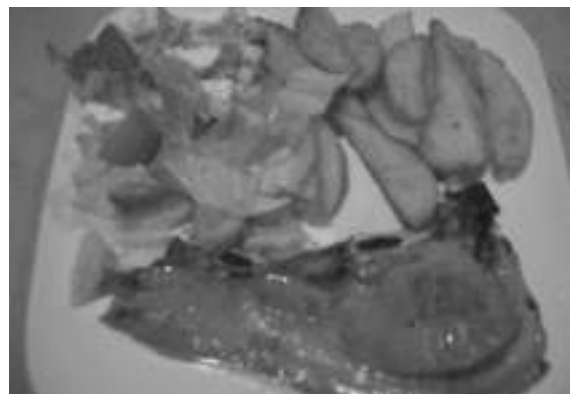
私が今回、オーストラリアでお世話になったホームステイ先は、Mr.Carey, Mrs.Jenny, Maddison という3人のホストファミリーがいるお家でした。家はオートロックの門がついた敷地内の一角で、敷地内には大きなプールもあり、車庫には



クルーザーもありとても驚きました。初日、オートロックの門を開けることができなくて門を乗り越えて外に出たり、ホストマザーに電話したりとハプニングもたくさんありました。また、同じ敷地内に住んでいる男の子と木登りをしたり、ボール遊びをしたり、かけっこをして遊んだりもしました。毎朝会っておばさんと話すために朝少し早く準備して、お喋りすることもありました。あと、Careyが本当の父親ではないことにとてもびっくりしました。そして、それを特に気にしていなくて、さらっと言われた時、日本との習慣や文化の違いをすごく感じました。

ホストファザーであるCareyは毎日5時半までには仕事を終えて帰ってきていました。家に帰ると必ず“Have a good day?”と聞いてくれ、“Let’s smoking!”と言われ、毎日一緒にタバコを吸いながら今日あったことや、日本のこと、オーストラリアのことなど、いろんな話をすることができました。つたない英語をちゃんと聞いてくれて、分からない言葉が多すぎる中、出来るだけ簡単な単語で話そうとしてくれたり、とても親切で優しいファザーでした。

ホストマザーであるJennyもとても優しく、いっぱい話してくれたり、答えやすい簡単な質問をたく



さんしてくれたり、雑誌を貸してくれたり、すごくいい人でした。お手伝いはしなきゃいけないものだと思っていたので手伝おうとしたら、“手伝わなくていいから、テレビを観たり雑誌を読んだりして”と言われ手伝わせてもらえなかったです。あと、毎日すごい量の夜ごはんを作ってくれて、食べきれませんでした。なのに、さらに“冷蔵庫にはパンもフルーツもジュースもあるし、戸棚にはクッキーやスナックやシリアルがあるから食べていいわよ”と言われ、毎日山もりの食糧に囲まれていたと思います。また、ハウスルールもそんなに厳しくなく、夜景を見に行きたいとか、パーティーに行きたいとか、バーに行きたいと言ったら必ずいつもおすすめの場所を教えてください、賛成してくれました。そのこともあって、オーストラリアでいろんな人に出会えて、話をしたり、たくさんのことを経験出来たのだなと思います。

娘の Maddison は12歳の小学生でした。すごく明るい子でたくさん話すことができました。日本語を学校で少し習っているみたいで、日本語で自己紹介してくれた時はびっくりでした。また、ホームステイ中に Maddison の誕生日があり、グロスが好きだと聞いたのでプレゼントしたら、家の中で動くときでも持ち歩いて10分置きぐらいに塗ってくれていてすごく嬉しかったです。また、そのときに Maddison の友達も来ていて、仲間にいれてくれて一緒にお喋りしたり、ダンスをみせてくれたり、教えてくれたりと、一緒にはしゃいで小学生に戻ったみたいで、



すごく楽しかったです。メイクしてと言われメイクしてあげたり、たくさん写真もとれて思い出もたくさん出来ました。

英語はもともと苦手で、海外には行きたいけれど英語が出来ないからと思っていました。でも、今回実際にオーストラリアでは、全然英語が出来てないのに、たくさん喋ってくれて、何回も説明してくれて、聞き取りやすいようにゆっくり話してくれて、ちゃんと聞いていてくれてすごく嬉しかったし、そのおかげで英語が今までよりも好きになりました。そして、また海外に行きたいという思いが前より強くなりました。

オーストラリアのあの家は私にとって第2の家で、いつかまた Carey にも Jenny にも Maddison にも会いたいと思っています。

(中村 知佳)

[illegible]

1週目 オーストラリアに着いてすぐに、金土日と3連休があった。オーストラリアでは3連休がとても珍しく、金曜日はゴールドコーストでも1年に1回のゴールドコーストショーがあった。これはステージや移動遊園地や乗馬や出店などが集まっているお祭りみたいなもので、岐阜大学の友達と一緒に回って、とても楽しかった。規模の大きさや土地の広さが日本とは比べものにならないと思った。こんな地方のショーでも、たぶん東京ディズニーランドくらいの土地があった。ホストマザーとホストシスターがこのショーで出店のバイトをしていて、私が遊びに行ったら、フライドポテトやチョコレートケーキを内緒でくれたのがうれしかった。

2週目 日曜日は父の日だったので、朝机の上にDADカードとチョコレートを置いてから友達と買い物に行った。オーストラリアでは毎日のように買



い物をしたが、全体的に物価は日本と同じくらいだと思った。しかし、衣料品は可愛くて安いものがたくさん売っていて、しかも冬物はシーズン終わりのセールだったので、たくさん買っておいた。あと、オパールの原産地なので、オパールは本当に安い。おみやげに、私と母用をセットで買った。

3週目 3週目の初めからクラス替えがあって、私はブラジルのパシーラという女の子ととても仲良くなって、平日も一緒にヨガに行ったりしていた。土曜日は朝から学校のイベントでBBQがあって、私もパシーラと一緒に参加した。ベーコンやハッシュドポテトやマッシュルームを先生が焼いてくれた。いろんなクラスの子が一緒だったので、たくさん友達ができたけど、ほとんどの時間はパシーラと2人で話していた。英語で話しているのに、話題が絶えないのがすごいと思った。私のクラスはブラジル人が多く、とても仲が良くて、毎週末みんなで集まってパーティーを開いているようで、私も呼ばれて参加した。クウェート出身の子の家が会場だったが、2面がオーシャンビューのすごく広いマンションだった。土曜日の夜8時からだったので、夜景がとてもきれいだった。このパーティーでは日本人は私しかなくて、とりあえずいろいろカルチャーショックを受けた。まず挨拶がハグと頬にキスなので、最初はすごく恥ずかしかった。最初はパシーラと話していたけれど、夜12時くらいから電気が消えてダンスタイム。みんな酔っていてみんな踊って、もうとりあえず楽しかった。私が体操とかバレエの技をやったらみんな盛り上がりしてくれた。それが朝5時まで続いて、その後はパシーラの家で仮眠を取って、すぐに岐阜大学のみんなとバイロンベイに行った。鯨の潮吹きが遠くにいっぱい見えたのがうれしかった。



4週目 友達と一緒に MOVIEWORLD に行った。長島スパーランドと同じくらいの規模かな。面白いアトラクションやハリーポッターのおみやげ屋もあって楽しかった。荷物を預けるところが自動に管理されていて、1時間以内に取りにいかねばならないという規制がめんどくさかったかな。土曜日の夜はまたパーティー。今回はパーティードレスを新しく買って着ていったら、みんなが褒めてくれてうれしかった。

最後の金曜日 グリフィスを1週間前に卒業したパシーラが、わざわざ私に会いに学校にきてくれた。それから2人でサーファーズパラダイスを歩いて最後の買い物をして、ビーチで座って今までのことを振り返ったりして話した。こんなに話が合う友達は日本でもそんなにいないなと思った。それからまたパシーラの家に行って、パスタを一緒に作って食べた。それからまた2時間くらい家で話していたら、あっという間に夜の9時、最終バスの時間になった。最後にハグと頬にキスをして、4年後またブラジルで会おうと約束した。

オーストラリアに留学をしてよかったこと、それは、世界中の人と友達になれたことだ。観光ではきっと入れないすばらしいコミュニティに入ることができて、たくさんパーティーに誘ってもらえて、ほんとうに楽しかった。それに、例えばパシーラと友達にならなかったら、私はブラジルに行きたいと思うどころか、ブラジルという国に興味も持たなかったと思う。しかし今ブラジルの人たちの陽気さや明るさを知って、私は地球の裏側のブラジルに思いを馳せることができるし、もっと世界中の国に行きたい、世界中の人を知りたいと思うようになった。

将来は医師になるけれど、日本だけに留まってい

たくはない。なんらかのかたちで、世界とつながっていたいとおもった。

（石黒 裕梨）

休日の過ごし方

○フレーザー島○

私は1ヵ月間オーストラリアにホームステイしました。その中で、私が一番思い出に残った休日は、1泊2日のフレーザー島へのツアー旅行です。最後の土日を利用して行ってきました。世界遺産に登録される島で、本当になにもかもが素晴らしかったです。全てが砂でできている島で、人も少なく、自然であふれていました。4輪駆動で砂浜をびゅんびゅん走り、車からクジラも見ることができました。ビーチフラッグをしたり、夜はオーストラリア料理のバイキングを食べたり、2日目の朝は日の出を見たり…。さらに、レインフォレストの中を歩いたり、湖に行ったり。レインフォレストは植物の半端ではない生命力を感じることができました。なぜ、砂だけで、あんなにも育つのか、不思議なことだらけでした。湖はすごく透明で透き通っていました。人工の全く加わっていない自然ってこんなにも素晴らしいものだと思えました。フレーザー島に行くと得たものはたくさんあります。このツアーに行くことで、人との出会いを通して自分の考え方が変わったと思います。宿泊先にいた外国人の人とお話したり、一緒にツアーに参加した人の人生経験の話を聞いたり、自分のためになることが多くありました。ですから、このツアーに参加して本当によかったと思いました。

他にも、カランビンに行ったり、ショッピングをしたり、ホストファミリーと一緒にBBQをしたり、ビーチに行ったり、プリズベンに行ったり、ゴールドコーストショウに行ったり、ナイトマーケットに行ったりなどなど。この例について、以下具体的に紹介したいと思います。

○カランビン○

カランビンという動物園に行きました。カンガルーに餌をやったり、オーストラリアならではのコアラを見たりしました。他にも鳥のショウを見たり、クロコダイルの赤ちゃんと写真を撮ったり、ディンゴなど日本では見られないような動物を、たくさん見ることができました。園内は小さい列車に乗っ

て移動することができ、時間的に半日あれば満足できるほどでした。帰りに食べたアイスがめちゃめちゃおいしかったです（笑）。

○ホストファミリーとのBBQ○

私のホームステイ先はマザーと2人だけでしたが、マザーの娘の家族の家に呼ばれて、マザーの息子も来て、みんなでBBQをしました。BBQといっても想像していたものとは違って、鉄板の上で巨大ソーセージやステーキなど、日本ではありえないものを焼いていました。日本では、焼けたものから食べていくけれど、ここでは、材料を全部焼いてから、みんなで一緒に食べ始める形でした。また、チップと3種類ぐらいのソースがおいてあり、チップをつけてたべていました。そこに少し文化の違いを感じたし、周りに日本人がいない状況で1日過ごすのは楽しかったです。

1ヵ月終えて思ったことは、休日は休日にしか行けないようなところへ行くのがいいと思いました。毎日学校があるとはいえ、最初の1週目以外は午前中で終わってしまうので、時間はたくさんあります。その時間を利用して、ビーチに行ったり、買い物したりすることが可能でした。あと、休日のほとんどを友達とすごしましたが、もっとホストファミリーとも過ごせばよかったかなと思います。ホストファミリーと休日を過ごすことによって、仲良くなるのはもちろん、英語しか通じないので自分のためにもなります。また、オーストラリアだからこそ経験できること、日本との違いをたくさん見つけることができたと思います。

（衣川 涼子）

休日をどのように過ごしたのか？

私がオーストラリアで過ごした期間はたった1か月だったので、家で寝ているということはず、アクティブに動き回っていたと思います。ホームステイのファミリーとコミュニケーションをとるためにも、いっしょに出かけたこともありました。

岐阜大学からの参加者と現地で組んだプランでフレーザー島という世界遺産の島に、一泊二日で遊びに行ったりもしました。遊んだことと言えばそのくらいです。

ホームステイ先のゴールドコーストには、テーマパークや観光地がたくさんあります。友人たちはそ

これらのテーマパークに行っていたと思います。しかし私はそういったものに一切興味がなかったので行っていません。おそらく他の参加者が遊びに行っていたので書いていることでしょう。参考にしてください。

私はというと友人に会いにブリスベンという場所に足を延ばしたりしました。何のためにオーストラリアに行ったかを考えて行動したほうが賢明だと思ったからです。人それぞれ目標や目的があってオーストラリアに行ったと思います。時間の使い方は人それぞれです。それぞれに合った時間の使い方をするのが良いです。私は大学3年なので、就職なのか大学院に進学なのかを悩み、判断する時期がくる学年でした。そこでどうしても直接会って話を聞きたい、参考にしたいと思わせてくれる友人がオーストラリアに3人いたので、彼らに会いに行ったりしました。

また、日本人が周りに多すぎて、ボーっと過ごしていたら何も身に付きません。実際に私は前から友人だったオーストラリア人、ワーホリをしている友人に会いに行き、そこでたくさんの外国人たちと触れ合いました。その時間は私にとって素晴らしい時間となりました。ここには書ききれない、書くことができないようなこともたくさんあります。けれども実際に文化、生活を知るのと同世代の若者から教えてもらうのが1番だと私は思っていたので結果的にとてもいい経験ができたと思っています。そういった意味でもテーマパークなどで過ごす時間より、私は人から吸収できる時間の使い方を優先しました。オーストラリアで出会った日本人にも私に刺激を与えてくれた人は何人もいます。ワーホリをしている人、起業した人、高卒後オーストラリアの大学に進んだ人、オーストラリアで生まれ、オーストラリアで育ったため日本語が話せない日本人、そういった人たちの話に聞きいっているだけで、時間はすぐに過ぎました。私の持っていない考えや、経験を積んだ人の話はすごく魅かれるものがあり魅せられました。

要は何のためにオーストラリアまで足を運んだかです。

グリフィス大学に通いましたが、授業の内容は高校で習ったことばかりです。go-went, play-played, 大学生でこれ知らない人がいますか？実際にこれを勉強したクラスもあるようです。ただ例外はあるのですが、クラス分けの時にハイレベルのクラスに



入れた人はおそらく違ったと思います。ハイレベルというのは岐阜大学に単位が認定されるレベルのクラスです。私たちの中では医学科の人1人でした。私のように人並みに英語を勉強しましたというレベルでは、100%不可能なレベルです。人並みでは通用しません。

go-went, play-played を例にしましたが、知っていることをまた教えられる授業は、よっぽど退屈するのが普通です。毎日つまらないな一とか思って授業を受けていたら時間の無駄です。日本でバイトでもしてください。そうならないためにも工夫する必要があります。1歩踏み出したらおそらく“ナニカ”を変えられるでしょう。

“また英語を学びたい！！英語を武器に生きていきたい！！”と本気で目標がある人は、サマースクールには参加しないほうがいいです。英語は言語です。そんなに簡単に身につくはずがありません。実際1年くらい行ったら、おそらくけっこう身に付くと私はオーストラリアで出会った人から感じ取りました。そういう人は迷わず1年行ってください。必ず“ナニカ”が得られます。

ただ私は、1か月オーストラリアでたくさんのことを吸収しました。英語もですが、それ以外のモノが大きいです。何事も経験だと思います。チャレンジです。壁にぶつかっても強行突破です。世界観を広げるには十分すぎる環境があります。自然を肌で感じる、モノの価値観、他人（日本人も外国人も）の人生観などたくさんのモノを吸収できました。今私は楽しかったというよりは、勉強になったのでよかったですと感じています。イマという自由に使える時間を有意義に使えたと感じています。

最後、話がかなり飛びましたが以上です。

（黒柳 陸）

私たちが、オーストラリアに到着してから日本に帰国するまでの1ヶ月間、ホームステイをしながら平日は大学に通って英語の授業を受け、休日は各自が自由に過ごしました。

私が休日にしたことを簡単に書きだしてみると、ゴールドコーストの最大のお祭りであるゴールドコーストショーを観に行ったり、ホームパーティーに参加したり、サーファーズパラダイスというゴールドコーストの中心地や、ハーバータウンという大きなショッピングセンターに行って遊んだり、ショッピングをしました。ゴールドコーストにはたくさんのビーチがあり、オーストラリアはまだ冬でしたが、日中は暖かくなるのでビーチへ行って海で遊び、シュノーケリングもしました。テーマパークにもいくつか行きました。

交通手段は主にバスを用いました。バスを利用すれば、観光地に簡単に行くことができましたし、ホストファミリーも「せっかくオーストラリアに来たのだから、いろんな所を見ておいで!!」と言ってくれたので、休日はほとんど外出しました。

休日は全部で9日あり、したことがたくさんあるため全部を詳しく書くことはできないので、これからホームパーティーに参加したことで Byron Bay というビーチへ行ったことについて書きます。

まず、ホームパーティーについてです。私がオーストラリアに到着した週のウィークエンドでしたが、すでにステイ先の家でホームパーティーが開かれることが決まっていました。私のウェルカムパーティーもそれに含まれていると言ってくれました。パーティーは夜の6時からだったので、朝と昼はホストファミリーと一緒に家の飾り付けをしたり、掃除をしたり、机や椅子を並べたり、料理の手伝いをしました。夜のパーティーのために朝早くからみんなで準備をしました。日本とはパーティーのスケールが違うことと、とにかく飾り付けや料理にすごく凝っており、盛大であることに驚きました。

右の写真がその時の写真です。（上）家の外にあるBBQをする場所の飾り付けの様子。（下）ホストマザーの料理を手伝っているところ。

パーティーの開催時間が近づくとホストファミリーの友人や近所の家族がどんどん家にやってきて、家が人であふれました。50人ぐらいの人が来ていました。殆どの人はドレスアップをしており、これもまた日本とは違うなあと感じました。オーストラリアの人は優しい人ばかりで、見知らぬ私にも笑





顔で声をかけてくれ、下手な英語を真剣に聞いてくれました。家の外ではBBQをし、中には料理がたくさん並びバイキング形式でした。食事が終わると、今度はデザートのケーキがたくさん並びました。そして大人は外でカラオケとダンス、子どもは家の中でWiiをして遊んでいました。私は外と中を行ったり来たりして、たくさんの人と話をしました。どの人も日本にとっても関心があるようで、特に私が空手をやっている事を話すと、興味深そうに聞いてくれました。子どもたちが私に「空手を教えて!」と言ってきたので教えました。パーティーは深夜まで続き、すべて終了したのは午前1時過ぎでした。パーティーは、すべてのことが私にとって初めての経験であったし、英語でたくさんの人と話すことができ、またオーストラリア人の人柄に触れることができたので、とても楽しい時がすごせました。

私は最後はさすがに疲れてしまいましたが、ホストファザーとマザーは最後の1人が帰るまで笑顔で、来てくれたお客さんをもてなしていました。ファザーがパーティーを開くのはお金がかかるし準備も大変だけど、みんなが楽しんでくれるし、なにより



みんなの心に残るものと教えてくれました。私は今までに、人のために自分の時間とお金をこんなにも費やすことをしたことがないし、したいと思ったこともないけれど、このパーティーからそういうことはとても気持ちがいい事なのだなというのを学びました。

次に、Byron Bay に行った事についてです。ここはオーストラリアの最も東に位置するビーチです。私のホストファミリーとグリフィス大学の先生がByron Bay はオススメの場所だと教えてくれたので、行くことにしました。

海が青くて、太陽の光に反射してきらきらしており、地平線も見えてとてもきれいな景色で気持ちよかったです。砂浜に座ってリフレッシュしたり、砂で遊んだり、海にも少し入りました。冬なので水は冷たかったですが、現地の人は普通に入って泳いでいたり、サーフィンをしていました。また、私たちはとても運がよかったので、沖の方に数頭のクジラが潮吹きをしているところを見ることができました。クジラの種類は忘れてしまいましたが、そのクジラは体長が約30m があると近くにいた人が教えてくれました。しかし、海も空も広いので、クジラが小さく感じました。

ビーチの近くにはたくさんのお店があり、みんなで見て歩きました。

ビーチで遊んだ後、近くの灯台に行きました。灯台は少し丘にあるのでそこからの海の景色がとてもきれいでした。灯台の周りには歩道があり、オーストラリア最東端の地点まで歩いて行きました。

休日にしたことは他にもありますが、そのなかでこの2つは私にとって特に印象に残りました。

(川合 杏奈)

心境の変化

自分はこのサマースクールという短期留学に、語学研修としての目的以外にもう一つ目的をもって参加していた。それは自分を変えるため、もう少し具体的なことを言えば、自分の視野を広げるため、自分の考え方を変えるためだった。

留学前、大学に入学して一年半くらいが経ち、高校までとは違う大学の雰囲気には戸惑いを覚えていた。講義予定を自分で組み自主的に学習する体制になることに自分は満足していたが、周りを見るとその体制を利用し怠ける人達が目についた。寝るだけならまだ迷惑をかけないのでマシだが、講義中に私語をしたり、挙句の果てにテストが近づいてくると私語で講義を妨害していた人や眠りこけていた人が、分からないから教えてくれ、ノートを見せてくれと言いだしたりする始末だった。聞いていないんだから当たり前だ、なんで邪魔されてきた自分が協力しなければならないのかと不満でいっぱいだった。だが自分はそのことに反発することはできなかった。なぜならそんなことをしたら自分が孤立しないわけがないからだ。そんな状況が続くことで小さい自分が嫌いになっていき、そしてこうやって他人を利用するのがうまい生き方で、そのための「友達・知り合い」なのかと考えるようになってしまっていた。大げさかもしれないが、留学前の自分はそんなことを考えていた。

そしてそんな時、このサマースクールの存在を知り、こんな自分を変えるには普通の環境ではダメだと思い、日本の外の世界を知るために言語も違い全く知らない土地に自分を置くことにした。様々な人達と触れ合い自分の考え方を見直すのにホームステイ・短期留学という形式は最適だと思った。ホームステイであれば長い時間現地の人達と関われるし、留学ならオーストラリアの人だけでなく他国の人も話すことができるからだ。

サマースクールを終えた今、180度とは言えないが自分は少し変わったと思う。もし変わっていないとしても、少なくとも変わるためのきっかけは掴めたと思う。その要因として二つのことがあげられる。

一つ目は当初の考え通り、海外の人達との触れ合いだ。自分はとにかく現地の環境に触れていたかったため、放課後を利用してバスで行ける範囲のほとんどの場所を訪れていた。もちろん誰か日本人と一



緒では意味がないので、よく単独で行動していた。その結果、もちろん何回も道に迷ったが、その度に自力でなんとかしようと思いを巡らせたり、通りすがりの現地の人に英語で尋ねたりして、とてもいい経験をすることができた。なにより驚いたのはオーストラリア人の優しさだ。道を尋ねた全ての人自分が対して親切にしてくれて、知っていれば丁寧に地図を使って説明してくれたし、知っていなくてもごめんねと申し訳なさそうな仕草を見せてくれたのだ。バスの運転手さんも優しい人が多く、そんな運転手さんに対して現地の人も挨拶や感謝の言葉を頻繁にかけていた。こんな光景は日本ではとても見られないもので、こんなに優しい人達がいてこんなに心温まる世界があるのかと、冷めていた自分は感動すら覚えたし、親切心がこんなにもいいものなんだと久しぶりに思い知らされた。またホームステイ先では二人の大学生の息子さんがいて、自分と同じくらいの歳だったので自分の進路のことをどう考えているのか尋ねてみた。すると兄の方は医者、弟は歯医者を目指していて、どうしてこの進路にしたのか尋ねると病気で困っている人々を助けたいんだと二人ともはっきりと答えていた。さらに通学していた大学でも聞いてみたところ自分の国で英語を使った仕事に就くためにここで勉強しているという留学生もいた。こんなにも堂々と言える彼らにとっても驚いたし、自分と同じ歳なのにはっきりした目標と意志を持っていて、将来について何の夢も持っていない自分が情けなくて仕方がなかった。そして些細なことで他人の不満をもらっている自分の方こそつまらない人間だと感じ、不満をもらす前に確固たる意志



を持った人になるべきだと思った。日本にも明確な夢をもった若者がいるが、そんな人と話す機会は今までなかったため自分にとっていい刺激になったし、そんな彼らと出会って話ができて本当に良かった。

要因の二つ目は、予想していなかったサマースクールの他の参加者との出会いだった。もともと海外の人との触れ合いを求めての参加だったので、大学の人達とは仲良くやっていければそれで良いと思っていた。でも学校で話したり、休日に出かけたりする中で自分と全く違った考え方に触れ、自分というものをしっかり持った人であることが分かった。見た目や少しの会話からその人の人間性が見えてくるとは考えていなかったが、大学ではこうやって他人と長い時間を共に過ごすことがなかったので、自分の周りにはこんなにもよくできる人がいるんだと分かり、不満ばかり感じて他人をもっとよく知ろうとせず、勝手にこういう人間なんだと決め付ける固定概念とあまりにも狭い視野を思い知った。そしてこのような考えを思い起こさせてくれた先輩方にはとても感謝しており、自分を主張していくことが当たり前の海外で多くの時間を様々な人と過ごし、深く関わっていけるこのサマースクールはとても価値のある活動であった。

このように自分はこのサマースクールを通して多

くのものを得た。ここで得られた貴重な体験や思い出は、いつか必ず自分の人生をよりよいものにしてくれるだろう。

（塩谷 明宏）

オーストラリアに行って

今回オーストラリアに行き、違う国の人や他の大学の人、違う文化と触れ合い、様々な経験ができたと思っています。

私は人見知りなので、打ち解けるまでは自分から話しかけることがあまりできないのですが、この研修では日本人にはもちろん、ホームステイ先のファミリーやホストファミリーの友達、学校でクラスが一緒になった留学生には自分で話しかけていかなければいけませんでした。そして、学校の授業でも発言しなければいけないので、積極性を持って生活するのは大変重要なことでした。

私のホストファミリーはマザー一人だったのですが、マザーについて日曜日に教会に行くと、マザーの友達が話しかけてくれたし、私がステイしていた1ヶ月の間にブリスベンとアデレードから2回友達が泊まりにきて、英語で喋る良い機会になりました。

喋るのが速いときもあったので聞き取るのは大変でしたが、積極的に会話することができました。

また、私のホストマザーは看護を学んでいる学生でもあったので、毎日学校と課題に追われて大変そうでした。しかし、その中で彼女は家事全般をやってくれました。ご飯はもちろん、食器の片付けや掃除、洗濯もやってくれました。

何回も手伝おうとしましたが、マザーはいつも座っていてと言ってくれたので、感謝の気持ちを伝えることは忘れませんでした。





何度かホストマザーが仕事や用事で家をあけることがありましたが、そのときは些細なことですが、それぐらいしか自分のできることがなかったので、シンクに置いてあった食器を洗っておきました。

私は岐阜で家族と一緒に住んでいるので、家事はすべて母がやってくれますが、自分ができることは少しでも手伝って、母がやってくれていることに感謝しなければならなかったと思います。

また、このような貴重な研修に参加させてくれた両親に感謝しなければならなかったと思いますし、この研修での出会いはこれからも大切にしていきたいと思います。

この経験はきっと、将来なにか自分の役に立つと思っています。

この研修に参加できて本当に良かったです。

（今井 紗英子）

最初、私の留学動機は単純なものだった。オーストラリアは日本から近く、留学する上で時期的にも位置的にも良い。暇そうな9月の夏休みを充実して過ごせ、楽しい思い出もたくさんできたらいいなと思っていた。実際、オーストラリアの



文化の中で生活して、とても新鮮な毎日だった。現地で使われる英語はかなり早く、スラングも豊富で、聞き取ることはとても難しかった。しかし、ホームステイ中に通っていた学校の外国人クラスメイトとふれあい、オーストラリアの街の人々とふれあい、英語で話すことがどんどん楽しくなっていった。平日は学校へ通い、休日は友達と自分たちでアレンジして様々な所へ遊びに行き、充実した毎日を過ごすことができた。そして、今でもはっきり分かる、私の心境の変化が確かにあった。それは、まさかオーストラリアに行って知ろうとは想像していなかった、語学とは全く別のことであった。おそらく、このサマースクールなしでは知りえなかったであろう。事実、様々な国から来たたくさんの外国人が、この地オーストラリアで自分たちの夢を実現させるために勉強に励んでいた。

グリフィス大学で私が配属されたクラスには、コロンビア、リビア、サウジアラビア、韓国、中国、台湾、タイなど、様々な国から英語を学びに来た学生がいた。みな20代後半から30代前半の人ばかりであった。私は彼らに、なぜここで英語の勉強をする





のかと尋ねると、
彼らはそれぞれ
違った思いで違っ
た夢を持ってい
た。クラスのリビ
ア人女子学生は、
もとは医学の勉強
をしていた。自国
のみならず、もっ
と幅広く他国でも
活動したいと、英
語の勉強に励んで
いた。クラスのタ

イ人男子学生は、自国で就職したが二年ほどで職を辞めた。しかし、オーストラリアのグリフィス大学本校に入って、自分の本当になりたかった職に就くために、分校であるこのクラスで英語の勉強に励んでいた。さらにサウジアラビアの同い年の女の子は、ゴールドコーストの豪華なマンションで旦那と二人暮らしをしていたが、彼女の持っている幼いころからの夢は、彼女の国の宗教上の理由で絶対実現できないものであった。生活する上では、自分の好きなことを好きなだけして暮らしていた彼女だが、彼女がしきりに嘆いていたのはそのためだった。

私と同じ留学生という立場で、同じ家で一緒にホームステイしていた中国人の一つ上の女の子は、私とうって変わって毎日四六時中勉強していた。中国は人口が多く、競争が激しいのは私も知っていたが、ここまで頑張らなくてはならないのかと思うほどであった。彼女は自分の将来の夢を、中国の競争激化社会で実現させるために、並大抵でない努力をしていた。



そして、私のホストマザー。彼女は日本人であった。要するに、現地のオーストラリア人との国際結婚である。彼女は30代で仕事をやめ、自分が本当になりたい職業の免許を取るためにオーストラリアに赴いた。またそれ以上に、彼女は昔から習っていた英語でもっと話したくて、日本を飛び立ったらしい。最終的に自分の持っていた夢は叶わなかったが、今では結婚して永住権を得て幸せに暮らしている。

こんな自分自身の夢をしっかり持っている人々と関ることができて、会話し、ふれあって、自分自身を改めて客観的に考えることができた。なぜ岐阜大学に入学したのか。なぜこの学部を選んだのか。さらに英語に関して言えば、周囲で“英語が必須”だの“国際社会”だの言われていて、私が今まで英語を勉強するのは、そういった他のものに流されているからにすぎなかった。そして、確かな将来の夢もなく、とりあえず大学へ通って決められたルートに従って、卒業したら就職することだけを考えていた。しかし、オーストラリアで英語を勉強しながら自分の夢を叶えようと必死になっている様々な国のたくさんの人々に出会うことで、自分の将来の夢・いわゆる一生やり続けたいことや、大学で勉強する理由を、サマースクールが終盤に近づくにつれて少しずつ見出すことができた。日本に帰ったら、その夢を実現させるために何でもいいから、何か行動しようと思った。オーストラリアでの経験や、出会った人々のことを思い出して夢の実現のために日々励みたい。そして英語は、できれば一生の趣味として、続けていきたい。サマースクールで、英会話の楽しさを心から感じ取れたからだ。

（庄司 千佳）

2010年度グリフィス大学のサマースクールに参加して、様々な経験をする事ができた。今回は心境の変化をまとめてみる。

海外旅行は何度かしたことがあり、オーストラリアに行ったこともあったが、このような短期留学は旅行とは全く違うなと感じた。現地の人や学校に通っている他国の友達と出会い、その後たくさんの時間を共有し仲良くなっていくことは、一定の期間滞在することができたからこそその経験だと思う。気付いたら英語を勉強としてではなく、素で楽しんで使っている自分がいた。また、最初のうちは外国人の友達と英語で電話やメールをすることが困難に感じ、なるべく避けようと思っていたが、終わりの頃は自分から発信することも少なくなかった。帰ってからもメールで連絡を取り合っている友達もいる。

この一ヶ月間であらゆることに影響を受けたのだが、その中でも最も印象に残っているのは、休日にフレーザーアイランドへ行ったことである。フレーザーアイランドは、世界最大の砂でできた世界遺産の島で、9人のツアーで行った。ガイドさんがオーストラリアの歴史や環境のこと、地学的なことなど沢山のことを教えてくれて、ただ異文化という言葉で済ますのではなく、違う場所で何千年もの年月を越えて今ここにある国がこのように存在しているのだということを身にしみて感じる事ができた。アボリジニーは古くから「すべてのものには意味があって存在している」と考えていたそうで、オーストラリアの偉大な国立公園の中にいると、その考えが手に取るように分かった。地球の偉大さ、宇宙の深さを肌で感じる事ができた。それを通して今の日本や日本の環境を考え直す機会となった。

また、オーストラリアでは、たいていの人が早寝早起きである。夜9時ごろになるとリビングの電気を消して、各自の部屋で過ごす家が多いそうだ。もちろんお店も遅くまでやっているところは少ない。日本だと仕事をしている人などに合わせて夜遅くまでやっているお店もあるが、消費者が環境に合わせて生活しているのだと感じた。

サマースクールの参加者が17人で、もともと私は将来英語で勉強するための第一歩にしようと思った故に参加したが、参加者の中にはいろんな目的を持って来た人がいた。そのメンバーたちと学校が一

緒なので毎日のように会って、一緒に過ごすことが多いため、メンバーと語り合う機会も少なくない。その中で、お互いのことを分かり合ったりする中から、オーストラリアを知ることもあった。その時々で思ったことや感じたことを表現することができ、他の人の考えを知ることもできた。このサマースクールに参加している人々は、何かしらの目的を持ってそのためにお金を使って参加している。その中での交流はとても楽しく、メンバーの中でも影響を受けることは少なくなかった。

私自身の小さな変化の中に、アクティブになったことが挙げられる。今までも決して消極的な方では無かったが、オーストラリア人は積極的でおおらかな人が多いと感じた。どこへ行ってもどのイベントに参加しても、オーストラリア人は全力でその時その時を楽しもうとしているのが伝わってきた。なので、その中で行動的に動いていかないと、何も起きない。何事も積極的に取り組んでいくべきだと思った。この精神を忘れないようにしていきたい。

また、この年代は短期留学に適していると思った。どんなことにも影響を受けやすく、素直に受け入れられる。そのうえで自分と向き合って、それがすぐ将来に結びつく年代だと思う。また、出会いをおそれずに受け入れられる。一ヶ月間でたくさんの人と出会い、たくさんのことがあり、たくさん話をした。どの出会いもとても貴重で一期一会という言葉に身にしみて感じる事ができた。たくさんの良い出会いがあり、どれも私の中で忘れられないものとなった。

今回このように言葉にしてみても、こんな言葉じゃ伝わらないくらい素晴らしい体験が沢山あったのに、伝えられないことをもどかしく思う。すごく繊細で言葉にならないような感情もたくさんあった。そして、ボキャブラリーの少なさを感じ、日本語は曖昧だと感じた。そして、言葉はその国の文化をあらわしているのだと感じた。

この一ヶ月でたくさんの経験ができ、たくさんの発見があり、内面的に成長することができた。サマースクールでの体験によってこれからの自分が新しく形成される経験となったと思う。

（長谷川 晴香）

ソウル産業大学

●韓国 ソウル産業大学参加者名簿（合計5名）

日程：2010年8月2日（月）～8月20日（金）3週間プログラム

	氏 名	学 部	学年
1	田 邊 圭 佑	工学研究科（博士前期課程） 機械システム工学科	2
2	西 村 安香里	地域科学部地域文化学科	4
3	奥 村 令 央	工学部数理デザイン工学科	4
4	伴 弥 穂	教育学部理科教育講座（地学）	2
5	岡 元 友実子	応用生物科学部生産環境科学課程	2



事前研修について

他の参加者と違って、韓国語を勉強したことがない私にとっては、この事前研修のおかげで、サマースクール期間中も問題なく韓国語になじむことができました。

ソウル産業大学からきている交換留学生の学生に先生になってもらい、個々の韓国語のレベルにあわせて、2つのクラスに分かれて行われました。

今年は全10回の事前研修が行われ、私が参加した

初級クラスではハングル文字の読み方から、あいさつと簡単な会話について勉強しました。韓国には何度か行ったことがありますが、今まで全く読めなかったハングルが読めるようになったことは自分自身驚きでしたし、韓国に行った時も文字が読めるだけでこんなに違うのか、と思うくらい情報がたくさん手に入れられてよかったです。

（田邊 圭佑）

授業について

■韓国語

授業は9時から12時までの3時間、2回の10分休みがあります。休み時間は、みんなでお菓子を食ったりお茶をのみながら、ゆったり過ごしました。

日本人、台湾人、チェコ人一緒に13人クラスで授業を受けました。先生はとても親切でゆっくりしたペースで授業をすすめてくださり、英語やジェスチャーを使って話してくれるので、理解しやすく質問もしやすい雰囲気でした。

最初はアヤオヨ（アイウエオ）から始まり、発音や簡単な単語、簡単な挨拶や自己紹介の仕方などを学びました。一方で、13人のうち5人は事前にある程度韓国語を勉強している学生だったので、その学生には違う課題が与えられました。新聞の要約や、演劇の作成、自己紹介文の作成などの課題でした。1、2限目に、初級の学生は先生の授業をうけ、中

級の学生はその間、課題に取り組み、3限目に課題の発表をしたり、みんなで簡単なゲームをしたりしました。

（西村 安香里）

■テンプルステイ

この課外授業が初めての課外授業でした。韓国の仏教寺院に行って、仏教とお茶の作法を学ぶ授業です。お昼ごはんを挟んで、午前は仏教の観念について、午後は仏教の歴史について学びました。

説明は全て簡単な英語で行われたので、理解しやすかったです。その話の中でも、「他人の心は変えられないのだから、自分の心を変えなくてはならない」というお話が印象的でした。また、108個の悪い考えを捨てるために数珠を作るのですが、ひとつの珠をつなげるごとに、立って、ひざまずいて、という動作を108回繰り返して作るの、出来上がっ



た時は喜びも一塩です。

お茶の作法は、中国や日本と似ているところもあり、精神統一の儀式や、会話を楽しむといった要素がありおもしろかったです。ただ、茶器の使い方は難しいので、慎重に進めている間にお湯が冷めないようにするには技術が必要でした。

（田邊 圭佑）

■韓服

韓服はたくさん用意してある中から自分の好きな柄・色を選んできました。着終わったら、すぐにみんな写真撮影！

髪飾りも用意してあったため、髪飾りも自分でチョイス。

この日はすごく暑かったけれど、普段あまり喋っていなかった台湾の学生や、他の学生のバディと写真をたくさん撮れて、とても楽しかったです^^

（伴 弥穂）



■テコンドー

韓国の国技 Taekwondo を体験させてもらいました。蹴りが主体の変った格闘技です。

型と実際に蹴り技を練習しました。蹴り技には色々な種類があり、なかなか深いです。

ソウル産大の Taekwondo サークルの部員さんによる木板割りのパフォーマンスも見せてもらいまし



た。

蹴り技なのでなかなか迫力があります。

（奥村 令央）

■ムービー

“어린 신부（幼い夫婦）”という映画を2回に分けてみました。

先生がプリントにとりどころ対話文を抜き出しておいてあり、映像を止めながら対話文の翻訳をしました。

字幕があったのですが英語の字幕であったために、私の未熟な韓国語力と全然わからない英語で見たこの映画は正直、よく自分だけでは理解できず、結果として先輩に大体の内容を教えてもらうはめになってしまいました…^^；

（伴 弥穂）

■韓国伝統太鼓（ジャング）

韓国の伝統楽器 Janggu を演奏しました。太鼓のバチと違い、握り方が少し難しかったです。

韓国語がしゃべれなくても音楽の世界に壁はないので、心の底から楽しめました。

自然と他の国から参加している人達とも仲良くなりました。こういうのは良いと思います。

最後はみんなで合同演奏しました。

（奥村 令央）

■クッキングクラス, NANTA

この日は学外に出て、一日韓国の料理に関して学ぶ日でした。午前は RINNAI に行き、そこでブルコギとチャプチェという料理を作るプログラムがありました。1グループ6～7人にわかれて、先生が見本を見せてくれるので、それを出来る限り再現す





る形で進んで行きました。それでも出来上がりは各グループの個性が出て、少しずつ味の違うものになりました。

個人的に韓国の料理はとても好きなので、作り方がわかってよかったのと、実際作ってみると、思ったより簡単で日本でも作れそうだと思います。

NANTAは韓国を代表するミュージカルで、ブロードウェイでも公演が行われているほど完成度の高い舞台です。包丁やフライパンを使って、4人のコックと一人の支配人が登場する、料理を題材にした舞台です。NANTAを日本語の意味にすると「乱打」という意味らしく、その言葉に違わぬパフォーマンスでした。

包丁がまな板を打って刻むリズムや、宙を舞う野菜など、目や耳で楽しめるのはもちろんですが、さらにはいい匂いまで漂ってきて、ホントに楽しい時間を過ごせました。そのリズムは韓国の民謡を基礎にできているらしく、決まった法則があるということですが、とにかく私たちはそのリズム感到に圧倒されるばかりで、すぐに時間が過ぎていきます。

客席の中からも、何人か舞台に上がる人がいるのですが、幸運にも私も舞台に連れて行かれて、ショーに参加することが出来ました！そのおかげ？か私のチームが勝利し、拍手をもらった体験は忘れられません。

（田邊 圭佑）

■韓国文化

私は体験授業において、貴重な経験をさせていただきました。陶芸作りでは、皿に絵を描き、好きな造形をそれぞれ一つ作りました。

また伝統的なお面作りもあり、思い思いに色を塗り、最後はお面をつけて写真を撮りました。凧作りはキットで作りましたが、なかなか難しかったで



す。

先生方はどの方も親切で、説明は韓国語か英語なのでわからないときもありましたが、わかる人が互いに教えあい、絆も深まったように思います。あと印象に残ったのはどれも色が鮮やかに装飾されるということです。赤がよく使われているなあと思いました。

さらに民俗村にもバスに乗って出かけました。

韓国の伝統的な家屋や芸能を楽しみました。網渡りのおじいさんや、伝統的音楽のショーもあり、とても楽しいひと時でした。韓服は色鮮やかで簡単に着ることができ、とても印象に残る思い出となりました。

（岡元 友実子）

■ミュージック

とにかく先生が최고（最高）です！！！！

授業の初めはまずみんなで童謡“곰 3 마리（熊3匹）”を歌って踊ります。おかげで“곰 3 마리 [コンセマリ] 現象”という、気づけば“곰 3 마리”を口ずさんでいるという現象が起きるほど、私たちはこの授業が行われるたびに何度も“곰 3 마리”を歌っ



した。みんなとは…私たち、バディ、今年ソウル産業に留学している
岐阜大学生の先輩、昨年岐阜大学に1年留学していた留学生（写真前
頁下）。

⇒これは私の履修



している韓国語の先生がオススメしてくれた一品。
冷麺の汁がなんと！豆乳なのです。

食べる前、少し戸惑いましたが、とてもさっぱり
していておいしかったです。

夏限定のメニューのようで、本当に夏にぴったり
だと思いました。

（伴 弥穂）

生活について

■放課後

午後の授業は大体4時に終わるので、そこからはバディと一緒に遊んだり、自分の友達に会いに行ったり、お酒を飲みに行ったり、スポーツをしたり、ジムに通ったり、勉強をしたり、ソウル観光をしたり、各々自由な時間を楽しみました。

ソウル産業大学はソウルの中心部に行くには少し遠いので、ミョンドンやシンチョン、ホンデに遊びに行くのは時折で、ほとんどは学校の近くで遊びました。

学校内にもスポーツが出来る施設が充実しており、卓球やビリヤード、バドミントンやバレーボールをしました。また、寮の地下にはジムもあり、入会すれば私たちも使用可能なので、そこで運動をしたりもしました。校外へでてボーリングをしたりもしました。

また外食したり、お酒を飲むことを通して、たくさんの韓国料理を知ったし、お酒のマナーも知りました。この時間を通してバディ達と仲を深めることができたと思います。

（西村 安香里）



■週末

週末は2回ありました。一日フリーな日は週末しかないので、貴重な日です。1回目の週末は各自自由に過ごしました。バディー達とソウル観光に行ったり、友達にあったり、学校内でゆっくりすごしたりして各々有意義に過ごしました。2週目の週末はみんなで海に一泊旅行に行きました。バディが計画してくれたもので、サマースクール生だけでなく、他の学校の留学生なども集まり、多国籍なメンバーで行きました。海で泳いだり、バレーをして楽しんだあとはサムギョブサルパーティー（BBQ）をし、お酒を飲んだり、カラオケに行ったり、海辺で花火をしたりとても楽しい一日でした。海辺のコテージで一泊し、二日目は船で島に行きました。船ではカモメにえさをあげる体験が出来、みんなとても楽しそうでした。島には遊園地があり、バンジージャンプやバイキングなど乗り物を楽しみました。帰り道にバディの家にお邪魔して、休憩をしてから学校へと戻りました。ほんとに楽しい旅行で、計画してくれたバディにとっても感謝しています。

（西村 安香里）



■ バディについて

バディの方々についてですが、とても親切な人ばかりでした。日本が好きな人が多く、日本語を教えたりもしました。バディの方々はたくさんいたので、交代で授業や放課後の遊びに参加してくれて、韓国のことをたくさん教えてくれました。

遊びにもいろんなところを案内してくれたので、ソウルをめいっぱい楽しむことができました。また遊びながらもたくさん会話をするので韓国語力は

めきめき上達したように思います。わからない単語は辞書を使うことで語彙力も上がるし、会話もたくさんすることができました。

本当にバディの方々にはたくさんの思い出ができたので、最後は泣いて泣いてつらかったですが、今はパソコンがあるのでスカイプなどで簡単に連絡をとることができます。

1カ月にわたりお世話をしてくれたことには本当に感謝しています。

（岡元 友実子）



★◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 全員の感想 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆★

 私はこのサマースクールに行く1年前から韓国語を習っていて、正直、韓国語には多少の自信がありました。しかし、実際にサマースクールで韓国へ行き、韓国人を目の前にして会話をしてみると全然話せなかったのです。

その大きな原因は完璧に話そうとしすぎて、なかなかすぐに言葉が出てこないことでした。そのために会話中に話が途切れてしまい、やっと言葉が見つかって話そうとするときには、別の子との話が始まっていることが多かったのです。本当に悔しかったです。

ある日、自信が無くなって落ち込んでいた私に、心配して呼び出してくれたオンニがいました。そして「自信を持って。完璧な文でなくても、日本語と韓国語は似ているからだいたい何が言いたいかが分かる。だからゆっくりでいいから話して」と話してくれました。

そのオンニは全然日本語を話せないため、2人の会話手段は韓国語しかありませんでした。なので、仲良くなりたての頃は全然会話が成り立っていませんでした。；けれどいつもオンニは根気よく私の話に耳を傾けてくれ、また、相談にのってくれた日以降は、私が会話中に言葉を詰まらせると口癖のように「ゆっくりでいいから」と言ってくれました。おかげですごく安心して会話ができたし、オンニとの会話はいつも勉強になりました。そしてオンニともっと会話したい、という思いがで、さらに韓国語を頑張りたいと感じました。

以前、韓国語の洪先生に韓国語が楽しくて仕方がない、と話したところ、「楽しいだけではだめだよ。韓国語で苦しんでみて」と言われたことがあります。今回サマースクールで苦しみを感じることがで



き、そして、おかげでさらに韓国語の楽しさを見つけられたと思います。

（伴 弥穂）

 この SNUT Summer School は三週間という短い期間ながらも、実に充実しており、本当に色々な事を私に体験させてくれた。

この program を通して、大きく二つ、私が感じた事がある。一つは異国の文化に触れて思ったことである。

この summer school は韓国の文化を知ることができる event が沢山組まれており、韓国の伝統衣装、裁縫、陶芸、料理、歌、武術などを観せてもらった。それらはとても興味深く、本当に楽しい時間を過ごせた。

しかしそれらの芸能を操る彼らを観る中で「では一体日本人の私は何ができるだろう？」「自分の日本人らしさとは何だろう？」ということを感じるようになった。

なんと外国に行くことで、自分の中の“日本人”の部分が浮き彫りになって出て来た。私は日本に帰ったら、今まで以上に日本人らしくなろうと思うようになった。

こんな貴重な経験や今までと違った心境の変化を私に与えてくれた。

もう一つは、韓国と日本の歴史問題である。この program 中、韓国にいる間、それを感じさせるような事は全く起こらなかったが。

しかし、両国の歴史問題は新聞、ニュースに目を通せば、日本では必ずと言って良いほど触れられているものであり、そのことがこの program 中も私の心にずっと留まっていた。



歴史上どの時代をとって観ても、どこの地域をとって観ても、隣り合う国同士は常に犬猿の仲である。

それは日本と韓国とて例外ではない。

しかしそれは、国と国という巨視的な単位で観た場合であり、global な時代の今、互いの国の国民同士の人と人との交流が増え、こうして同じ時間を共有することで、相手を知り、言語、習慣、文化、様々な back ground は違えど、何を話し、何に笑い、何に喜びを覚え、何に悩み、何に悲しむかといった人としての根幹に全く違いの無い事に気付かされる。

それは両国間の関係を必ずや良い方向に導いて行ってくれるものだと思っている。

私はこの program 中、確かにそれが達成されたように思える。

最後に、私はこの program に参加して本当に良かったと思う。

是非とも、他の岐阜大学の学生の方々にも参加して頂きたい。

（奥村 令央）



私は2年前にもサマースクールに参加し、この大学に来ました。その時は全く韓国語が話せませんでしたが、その時出会った韓国人のバディ達や日本人メンバーのおかげで、一生忘れられない夢のような3週間を過ごしました。それがきっかけとなり、1年間韓国に留学もしました。留学から帰って来て、ある程度韓国語が話せる今、2年前と同じようにサマースクールに参加したら、きっと2年前とは違う感覚で参加できるのではないかと興味を持ち、参加を決めました。実際参加してみて、今年の3週間も私にとって宝物となりました。得た物や感じたことは2年前とは違いましたが、それぞれに良さがあり、参加してほんとに良かったと思います。



ます。2年前に一緒に遊んだバディや留学生にもまた同じ場所で再会し、再会の喜びも味わいました。また新たに友達がたくさんでき、冬にまたみんなで韓国に行こうと計画中です。今年のサマースクールのおかげで、また新たに目標もでき、目標実現のためのモチベーションもあげることができました。私にたくさんのことを学ばせてくれ、人生の転機となった2回のサマースクールは私の中での宝物です。お世話になった先生方本当にありがとうございました。

（西村 安香里）

私がこのサマースクールに参加したのは、自分の専門でもある金型の学科を持つソウル産業大学に行き、そこでの教育・研究を見たかったのと、機会があれば韓国の金型企業を見学したかったからです。

なので、韓国語の勉強をしたことがなく、しっかり勉強したのは事前研修のときが初めてでした。ただ、事前研修がしっかりしていたので、あいさつや基本的な言葉はあらかじめ身につけることが出来たと思います。

ソウル産業大学では金型設計学科の教授に会う事が出来、企業の見学という目的も達成しました。その経験と人脈は今後に活かされると思います。

しかしそれだけでなく、サマースクールの魅力はそんな前もって計画されるようなものではないと思

います。縁あって、私はグリフィスへの派遣・スウェーデンと韓国からの受入のチューター・そして今回の韓国と、3つのサマースクールを体験させていただきました。その全てが新しい発見と、楽しさに溢れ、様々な苦勞と悩みや失敗がありました。

「難の無い人生は無難な人生、難の有る人生は有難い人生」

人とのつながりは、決して楽しいことだけではありません。が、その人たちがいたから今の自分があるのだと考えると、感謝しきれません。

そして、これからもたくさんの苦勞とともに、たくさん感謝する人生にします。

（田邊 圭佑）

私は韓国のサマースクールでたくさんの物や景色、文化、そして人々に会いました。すべての思い出がかけがえのないものです。

またたくさん遊びましたがただ楽しいだけではなく、韓国語をはじめいろいろなことを学びました。

特に印象に残ったのは人々の温かさです。みんなが心からのもてなしをしてくれました。

とはいっても文面だけでは伝えきれない感動があるので、ぜひ直接行って肌で感じてください！

（岡元 友実子）



ソウル産業大学サマースクール修了証書

短期留学（サマースクール）参加者アンケート

グリフィス大学

[アンケート回収結果] 回収者12人／参加者17人中
回収率：71%

1. 先方の大学での研修について（表示の点数は、いずれも平均点を表示）

a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

Writing（200～300語の与えられたテーマについて書く、記事のレポート、語句、文法、手紙・E-mailの書き方、日本の物語、道の尋ね方・教え方、未来形、OZスラングなど）
4.5点（回答数：11）

Reading（新聞記事・E-mail等のリーディング、隣人問題、物語の並べかえ、教科書に沿った問題）
3.8点（回答数：5）

Listening（教科書に沿った問題、絵を見ながら速い英文をCDで聞いて答える、歌、会話の聞きとり、電話でのやりとり、パーティーへの招待）
4.3点（回答数：11）

Speaking（日常会話の練習、学生同士での会話、テーブルで話し合い）
4.4点（回答数：12）

Grammar（過去形、過去進行形、現在完了、日本人には簡単すぎ）
3.0点（回答数：3）

Dictation（英文書きとり）
5.0点（回答数：1）

単語（クラス6はかなり高度な単語でした。）
5.0点（回答数：1）

b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満足度を1～5点で書いてください。

アボリジニ体験、アボリジニ文化についてのレクチャー
4.3点（回答数：3）

ブリスベン見学

5.0点（回答数：2）

動物園（カランビン）

4.0点（回答数：1）

アミューズメントパーク

4.0点（回答数：1）

公園でヨガをした。

4.0点（回答数：1）

Q1（Queensland Number One、日の入りを見た。）

4.0点（回答数：1）

Breakfast BBQなどのパーティー

4.2点（回答数：8）

バイロンベイ（バスでバイロンベイに行き、海で遊び、リラックスした。近くの灯台にも行った。クジラを見ることが出来たし、とてもきれいな景色を見た。）

4.0点（回答数：3）

スノーケリング

5.0点（回答数：1）

ゴールドコーストショー（ゴールドコーストの祭り）

3.3点（回答数：4）

クリケット

2.0点（回答数：1）

c. 先方の受け入れ体制について

1) 生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）

①ホストファミリー

- ・家事（朝食、夕食の準備、洗濯、掃除など）全般
- ・生活面全般をやってくれました。

②受付の女性

- ・ホストファミリーが私と友達と泊まりの旅行に行くのに、学校の許可がないと行ってはいけないと言っていましたが、受付の女性は、18歳以上は学校の許可がなくても旅行に行くことができるとホストファミリーに電話

で説明してくれました。

②カーラ（グリフィス大学の先生）

- ・カーラさんは、1週目のClose Classの担当で、不安だらけで風邪までひいてしまった時に、アドバイスをくれたりした。もちろん授業もおもしろかった。
- ・オーストラリアの文化の説明、ホームステイの仕方、激励、アクティビティの勧誘

2) 勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）

①担任の先生（シェリー、カーラ、カリーン、ブレット、ピーター、ゾエ、ジャッキー、ユタ、リンウエン）

- ・とても楽しい分かりやすい授業
- ・主に授業でお世話になった。それ以外でも、オーストラリアで分からないことがあったら何でも教えてくれた。
- ・ジャッキー先生：2～4週目に授業をしてくれた。
- ・カーラ先生：1週目にいろいろなことを企画してくれた。
- ・カリーン先生：Writingの添削など。授業の先生。
- ・ホストファミリーへの手紙をチェックしてくれた。
- ・丁寧な指導

3) その他で頼りになる人、世話をしてくれる人はいましたか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？何か問題はありましたか？）

①ピオナさん（グリフィス大学のアクティビティ担当）

- ・アクティビティの案内でお世話になった。

②ホストマザー、友達ホストファミリー

- ・学校まで送ってくれた。

③クラスメイト

- ・風邪をひいた時に心配してくれたり、薬をくれたり、英語の説明がわからなかった時に教えてくれたりした。

④デイビット（教頭先生か何か偉い人）

- ・行ってすぐプレイスメントテストがあって、その次の週はみんなで岐大生用のプログラム

のはずだったけれど、私を岐大生用プログラムから外してすぐにGE6のクラスへ入れてくれた。

⑤Jiyoung（韓国からの留学生、一緒にホームステイしていた学生）

- ・英会話（ホストマザーと彼女だけのファミリーだったので）

⑥グリフィス大学の先生

- ・わからないことを丁寧に教えてくれた。

d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週間が適当か記入してください。）

適当 9人

長い 2人

短い 1人

（2週間：1人、3週間：1人、8週間：1人）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する要望等自由に記入してください。

- ・2週目から文法の授業ばかりで少し退屈だった。
- ・夏休みということもあり、日本人ばかりでした。教室内で日本語が聞こえる時、少し嫌でした。
- ・先方は良い環境を提供してくれていました。
- ・ホームステイ先の情報をもう少し早く送ってほしかったです。
- ・プレイスメントテストでGE3になったけれど、授業内容が簡単だった。できればもう1つ上のクラスの内容（文法）で復習したかった。

2. ホームステイについて

部屋の広さ 1部屋 9㎡：1人、13㎡：1人、14㎡：1人、16㎡：1人、20㎡：2人、25㎡：2人

a. 部屋にあった設備を記入してください。

ベッド(ダブルベッドの場合もあり)、勉強机、棚、鏡、パソコン、クローゼット、ソファ、テレビ、暖房、換気扇、電話、洗面台、洗濯物入れ、バスルーム、トイレ、電気スタンド、時計など鍵もかけられる部屋の場合もあり

b. 食事はどうしていましたか？

- ・朝：シリアル(ホスト宅)，昼：弁当とパン，たまに外食，夜：ホスト宅。
- ・朝，昼：自分で作る，夜：ホストファミリーが作ってくれた。
- ・朝と夜はホストマザーまたはホストファザーが作ってくれた。昼は友人とスーパーで買ったり，フードコートで食べたり，レストランへ行った。
- ・朝：自分でトーストを焼いて食べた。昼：自分で買って食べた。夜：ホストマザーが作ってくれた夕食を食べた。
- ・ホストマザーが作ってくれていました。週に1回くらい外食もありました。
- ・朝，晩はホストマザーが作ってくれた。昼は時々，晩ご飯の残りを持たせてくれた。
- ・昼は自分で買い，朝・夜は用意してくれました。
- ・朝：自前のシリアル，昼：フードコートか弁当，夜：ホストマザーの手料理
- ・主にホストマザーが作ってくれた食事を食べた。キッチンにあるものは自由に食べてもいいという家だった。
- ・朝：自分でシリアルやパンを食べた。昼：学校で食べた。夜：ホストマザーが主にタイ料理を作ってくれた。
- ・朝・晩は家，昼は買った。途中から自分でお弁当を作って持って行った。
- ・朝，夕はホームステイ先で，昼はショッピングモールで食べる（ファーストフードが多い）。

c. ホームステイ先での日常生活に関して困ったことがあれば記入してください。

- ・電気代がかかると言って，ドライヤーを禁止された。
- ・水道代がかかると言って，1日だけ夜間，水を止められていた。
- ・シャワーが熱い方と冷たい方とをひねると，ちょうどいい温度にならずに交替で出てくるから，いつも熱い方だけひねって，熱湯で身体を洗っていた。
- ・シャワーが4分だった。
- ・洗濯が週1回くらいしかできなかった。
- ・インターネットが自分の好きな時にできな

かった。学校のパソコンは漢字が文字化けした。

- ・自分で持っていったパソコンが接続できなかったけれど，パソコンを貸してもらえた。
- ・ゴキブリがいた。
- ・風邪をひき，十分な対処がとれなかった。
- ・どこまで自由が許されるのか分からなかった。

d. ホームステイについて良かったこと・悪かったこと，要望など記入してください。

(良かったこと)

- ・子どもがいて，子育ての大変さを知ることができた。
- ・食事が美味しかったし，家族でDVDを見たり，Wiiをやったりたくさんパーティーにも参加して，コミュニケーションがたくさんとれた。
- ・生活や文化を教えてもらえるのがよかった。英語で話す機会が増えるのが良い。
- ・とても住みやすく，ごはんもおいしく，ペットもかわいくていろんなことを話してくれて，毎日楽しかったです。
- ・色んな人とかかわれたこと。
- ・いつも自分のことを気にかけてくれていた。
- ・子どもがいて，夜は毎日遊べて楽しかった。
- ・ホストファミリーと会話したり，オーストラリアのことをいろいろ教えてもらえた点が良かった。
- ・食事や生活習慣の違いを体験することができた点が良かった。
- ・ホームステイ先は，ホームステイの学生を受け入れるのをビジネスにしているみたいで，休日にどこかに連れて行ってくれるとか，外食もなく，留学生が入れかわり立ちかわりしているみたいだった。だから思ったほど仲良くなれなかったけど，料理はおいしいし，夜遅くまで遊んでいてもいいし，洗濯もしてくれて本当に家という感じだった。
- ・ゆっくりと分かりやすく話してくれた。
- ・遊びに連れて行ってくれた。

(悪かったこと)

- ・どこかに連れて行ってもらおうと，子ども中心のため，自分が思うように行動できなかった。

た。

- ・家によっては厳しかったり、フレンドリーでなかったりするみたいである。家でした英会話が一番まともな練習だったのではないかなと思う。
- ・たまに夕食で冷凍食品やファーストフードが出ること。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応も記入してください。

- ・トラブル：風邪をひいたこと。

相談相手：ホストマザー

対応：薬を買いにいつてくれたり、のどあめをくれたり。

4. 所要経費について（平均）

支出総額 512,948円

内 訳

参加費 396,429円（航空費・宿舎費含む）

食 費 24,166円

保険料 23,833円

その他 78,636円

参加費について

高い 3人 適当 8人 安い 0人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・生協からのお金の入金の話をもう少し詳しく話だけでなく、プリントなどで配ってもらえると、なお良かったです。
- ・説明する場が設けられていない場合が多く、事前研修に参加できない人は不安ではなかったのかなと思う。
- ・生協の人から何度か連絡が来たり、留学生センターの方が手配してくれたおかげで、とてもスムーズに手続きできました。
- ・何度かあちこちに書類を出しに行ったりと少し面倒だったけれど、実際のところほとんどの事はやってもらえたので、楽だったと思う。

（出発前の事前研修について）

- ・もう少し詳しく持ち物について教えてもらえ

ると良かったです。

- ・英語のみの授業を出発前に練習できてよかった。
- ・大変良かったと思います。事前研修で学んだことがそのまま現地で使えました！ただ当日空港で初めて会う子もいたので、できればもっと全員が参加するものとなれば、より良かったのではないかなと思います。
- ・楽しかったが、気だるい雰囲気の時もあった。
- ・私はあまり参加できなかったけれど、出発前にある程度お互いの事を知れるのは良いと思った。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・参加して本当に良かったと思う。空気も人も建物も日本とは違っている。毎日が新鮮だった。英語がたつなくても何とかできる。人の温かさをたくさん感じた。中国、韓国、リビア、サウジアラビア、いろんな国の人と交流できた。
- ・大学生活で一生の思い出になるような経験をしたと思ったし、英語をもっと勉強したいと思えるようになるきっかけにしたいと思った。親元を離れて暮らすことで、何か気づくことがあると思ったから、サマースクールに参加した。
- ・見るものすべてが新しく、オーストラリアの文化と日本の文化の違いにとっても刺激を受けた。休日にオーストラリアの観光地にも行って、いろいろ体験することができた。ホストファミリーやパーティーで出会った人にとっても親切にさせていただいて、英語でたくさんしゃべれたのが嬉しかった。ただ、自分の英語力の無さを痛感した。
- ・費用が高いことや英語に対しての苦手意識、海外での生活への不安など、様々なことがあったけれど、帰ってきてみると参加して良かったと心から思いました。考えが前向きになった気がします。
- ・すごく良い経験ができました。いろんな思いを持って集まった17人での1ヶ月で2度と体験できないようなことがたくさんありました。オーストラリアで異文化に触れること

で、今までの常識では考えられないようなことを当たり前と感じるようになったりしました。オーストラリアの大らかさや明るさなど1ヶ月一緒に暮らして分かったことがたくさんありました。

- ・楽しかった。他大学の日本人や学校の授業で同じクラスだった外国人と関れて良かった。
- ・日本を初めて出て、他の国はどうなっていて、どんな人たちがいるのか知ることができて有意義な留学になったと思う。
- ・様々な国の人に出会うことができ、国際的刺激にはとても良い機会になると思う。彼らから他国の文化が学べて、今まで知らなかったことを知ることができ、自分または自国の文化を客観視することができた。
- ・毎日新しいことばかりで、充実した毎日でした。ホストファミリーも優しい人ばかりで、オーストラリアの生活を満喫できました。
- ・本当に楽しかった！世界中の人と友達になったこと、その人たちの家に泊まったり、一緒にビーチやパーティーに行ったりして、異文化に十分に浸れたこと、旅行ではできない思い出でした。将来、海外へ移住したくなりました。
- ・楽しかった。短期で1ヶ月はなかなかできない経験だったから、参加できてよかった。
- ・人生観が変わった。本当に素晴らしい1ヶ月を過ごした。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・初めのうちは早めに帰る（5時を過ぎると暗くなり、降りるバス停がわからなくなる）。
- ・携帯電話を持つ。
- ・クレジットカードは、VISA か Master カードを持っていく。
- ・毎日、どこかに行く。たくさん歩く。写真を撮る。
- ・ぜひサマースクールに参加すると良い。
- ・英語の世界で自分の英語力を試す良い機会です。一生に一度は体験すべきだと思います！行こうか迷ったら、ぜひ行ってほしいです。
- ・オーストラリアに行って、いろいろ体験してきました。何事も積極的に行動した方が

が良いです。とても良い思い出ができます。

- ・思った以上に寒かったです。
- ・悩んでいるなら参加した方がいいと思います。
- ・参加することを決めた人へ：1ヶ月、いろんなことが待っています。旅行では体験できないようなことがたくさんあります。アクティブに向上心を持って臨んでください。
- 迷っている人へ：参加の目的は何ですか？このサマースクールは、いろんな目的を持った人が集まってきます。40万、50万とお金がかかるかもしれませんが、きっとその価値はあります（自分次第ですが…）。
- ・現地で換金しようと思っているなら、毎日レートを確認した方がいいです。
- ・もしお金があるなら、できるだけ多くの場所を訪れてほしい。
- ・日本食や生活用品は大体向こうにあるが、風邪薬やマスク等は向こうにはないので、日本から持ってくるのが無難。
- ・オーストラリアだとは言っても冬は普通に寒いです。去年の先輩が半そでで十分だとおっしゃっていましたが、今年は寒かったです。
- ・個人的な意見ですが、せっかく留学しにきたなら、日本人の友達よりも学校で外国の友達を作って、その人たちと遊びに行ったりした方がいろんな文化に触れることができます。ブラジリアンの人たちはしょっちゅうパーティーを開くので、友達になると楽しいですよ。
- ・携帯はちゃんと使えるものを借りたりして持って行った方がよい。SIMカードはなぜか使えなかった。
- ・文法より単語、ReadingよりListeningとSpeakingが大切。
- ・トランクが20kgを超えても追加料金はとられなかったけれど、たいていの物は買えるので、行きの荷物は少なめにするべき。
- ・オーストラリアでツアーの旅行に行くなら、早めに決めて予約をとっておかないと無理。
- ・換金は日本でして行った方が安い。
- ・授業が昼で終わるので、その後何をするのか自分たちで先に予定を立てて行動してもらいたい。

8. お礼の手紙について

出した（帰る前に渡した場合を含む）9人
 （誰に？ ホストファミリー 10人、一緒に
 ホームステイしていた学生 1人、お世話
 になった近所の方2人、ホストファミリー
 の友人の家族3組 1人）
 出していない 2人

備考

帰る前に手紙を渡しましたが、ホストファミ
 リーにはもう一度手紙を書くつもりです。

ソウル産業大学

[アンケート回収結果] 回収者5人／参加者5人中
 回収率：100%

1. 先方の大学での研修について（表示の点数は、 いずれも平均点を表示）

a. 履修した授業の内容（科目、授業の概要等）と それぞれの満足度を1～5点で書いてくださ い。

基礎韓国語（ハングル文字、あいさつ、新聞
記事要約、発表、物語の製作・発表、プレゼ
ン発表等）

4.2点（回答数：5）

韓国音楽（民謡、流行の曲）

4.2点（回答数：5）

韓国映画（映画鑑賞）

3.8点（回答数：4）

韓国文化（伝統的な遊び、すごろく、礼儀）

4.3点（回答数：4）

ポーチづくり

3.5点（回答数：2）

陶磁器作り

4.0点（回答数：2）

お面作り

3.8点（回答数：4）

たこ作り

4.0点（回答数：3）

楽器演奏

3.7点（回答数：3）

b. 参加したアクティビティの内容とそれぞれの満 足度を1～5点で書いてください。

民族村見学

4.2点（回答数：5）

寺院滞在（尼さんのお話、数珠作り）

4.2点（回答数：5）

NANTA 観劇

5.0点（回答数：3）

料理（チャプチェ、プルコギ）

5.0点（回答数：3）

韓服試着

4.7点（回答数：3）

テコンドー

3.5点（回答数：2）

c. 先方の受け入れ体制について

1) 生活面で世話をしてくれた人は誰ですか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？
 何か問題はありませんでしたか？）

① Sehoon Jung 先生（語学センターの先生）

- ・ソウルの案内
- ・生活に関するマネジメント（寮の延長手続き
など）

② バディ（リーダー Joon さん、全員で16名程度）

- ・授業の世話や放課後の案内など全般
- ・ソウルの案内
- ・通訳、地下鉄の乗り方や道案内
- ・遊びに連れて行ってくれる。
- ・「〇〇が必要なんだけど…」と話せば必ず用
意できる場所に連れていってくれた。

2) 勉強面で世話をしてくれた人は誰ですか？

（その人はどんなことをしてくれましたか？
 何か問題はありませんでしたか？）

① 語学堂の先生方（チョン先生、延世大学・Kim Kyungsun 先生）

- ・丁寧に教えてくれた。クラスを上級と初級に
分けてくれた。
- ・クラスを初級と上級に分けてくれたのはいい
が、先生がひとりだったので、放置される部
分も少しあった。
- ・Kim 先生は、毎回添削（宿題や授業中に書
いた文）をしてくれて勉強になりました。そ
して、いつも「何かあったら、何でもいいか
ら質問してね」と声をかけてくれました。

②バディ

- ・生活でよく使うフレーズを教えてくれた。話
していて、間違っている箇所を直してくれた。

③西村安香里さん

- ・Basic Korean の授業中に聞き取れなかった
部分を説明してくれたり、分からないところ
はすぐ教えてくれました。

3) その他で頼りになる人、世話をしてくれる人は
いましたか？（名前、分ければ役職も答えてく
ださい）

（その人はどんなことをしてくれましたか？
何か問題はありましたか？）

①ソウル産業大学の留学生たち（ヒョン、パク・
テシギ、アジム、ヨセフ、アレク）

- ・一緒に遊んでくれた。
- ・短い間だったが、本当に仲の良い友達になった。

② Won 先生（金型学科の教授）

- ・韓国の企業を見学させていただいた。

③偶然、食堂で出会った人

- ・食堂に初めて行った時、食堂のおばちゃんに
ここの食堂ではないと言われた際に、交渉し
てもらった。

d. 留学期間について（長いまたは短いと答えた人は何週
間が適当か記入してください）

適当 （回答 5 人）

長い （回答 0 人）

短い （回答 0 人）

e. その他授業について困ったこと、先方に対する
要望等自由に記入してください。

- ・英語での授業がほとんどだったので、理解す
るのが難しいときがあった。
- ・英語ばかりで話を進める方がときどきいて、
嫌だった。重要なところは皆に伝わるように
英語を多少使っても良いが、なるべく韓国語
で話してほしかった。

2. 寮について

部屋の広さ 1 部屋 （10畳くらい？）

a. 部屋にあった設備を記入してください。

個室（2 人部屋）：エアコン、勉強机、ベッド、
クローゼット、シャワー、ト

イレ、無線 LAN、内線電話、
バス、トイレ

共用：洗濯機、テレビ、アイロン

b. 食事はどうしていましたか？

- ・朝・昼・夜とも寮の食事が無料でついてくる。
- ・夜は外食する機会が多かった。
- ・寮のすぐ近くにコンビニがあるので、おなか
が空いても大丈夫。
- ・大半は寄宿舎の食堂で食べたが、たまには外
で食べた。
- ・基本は学食で食べていましたが、出かけた
り、誰かに誘われたりしたら、外食した。

c. 寮での日常生活に関して困ったことがあれば記
入してください。

- ・冷蔵庫がなかったので不便。
- ・冷蔵庫がなかったので、ジュースなどの保管
ができなかった。
- ・門限があり、12時になると出入禁止になるの
で、1分でも遅刻したらもう入れないし、逆
に12時を過ぎてから外にでることもできない
ので、外の空気を吸いたいときにも外に出ら
れない。
- ・掃除道具がないこと。同居人がだらしないと
大変…。

d. 寮について良かったこと・悪かったこと、要望
など記入してください。

- ・施設がきれいでエアコンもあり、住み心地が
良かったし、内線電話があるのが助かった
が、門限が厳しい。
- ・インターネットが快適に利用できて良かった。
- ・とてもきれいで住みやすく、快適だった。
- ・食堂の営業時間が短い。そして夜は早すぎる。

3. 生活全般について、トラブルがあればその対応
も記入してください。

なし

4. 所要経費について（平均）

支出総額 176,250円

内 訳

参加費 108,750円（航空費・宿舍費含む）

食 費 27,500円

保険料 6,000円

その他 17,000円

参加費について

高い 0人

適当 3人

安い 2人

5. 出発までの学内の諸手続き、出発前の事前研修について気が付いたこと、要望があれば記入してください。

（学内の諸手続きについて）

- ・学校がすべてやってくれたので、手続きがすごく楽で良かった。
- ・全員で同じ飛行機に乗ることを直前に知らされたので、もっと早く教えてもらえたらとは思った。

（出発前の事前研修について）

- ・とても良かった。
- ・事前研修の内容がサマースクールでの内容より進んでいたためとまどったが、丁寧に教えてもらったので、これはこれでいいと思う。
- ・韓国語の授業をとっている人は別だが、そうでない人はある程度勉強してからの方が良いと思った。

6. 短期留学に参加した感想を自由に書いてください。

- ・私は語学を上達させる為に行ったのだが、このプログラムは本当にそれを助けてくれると思った。それに帰ってきてからでも韓国語の勉強を続けようというモチベーションになった。
- ・想像以上のものを経験することができ、とても充実した日々を過ごすことができました。一生の思い出になるとともに、これからの人生にも活かせると思います。
- ・韓国語の習得も出発前に目標としていたレベルまで到達できたが、学習の必要性をさらに感じた。いろんなトラブルもあるが、それも含めて留学であると思う。
- ・2年前も参加させていただきましたが、今回はプログラムも、バディも、自分の目的も違ったので、2年前とは全く違うサマースクール

となりました。でも今回もすごく貴重な体験ができて、また新たに自分にいい刺激をもらい、これからの目標もでき、本当に参加して良かったと思いました。ありがとうございました。

- ・とにかく楽しくて、充実した3週間でした。自分の韓国語力の無さに改めて気づき、さらに韓国語を熱心に勉強したいと思えました。そして、来年の留学に向けて、モチベーションが一層高まりました。本当に参加できて良かったです。ありがとうございました。

7. 来年の参加者にアドバイスがあれば記入してください。

- ・行く前は少し不安があったけれども、向こうには親切な人ばかりで、hospitality もしっかりしているので、安心してください。
- ・すべての設備も整っていますので、十分楽しい思い出はできるでしょう！しかし、旅行ではないので、語学力をUPさせましょう。それには、辞書を使ってでも一生懸命話すのみ！です。
- ・なにもしないでいるよりも、なにかして失敗したほうが価値があると思います。
- ・韓国語を前もって勉強して行くと、楽しさが倍増すると思います！

そして恐れずに韓国語を使うこと！

まちがってもいいから、とにかく積極的に使って韓国人と会話すること！

一生懸命な姿は伝わるし、上達の一番の早道はやみち！

放課後は時間に余裕があるので、いろんなところに出掛けると、韓国のいろんな面が見られて楽しい！

8. お礼の手紙について

出した 4人

出していない 1人

備考

- ・特にお世話になったバディたちや友達へ。
- ・（手紙は出していませんが、）FACEBOOKやSKYPEで連絡をとっています。

岐阜大学短期留学（サマースクール）担当者一覧

部 局 等 名	氏 名	担 当
留学生交流委員会委員長 国際戦略担当副学長	廣 田 則 夫	総括責任者
留学生交流委員会 副委員長 留学生センター長	小 林 浩 二	副総括責任者・日本事情講義
教育学部	野 村 幸 弘	エクスカージョン引率
地域科学部	牧 秀 樹	会計監査
地域科学部	笠 井 千 勢 ★	エクスカージョン引率
工学部	伊 藤 昭	エクスカージョン引率
応用生物科学部	岩 澤 淳	エクスカージョン引率
保健管理センター	山 本 眞由美 ★	医療担当
留学生センター	太 田 孝 子	派遣コーディネーター・日本事情講義・広報
留学生センター	森 田 晃 一	受入コーディネーター・エクスカージョン引率
留学生センター	橋 本 慎 吾 ★	日本語授業・日本事情講義
留学生センター	土 谷 桃 子 ★	受入コーディネーター・歓送会
留学生センター	吉 成 祐 子 ★	日本語授業・広報

★は、留学生交流委員会委員ではない者を示す。

サマースクール（受入）報告書の編集を担当させていただくのも3回目となります。この3回の間にもサマースクールの実施において様々な工夫や改善がなされていますが、この積み重ねが23回繰り返されていると考えれば、単なる継続だけではなく進歩し続ける岐阜大学のサマースクールと言えるのではないのでしょうか。今年は担当している日本語授業でも教科書を変更したり、プロジェクトワークの活動を導入したりと新しい試みを行いました。サマースクール参加生の授業での様子だけでなく、彼らの感想文やアンケート調査結果を改めて見直すと、試みの手応えとさらなる改善の必要性を感じます。また報告書でも「巻頭言」「プログラムと日程」「総括とアンケート集計結果」に英訳ページをつけたことも新しい試みです。今後はサマースクールの成果を発信することにも改善や工夫を考えていきたいと思います。

今年度の報告書を編集していた12月に、交流協定校の木浦大学を訪問する機会を得ました。木浦大学からは3名の学生がサマースクールに参加していましたが、うち2名（ジウンさん、スンヨルさん）と再会することが出来ました。現在も日本語の勉強を頑張っており、偶然にもその一週間ほど前にスンヨルさんは岐阜大学のサマースクールを木浦大学の学生に紹介し感想を述べるという発表を行ったばかりとのことでした。企画された木浦大学の先生より、「彼の発表から岐阜大学のサマースクールのすばらしさがよくわかりました」とのお話を聞くことができました。またその発表を聞いて、サマースクールに参加したいという学生も多かったそうです。サマースクール参加生が充実した日々をすごした結果が、こうした終了後の様子からもうかがえてうれしく思いました。この流れがいつまでも続くよう、進歩する岐阜大学サマースクールであり続けたいと思います。（よ）

今年のサマースクールは（派遣）は、オーストラリアのグリフィス大学に17名、韓国のソウル産業大学に5名、計22名が参加した。グリフィス大学への17名の参加は過去最大であり、ソウル産業大学は割り当て枠5名の参加者であった。学年歴が8月第一週まで延びたため、日程の関係上、今年は韓国の木浦大学への参加者はいなかった。

グリフィス大学には、これだけの人数をはたして受け入れてもらえるか不安だったが、快く受け入れていただき、ホームステイ先の確保だけでなく岐大生向けの講義も設けていただいた。初めての海外生活を体験した学生も多かったようだが、報告書には戸惑い、悩みながらもそれぞれに有意義な日々を作り出そうと努力した姿が記されており、サマスク実施の意義はクリアできたものと先ずは安堵している。特に「心境の変化」という項には、四人の学生の変化の過程と決意が詳しく綴られており、読んでいて嬉しかった。

ソウル産業大学へは、第1回のサマスクに参加し、その後、私費で1年間韓国に留学した学生が再参加してくれた上、短期交換留学予定者2名が参加するなど意欲的な学生が多く、ハングル語研修の時から熱心だった。まとまりのあるグループで安心して送り出すことができ、帰国後も揃って報告に来てくれた。ここ数年、岐阜大学の中に静かに起こっている「韓流ブーム」が、末長く続くことを願っている。ソウル産業大学は今年が100周年の記念の年であり、参加者は写真にあるような立派な修了証書をいただいた。なお、同校は、2010年9月1日より「ソウル科学技術大学」と校名が変更された。

サマースクール実施の陰には、語学研修の講師を引き受けてくれた留学生たち（英語：ホリーさん、スティーブン君、ウィリアム君、ダグラス君、ハングル：宗君、朴君）、留学生支援室の若井仁美氏、近藤佳代氏、生協の笹木英之氏の協力があった。また、本報告書の編集・校正では粥川美重子氏に大変お世話になった。私と同様、学生たちには「先ずはもっとちゃんとした日本語が書けるよう勉強してほしい」と感じたに違いないが、関与した全ての人々が、学生たちにサマスクの体験を活かし、有意義な学生生活を送ってほしいと願っていることを付記しておきたい。（お）

岐阜大学夏期短期留学

サマースクール2010報告書

〒501-1193	岐阜市柳戸 1-1
発行年月日	2010年12月
発 行 者	岐阜大学
電 話	058-293-3392
F A X	058-293-2143
印 刷	西濃印刷株式会社



Gifu University International Student Center - Gifu University International Student Center

